

設ケタルモノナリ第二項ハ舊刑法第四百十五條ヲ修正シタル規定ニシテ舊刑法ニハ覆没ノ方法ヲ例示スト雖モ前已ニ詳述スル如ク本法ニ於テハ例示ノ方法ヲ採ラサル方針ナルヲ以テ之ヲ削除シ新ニ破壊ヲ加ヘタリ蓋シ覆没ト破壊トハ危険ノ程度ニ於テ異ナル所ナキヲ以テナルヘシ而シテ何レモ人ノ現在スル場合ニ限リタルハ本章ノ罪ハ往來ヲ妨害スル場合ノ規定ナレハナリ

本條ニ付テハ左ノ學說アリ著作ノ趣旨ニアラサルモ解釋ノ便宜上左ニ摘録スヘシ

汽車ニ付テハ官有私有ノ區別ナク線路鐵軌標識ノ損壞其他機關車ノ一部ヲ損スル等凡テ危険ナル障礙ヲ生シタルトキハ之カ爲メ汽車ノ不通又ハ轉覆等ノ結果ヲ生シタルヲ俟タス本罪ノ既逐トナル明治三十三年法律第六十五號鐵道營業法第二十三條以下參看

艦船ニ付テハ舊刑法第四百十五條ニ於テハ其大小行爲ノ場所等ヲ示サス止タ人ヲ乗載シタル艦船ナルコト覆没ノ行爲アルトキハ直チニ死刑ニ處

スルノ法制ナリシヲ以テ適用上種々ノ疑問ヲ生スヘシト雖モ覆没セラレタル船中死亡者ナキトキハ無期徒刑ニ處スヘキ但書ノ規定アリシ爲メ苟モ人命ニ危険アル場合ニ限リ場所及ヒ方法ノ如何ヲ問ハス該條ヲ擬スヘキモノナリトノ解釋ヲ生セリ本法ニ於テハ第二百二十六條第三項ニ於テ明ニ人ヲ死ニ致シタル場合ニ限リ死刑又ハ無期懲役ニ處スヘキ旨ノ規定アルヲ以テ人命保護ノ精神ニ出テタルモノナルコト益々明確ナリトス

本條ニ規定スル覆没ナル語ハ轉覆又ハ沈没ヲ意味スレトモ必スシモ二個ノ結果ヲ併セ生シタルコトヲ必要トセス而シテ轉覆又ハ沈没ノ結果ヲ生セシメタル行爲自身ニ付テハ法文上別段ノ制限ナキヲ以テ其方法手段ニ付テハ何等ノ區別ナシ

本條ノ規定ニ依レハ舊刑法第四百十五條ト唯文字ヲ異ニシタルト手段ニ付キ例示ノ方法ヲ削除シタルト破壊ノ行爲ヲ加ヘタル外其趣旨ニ付テハ別ニ異ナル所アルヲ見ス從テ人ヲ乗載セル艦船ヲ故意ニ覆没シ又ハ破壊シタルトキハ船中ニ於ケル死亡ハ故意ニ出ルコトヲ必要トセス苟モ故意

ニ船舶ヲ轉覆シ船中死亡者ヲ生シタルトキハ彼ノ數千人ヲ容ルルニ足ル
 一大艦船ナルト單ニ一人ノ外乗船スルコト能ハサル小船ニ係ルト又場所
 ノ關係ニ於テモ大海ニ於テスルト漸ク膝ヲ沒スルニ足ル小川ニ於テスル
 トヲ問ハス苟モ人命ニ實害又ハ危險ヲ伴フ以上ハ本條ニ依リテ處斷セサ
 ルヘカラサルノ結果其處分餘リニ狹ニ失スル非難ナキニアラサルモ本條
 ニ於テハ人ヲ死ニ致シタル場合ニ於テモ尙死刑ト無期刑トノ擇一刑ト爲
 シタルヲ以テ舊刑法ニ於ケル學者ノ批難ハ幾分之ヲ匡正スルコトヲ得ヘ
 シ

第二百二十七條ハ舊刑法第六十九條第二百二十八條ハ舊刑法第七十條ト同
 一趣旨ノ規定ニシテ別ニ説明ノ要ヲ見ス

第二百二十九條ハ新ニ設ケタル規定ニシテ過失ニ因リテ第二百二十五條等ニ記
 載シタル結果ヲ生シタル場合ハ舊刑法ニ缺如スル所ナルヲ以テ本法ハ本條
 ニ於テ之ヲ補充セリ蓋シ此種ノ犯罪ハ必スシモ故意ノ場合ノミニ限ラス過
 失ニ因リテモ尙且結果ヲ生スルヲ以テ往來ノ安全ヲ保護スル必要上處罰ヲ

要スルコトヲ認メタルモノナルヘク而シテ其第一項ハ常人ノ犯シタル場合
 ニ關シ其第二項ハ業務ニ従事スル者ノ犯シタル場合ニ關スル規定ナリトス
 常人ノ犯シタル場合ト業務ニ従事スル者ノ犯シタル場合ニハ刑罰ニ於テ著
 シク相異ナレリ法律ノ前ニ平等ナル主義ヲ採用スト稱セル本法ニ於テハ頗
 ル異様ノ感ナキニアラサレトモ其衝ニ當ル業務ニ従事スル者ニ在テハ責任
 極メテ重大ニシテ頗ル常人ト異ナル所アルヲ以テ特ニ之ヲ殊別シタルモノ
 ナルヘシ

本條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル場合ニ付テハ法文別ニ規定スル所
 ナキヲ以テ第二十八章過失傷害罪ノ規定ニ依リ處分スヘキモノナリト雖モ
 其行爲ハ一個ナレハ總則第五十四條ノ適用ヲ受クヘキハ勿論ナリトス

第三百十條 故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若
 クハ艦船ニ侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサル
 者ハ三年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百三十一條 故ナク皇居、禁苑、離宮又ハ行在所ニ侵入シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス
神宮又ハ皇陵ニ侵入シタル者亦同シ
第三百三十二條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第一 沿革

第一案 第三百四十六條 故ナク人ノ家宅ニ侵入シ制止ヲ受ケテ退去セサル者ハ十一日以上二月以下ノ有役禁錮ニ處ス
左ニ記載シタル情狀アル者ハ制止ヲ受ケサルトキト雖モ仍ホ本刑ニ處ス
一 犯人潜伏シタルトキ
二 家人又ハ看守人ノ不在中犯シタルトキ
第三百四十七條 人ノ家宅ニ侵入シタル者左ノ情狀アルトキハ一月以上六月以下ノ有役禁錮ニ處ス

- 一 門戶、牆壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キテ入りタルトキ
- 二 兇器其他犯罪ノ用ニ供ス可キ物品ヲ携帯シテ入りタルトキ
- 三 暴行脅迫ヲ爲シテ入りタルトキ
- 四 二人以上ニテ入りタルトキ
- 五 夜間入りタルトキ

第三百四十八條 故ナク皇居、禁苑、離宮又ハ行在所ニ侵入シタル者ハ前二條ノ刑ニ各一等ヲ加フ

第二案 第三百五十三條 故ナク人ノ住居又ハ看守シタル邸宅、建造物若クハ船舶ニ侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
若シ左ニ記載シタル情狀アルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス
一 夜間ナルトキ
二 門戶、牆壁其他ノ外圍ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キタルトキ
三 兇器ヲ携帯シタルトキ

四 暴行脅迫ヲ爲シ又ハ偽計ヲ用ヒタルトキ
五 二人以上ナルトキ

第五百五十四條 故ナク皇居、禁苑、離宮又ハ行在所ニ侵入シタル者ハ
五年以下ノ懲役ニ處ス

皇陵ニ侵入シタル者亦同シ

第五百五十五條 本節ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第五百五十六條 本節ノ罪ヲ犯シ懲役ニ處ス可キ者ニハ監視ヲ付ス
ルコトヲ得

第三案

第五百五十二條 故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守シタル邸宅、建造物若
クハ艦船ニ侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサル者ハ
三年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五百五十三條 第二案第五百五十四條ニ同シ

第五百五十四條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第五百五十五條 第二案第五百五十六條ニ同シ

第四案

第五百五十一條 第三案第五百五十二條ニ同シ

第五百五十二條 故ナク皇居、禁苑、離宮又ハ行在所ニ侵入シタル者ハ
五年以下ノ懲役ニ處ス

神宮又ハ皇陵ニ侵入シタル者亦同シ

第五百五十三條 第三案第五百五十四條ニ同シ

第五百五十四條 第二案第五百五十六條ニ同シ

第二 參照法律

佛蘭西刑法

第八十四條 行法或ハ司法ノ官吏及其他裁判或ハ警察ニ管スル官吏又
ハ兵ノ指揮官其職務ヲ以テ事ヲ處置スルニ當リ法律ニ定メタル場合ノ
外法律上ニ規定スル所ノ法式ニ循ハスシテ人民ノ意ニ逆ヒ其住所ニ入
リタルトキハ六日ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處
セラレ且十六「フランク」ヨリ少ナカラス五百「フランク」ヨリ多カラサル罰
金ノ言渡ヲ受ク可シ但シ此條ニ記スル所ヲ以テ第八十四條ノ第二項ニ

記スル所ノ差支トナルコトナカル可シ
何人ニ限ラス脅迫暴行ヲ以テ人民ノ住所ニ入りタル者ハ六日ヨリ少カ
ラス三月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且十六フランクヨリ
少ナカラス二百フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

白耳義刑法

第四百三十八條 行政司法警察兵部ノ諸官吏法ニ戻リ允許ナクシテ家主
ノ許諾ヲ得ス人家ニ入ル者ハ八日ヨリ六月マテノ囚獄ニ處シ且二十六
フランクヨリ二百フランクマテノ罰金ニ處ス可シ

第四百三十九條 官命ニ非ス又國法ノ許ス所ニ非スシテ家主ノ承諾ヲ待
タス恐喝若クハ暴行若クハ墻戸ヲ破壊超越シ或ハ偽鑰ヲ以テ常人ノ居
家住屋及ヒ其附屬ノ所ニ入ル者ハ十五日ヨリ二年マテノ囚獄ニ處シ二
十六フランクヨリ三百フランク迄ノ罰金ニ處ス可シ

第四百四十條 官命ヲ偽ハリ官服ヲ着シ官吏ノ姓名ヲ詐稱シ或ハ夜間ノ
所業ニ二人以上ノ所行兇器ヲ持スル所行ノ三事ヲ兼ネ前條ノ罪居家住

居ニ入ルヲ犯ス者ハ六月ヨリ五年迄ノ囚獄ニ處シ一百フランクヨリ五
百フランクマテノ罰金ヲ科シ且第三十三條ノ奪權ニ處シ五年ヨリ十年
マテノ監禁ヲ受ケシムルコトアツ
第四百四十二條 所有主及ヒ親居人ノ承諾ヲ請ハス第四百三十九條ニ記
載スル家屋等ニ入り夜間人ニ認メラルル者ハ十五日ヨリ二年マテノ囚
獄ニ處シ二十六フランクヨリ三百フランク迄ノ罰金ヲ科ス可シ

獨乙刑法

第二百二十三條 他人ニ屬スル住所職業場園内又ハ公益ノ爲メニ設ケタル
場所ヲ非理ニ押入ル者又故ナク其内ニ滞リタルニ因リ其權アル人家主
地主及ヒ官吏ヲ云フヨリ其地ヲ退去ス可ク催スト雖モ退去セサル者ハ
人家ヲ害スルノ罪ト爲シ三月以下ノ禁獄又ハ百ターレルヨリ多カラサ
ル罰金ニ處ス可シ但訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
若シ兵器ヲ持シ且ツ多人數ニテ其罪ヲ犯シタルトキハ一週日ヨリ二年
ニ至ル禁獄ニ處ス可シ

第二百二十四條 人ノ身體物件ニ害ヲ爲サン爲メ多人數公然ト徒黨ヲ爲シ且ツ非理ニ人ノ住所職業場園内及ヒ公益ノ爲メニ設ケタル場所ニ侵入シタル者キ其事ニ與ミシタル者ハ皆一月以上二年以下ノ禁獄ニ處ス可シ

英吉利刑法典

一 勢力ヲ用ヒ強逼恐嚇シテ人ノ家屋土地内ニ侵入シ或ハ之ヲ強占スル者ハ輕罪ト爲シ贖金及囚獄ニ處ス可シ
二 晝間人ノ家屋倉庫舍店等ヲ破壞シテ侵入シ因テ重罪ヲ犯シ或ハ已ニ内ニ在テ重罪ヲ犯シ後破壞シテ脱出スル者ハ並ニ五年ヨリ十四年ニ至ル徒刑ニ處シ或ハ囚獄ニ處ス可シ
三 夜間家屋ヲ破壞ス可キ器具ヲ携ヘ或ハ面貌ヲ塗り容體ヲ變シ人ノ家屋内ニ入ル者ハ輕罪ト爲シ五年ノ徒刑ニ處シ或ハ二年ニ過キサル囚獄ニ處シ若クハ苦役ヲ加フヘシ
若シ再犯スル者或ハ前ニ重罪ヲ犯セシ後此罪ヲ犯ス者ハ並ニ十年ニ至

ル徒刑ニ處シ或ハ囚獄ニ處シ若クハ苦役ヲ加フルコトアル可シ
一 強盜謀殺強姦等ヲ犯サントスル目的ヲ以テ夜間人ノ居住スル家屋塙掘門窓等ヲ破壞シテ侵入スル者ハ重罪ト爲シ五年ヨリ終身ニ至ル徒刑ニ處シ或ハ二年ニ止ル囚獄ニ處シ若クハ苦役及ヒ監牢ヲ加フ
若シ已ニ内ニ在テ重罪ヲ犯シ後破壞シ脱出スル者及ヒ一時家内ニ人ナク或ハ止タ窓戸ヲ排擠シ鎖鑰ヲ解脱シ若クハ闕ヲ越ヘ或ハ止タ手ヲ入ル者ト雖モ皆同シ
二 宮社寺院等ヲ破壞シテ侵入シ内ニ於テ重罪ヲ犯ス者ハ神位ヲ侮辱スル罪ト爲シ夜破入人家屋律ト罪同シ
若シ未タ内ニ在テ重罪ヲ犯ササル者ハ二年ニ過キサル囚獄ニ處シ或ハ七年ニ止ル徒刑ニ處ス可シ

奧太利刑法

第八十三條 多人數ニテ威力ヲ用ヒ他人ノ不動産中ニ侵入シ其所有ノ權利ヲ安全使有スルヲ妨碍シ或ハ一人ト雖モ兵器ヲ携ヘ他人ノ家屋内ニ

侵入シ其家主若クハ家族或ハ他ノ財産ニ對シ暴行ヲ加ヘシ者首謀ハ一年以上五年以下ノ重徒刑其他ノ者ハ六月以上一年以下ノ輕徒刑ニ處ス可シ

第三百三十一條 官吏家權保護律ニ背キ人ノ家屋内ニ擅ニ入り探索ヲ爲ス者ハ惡意ニ出ツルニ非スト雖モ違註罪ト爲シ三日以上一月以下ノ禁獄ニ處ス可シ

魯西亞刑法

第二千三十二條 人ヲ侮辱シ或ハ恐嚇スル目的ヲ以テ其住所ニ暴入スル者家主或ハ家專擔當者ヨリ告訴アルトキハ三週以上三月以下ヲ禁錮ノ刑ニ處セラル可シ若シ醉狂ニ出ツルカ或ハ侮辱恐嚇ノ目的ニ係ラサルトキハ七日以上三週以下ノ禁錮ノ刑ニ處セラル可シ
第二千三十三條 暴行ヲ以テ他人ノ住所ニ入り暴辱ヲ加ヘントキハ懲治場ノ刑ニ處ス但シ其期限ハ情狀ニ依リ第五十三條ニ記載スル權利ヲ剝奪シテ一年以上二年以下ト爲シ或ハ單ニ六月以上一年以下ト爲ス其他

被害者ニ對シ第六十一條ニ掲クル如ク赦免ヲ請ハシム可シ
又被害者之ヲ望ムトキハ第二千八條ニ從テ榮譽損害ノ償ヲ爲サシム可シ

埃及刑法

第三百三十四條 諸般ノ官吏司法官吏公ケノ兵力ヲ預ル官吏其役柄ヲ以テ法律上ニ定ムル場合ノ外定則ヲ遵守セス人民ノ意ニ反キ強テ其住所ニ押入りタルトキハ六月ヨリ少カラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ
然レトモ右ノ官吏其上等官吏ノ命ニ因リ之ヲ爲シタルノ證ヲ立ツルトキハ其刑ヲ免カレ其命ヲ下シタル上等官吏ヲ右ノ刑ニ處スヘシ
官吏ニ非サル者脅迫暴行ヲ以テ人ノ住所ニ押入りタルトキハ一週ヨリ少ナカラス六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

印度刑法

第四百四十一條 所有主ヲ恐嚇損傷煩苦セシメシトテ目的トシテ人ノ

所有ニ係ル家屋土地等ニ侵入シ又ハ法律ニ循テ人ノ家屋土地内ニ入りタル後所有者ヲ恐嚇損傷煩苦スルコトヲ圖リ之ヲ振留シテ去ラサルモノヲ侵入罪ト云フ

第四百四十二條 住居ニ用フル建物天幕若クハ船舶又ハ倉庫等ニ入ル者モ侵入家屋罪ト云フ證明犯人ノ身體一部分侵入スルヲ以テ侵入家屋罪ヲ成スニ充分ナリトス

第四百四十三條 所有主ニ知ラレサル爲メ用意ヲ爲シテ竊ニ侵入家屋罪ヲ犯ス者之ヲ竊入家屋罪ト云フ

第四百四十四條 日没後日出前竊入家屋罪ヲ犯ス者ヲ夜竊入家屋罪ヲ犯スト云フ

第四百四十五條 左ニ掲クル六個ノ方法ヲ以テ家屋又ハ家屋ノ一部分ニ侵入シ或ハ犯罪ノ爲メニ之ヲ留居シ或ハ罪ヲ犯シタル後之ヲ退去スル者之ヲ破入家屋罪ヲ犯スト云フ

第一 侵入家屋罪ヲ犯スカ爲メニ自己又ハ共力者ノ作りタル路ニ由テ

進入シ又ハ退去ス

第二 自己又ハ共力者ノ外路ト爲ササル路ニ由リ又ハ塙塙ヲ攀越シテ達シタル路ニ由テ進入シ又ハ退去ス

第三 侵入家屋罪ヲ犯スカ爲メニ家屋主ノ欲セサル方法ヲ以テ自己又ハ共力者ノ開キタル路ニ由テ進入シ又ハ退去ス

第五 侵入家屋罪ヲ犯スカ爲メニ或ハ侵入家屋罪ヲ犯スノ後家屋ヲ退去スルカ爲メニ鎖鑰ヲ推開テ侵入シ又ハ退去ス

第五 カヲ用ヒ襲撃ヲ行ヒ又ハ襲撃ヲ以テ人ヲ脅カシテ進入シ又ハ退去ス

第六 進入又ハ退去ヲ拒ク爲メニ鎖サレタルヲ知リ或ハ自己又ハ共力者ノ開ク處ナルヲ知テ其路ニ由テ進入退去ス

第四百四十六條 日没後日出前破入家屋罪ヲ犯ス者ヲ夜破入家屋罪ヲ犯スト云フ

第四百四十七條 侵入罪ヲ犯ス者ヲ三個月ニ止ル各種ノ囚獄若クハ五百

第四百四十八條 侵入家屋罪ヲ犯ス者ハ一年ニ止ル各種ノ囚獄若クハ一千ルビトニ過キサル贖金ニ處シ又ハ囚獄贖金ヲ併科ス

第四百五十三條 竊入家屋罪或ハ破入家屋罪ヲ犯ス者ハ二年ニ止ル各種ノ囚獄ニ處シ且ツ贖金ヲ科ス

第四百五十六條 夜竊入家屋罪ヲ犯シ若クハ破入家屋罪ヲ犯ス者ハ三年ニ止ル各種ノ囚獄及ヒ贖金ニ處テ可シ

第四百六十條 數人共ニ夜竊入家屋罪若クハ夜破入家屋罪ヲ犯シ其一人人ヲ重傷シ或ハ人ヲ殺シ又ハ此事ヲ試ル者ハ皆終身流刑若クハ十年ニ止ル各種ノ囚獄ニ處シ且ツ贖金ヲ科ス

和蘭刑法

第三百三十八條 不法ニ人ノ住スル邸宅園障内ニ侵入シタル者又ハ不法ニ前記ノ場所ニ在リテ權利者又ハ權利者ヨリ督促ヲ受ケ直チ立去ラサル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ三百フロラン以下ノ罰金ニ處ス

損壞又ハ踰越ヲ爲シ又ハ偽鑰虛偽ノ命令又ハ虛偽ノ制服ヲ用キ因テ以テ前記ノ場所ニ立入りタル者又ハ夜間安眠ニ充テラレタル期間内ニ權利者ノ不識ニテ且過誤ニ出テ前記ノ場所ニ立入りタル者ハ其場所ニ侵入シタル者ト看做ス

若シ犯人脅迫ヲ行ヒ又ハ畏懼ノ念ヲ生セシムヘキ方法ヲ用キタルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

第一項及ヒ第三項ニ掲ケタル刑ハ三人若クハ數人ト共謀シテ犯罪ヲ爲シタル場合ニ於テ其三分ノ一ヲ加重スルコトヲ得

(原註)本條ハ基本法律第五十三條ニ刑事上ノ制裁ヲ與フルモノナリ

第三百三十九條 不法ニ公用ニ供スル場所ニ侵入シタル者又ハ不法ニ右ノ場所ニ在リテ當該吏員ノ督促ヲ受ケ直チ立去ラサル者ハ三月以下ノ禁錮又ハ三百フロラン以下ノ罰金ニ處ス

損壞又ハ踰越ヲ爲シ又ハ偽鑰虛偽ノ命令又ハ虛偽ノ制服ヲ用ヒ因テ以テ前記ノ場所ニ立入りタル者又ハ夜間安眠ニ充テラレタル期間内ニ當

該吏員ノ不識ニテ且過誤ニ出テスシテ右ノ場所ニ立入りタル者ハ其場所ニ侵入シタルモノト看做ス
若シ犯人脅迫ヲ行ヒ又ハ畏懼ヲ念ヲ生セシムヘキ方法ヲ用ヒタルトキハ一年以下ノ禁錮ニ處ス
第一項及ヒ第三項ニ掲ケタル刑ハ二人若クハ數人共謀シテ犯罪ヲ爲シタル場合ニ於テハ其三分ノ一ヲ加重スルコトヲ得

那威刑法

第四百七條 闖入ノ防禦ニ供スル物件ヲ損壞シ又ハ合鍵、偽造鍵又ハ權限ナクシテ占有セル真正ノ鍵ヲ使用シテ權限ナクシテ家宅、船舶、鐵道列車又ハ列車内ノ部屋又ハ閉鎖セル中庭又ハ類似ノ被保管場又ハ居住場ニ侵入シ又ハ他人ヲシテ侵入セシメタル者又ハ其協力者ニハ闖入ノ爲メ二年以下ノ禁錮ヲ科ス。武装シ又ハ數人共同シテ罪ヲ犯シタルトキハ二年以下ノ禁錮ヲ科ス。又ハ強迫ノ行動ニ依リ此種ノ場所ニ對スル侵入又ハ無權限ノ滯留狂暴又ハ強迫ノ行動ニ依リ此種ノ場所ニ對スル侵入又ハ無權限ノ滯留

ヲ強要シ又ハ他人ヲシテ強要セシメントシタル者又ハ進入ノ目的ヲ以テ住宅又ハ夜間通常閉鎖セラルル部屋ニ違法ニ潛行シタル者又ハ制服ヲ假裝シ又ハ濫用又ハ妄用セル公ノ資格又ハ位記ヲ僞稱シ又ハ虛偽ノ文書又ハ他人ニ關スル文書ヲ使用シテ此種ノ家宅又ハ場所ニ於テ無權限ノ侵入又ハ無權限ノ滯留ヲ爲シ又ハ他人ヲシテ爲サシメタル者又ハ其協力者ニハ同一ノ刑ヲ科ス

埃太利刑法草案

第四百一條 何人タリトモ第四百一條ノ場合ノ外人身又ハ物件ニ對シテ暴行ヲ行ハシカ爲メ公用ニ供スル圍繞ノ場所又ハ他人ノ家宅住所又ハ職業場又ハ之ニ屬スル防圍ノ場所ニ出入シタル者ハ家安妨害トシテ二年以下ノ禁錮ヲ以テ處刑セララルモノトス
武器ヲ携帯シテ此ノ所爲ヲ行ヒ又ハ實際暴行ヲ加ヘタルトキハ一月ヨリ少ナカラサル禁錮ヲ科スルモノトス

第四百二條 左ノ者ハ家權毀損ノ罪アルモノトシテ二月以下ノ禁錮又

五百以下ノ罰金ヲ以テ處刑セラルルモノトス
第一、何人タリトモ暴行ヲ行フノ目的ナク他人ノ場所(第四百四十二條)へ不法ニ立入りタル者

第二、何人タリトモ權利ヲ侵シテ其内ニ止リ權利者ノ督促ヲ受クルモ立去ラサル者

武器ヲ携帶シ又ハ多人共同シテ此ノ所爲ヲ行フキハ六月以下ノ禁錮ヲ科スルモノトス

瑞西刑法典案

第九十三條 不當ニ家宅又ハ之ニ附屬スル圍障地又ハ居住ニ侵入シタル者又ハ權利者ノ明示ノ意思ニ反シ上述ノ場所ヲ去ラサル者ニハ申請ニ依リ禁錮又ハ一千フラン以下ノ罰金ヲ科刑ス

唐律

諸夜無故入人家者笞四十主人登時殺者勿論若知非侵犯面殺傷者減闕殺傷

二等已就拘執而殺傷以闕殺傷論至死者加役流

諸闕入大廟門及山陵兆域門者徒二年

越垣者徒三年大社各減一等守衛不覺減二等主師又減一等故縱者與同罪

諸闕入宮門徒二年殿門徒二年半持仗者各加二等入上閣內者絞若持仗及至御在所者斬

即闕入御膳所者流三千里入禁苑者徒一年諸闕入者以踰闕爲限至闕未踰者

宮門仗八十殿門以內遞加一等諸於宮殿門無籍及冒承人名而入者以闕入論

守衛不知冒名情宮門杖八十殿門以內遞加一等

諸於宮殿門強有籍者不得夜出入若夜入者以闕入論無籍入者加二等即持仗入殿門者絞夜出者杖八十

明清律

凡夜無故入人家內者杖八十主家登時殺死者勿論其已就拘執而擅殺傷者減

闕殺傷罪二等至死者杖一百徒三年

凡擅入太廟門及山陵兆域門者杖一百太社門杖九十未過門限者各減一等守

衛官故縦者各與犯人同罪失覺察者三等凡擅入皇城午門東華西華玄武門及
禁苑者各杖一百擅入宮殿門杖六十徒一年擅入御膳所及御在所者絞未過門
限者各減一等若無門籍冒名而入者罪亦如之
若於宮殿門雖有籍至夜皆不得出入者杖一百出者杖八十無籍入者加二等若
持仗入殿門者絞

第三 釋義 本章ハ舊刑法第二編第三章第七節ニ少シク修正ヲ加ヘタルモノ
ナリ

本章修正ノ要點ハ第一舊刑法ノ規定狹隘ニ失シ住所ノ安寧ヲ十分ニ保護ス
ルニ足ラサルヲ以テ稍其規定ヲ補充シ第二本法カ刑ノ範圍ヲ擴張セル結果
舊刑法ノ如ク特ニ加重ノ情狀ヲ列記スルノ必要ヲ減シタルヲ以テ全部削除
シタルニ在ルモノノ如シ
本罪ハ權利ナクシテ法文ノ列舉シタル場所ニ侵入スルカ又ハ要求ヲ受ケテ
其場所ヨリ退去セサルニ因リ成立ス史ヲ案スルニ羅馬法及ヒゲルマンノ古
代ノ風俗若クハ法則ヲ見ルニ當時ノ人民ハ人ノ住所ハ自己ノ守護神ノ堂宇

ナリト信スルモノノ如シ故ニ安ニ他人ノ住所ヲ侵スハ宗教上ノ犯罪ナリト
認メラレタリ本邦ノ習俗ニ依ルモ住家ハ城廓ナリト信セラレ其如何ナル場
合ニ於テモ承諾ナクシテ侵入スルトキハ怡モ敵兵ノ攻城ト同シク敵對ノ行
爲ナリト認メラレ防衛ノ爲メニハ如何ナル攻撃方法ヲ採ルモ敢テ法律ノ問
フ所ニアラサルモノノ如シ其後羅馬及ヒゲルマンノ法制ニ於テハ國法上住
所ノ位置ハ神社佛閣トハ明ニ之ヲ區別スルニ至レリト雖モ羅馬法ノ如キハ
暴行ヲ加ヘテ侵入スルニ非サレハ罪ト認メス而シテ其犯罪ノ如キモ單ニ暴
行罪ノ一種ト爲セリ然レトモ近世ニ至リテハ住所ハ各人ノ生活ノ本據ニシ
テ其安全平穩ハ國民自由ノ保護トシテ特別ニ之ヲ保障セサルヘカラスト云
フ全ク新ナル觀念ヲ生スルニ至レリ故ニ獨逸法ノ如キハ之ヲ名ケテ住居ノ
平和ヲ破ル罪ト云ヒ之ヲ罰スルニ付テハ各國多少寬嚴ノ差別アリ而シテ多
數ノ國ニ於テ之ヲ憲法上ノ保障トスルハ一ニ佛國ニ於ケル歴史的反動ノ影
響タルニ過キス
我刑法ノ所謂住居ヲ侵ス罪ハ果シテ此思想ニ因テ制定セラレタルモノナリ

舊刑法ノ起草者タルボアソナード氏ノ説明ニ依レハ人ノ家宅ニ侵入スルノ
 所爲タル其目的多クハ人ノ身體又ハ財産ニ對シ害惡ヲ加ヘントスルニ在ル
 ヲ以テ法律ハ特ニ一私人ノ身體財産ヲ保護スル必要ヨリシテ此規定ヲ設ケ
 タルモノナリト云ヒ我憲法ニ於テハ一私人ノ家宅ハ妄ニ侵サルルコトナシ
 トノ原則ヲ掲クルカ故ニ此原則ヨリ推究スルトキハ我舊刑法ノ規定ハ全ク
 輒近歐洲ニ於ケル家宅侵入罪ノ思想ヲ採用セルモノタリト云フヲ得ヘキカ
 如キモ帝國憲法ノ制定ハ舊刑法制定以後ニ在ルヲ以テ直ニ此趣旨ヲ以テ舊
 刑法ノ規定ヲ解釋スルコトヲ得ス加之現ニ舊刑法第七十一條第三項ニ於
 テモ身體財産ニ對スル危害ヲ豫見スルコトヲ得ヘキ場合ハ特ニ之ヲ加重シ
 情狀ト爲スニ依リ之ヲ觀レハ我舊刑法ノ思想ハ蓋シ歐洲中世頃ノ思想ト輒
 近ノ新思想トノ間ニ位セルモノノ如シ本法ニ至テハ全ク然ラス其立法ノ沿
 革ヨリ見ルモ法文ノ上ヨリ觀察スルモ立法ノ趣旨ハ憲法ノ條規ニ則リ私家
 ノ安全ハ不可侵ナリトノ思想ニ基ケルモノタルコトヲ疑ハス

本罪ニ於ケル一般要素ハ第一權利ナク不法ニ侵入スルノ行爲アルコトヲ要
 ス故ニ正當ノ理由又ハ家宅ヲ管理スル者ノ承諾ヲ得テ之ニ入りタル以上ハ
 本罪ヲ構成セス舊刑法ニ於テハ要求ヲ受ケテ退去セサル場合ノ規定ヲ缺如
 セルヲ以テ學說ニ派ニ分レ甲ハ一旦正當ノ理由又ハ家宅管理者ノ許諾ヲ得
 テ之ニ入りタル以上ハ假令管理者ノ意思ニ反シテ家宅内ニ止マルモ本罪ヲ
 構成セスト云ヒ乙ハ正當ノ理由ナク即チ權利ナクシテ侵入スルコトト管理
 者ノ意思ニ反シテ家宅内ニ止マルコトハ其事情ニ於テ擇フ所ナク其當初許
 諾ヲ得テ入りタルモ爾後ニ於テ管理者カ立去ヲ要求スルトキハ即チ管理者
 ハ其人カ家宅内ニ止マルヲ欲セサル意思ヲ發表シタルモノナレハ其以後ニ
 於テハ明ニ家宅内ニ入ルノ權利消滅シタルモノナルヲ以テ其要求ニ應セサ
 ルトキハ本罪ヲ構成スヘシト云フニ在リ故ニ本法ニ於テハ第三百三十條ニ明
 文ヲ掲ケタルヲ以テ此點ニ關シテハ最早議論ヲ生セサルコトトナレリ第二
 法律ノ規定シタル場所ナルコトヲ要ス法律ノ規定シタル場所トハ住居邸宅
 建造物艦船皇居禁苑離宮行在所及ヒ神宮皇陵ヲ云フ其分說ニ至テハ各本條

下ニ詳説スヘキヲ以テ茲ニ之ヲ省略ス

舊刑法ニ於テハ三個ノ場合ヲ區分シテ其處分ヲ異ニセリ其第一ハ侵入シタル場所ニ因リ其第二ハ晝間ナルト夜間ナルトニ因リ其第三ハ侵入ノ行ハレタル事情ノ如何ニ因リ刑罰ヲ異ニセリ如此區別ハ畢竟犯罪ノ情狀ニ關スルモノニシテ本法ニ於テハ刑ノ範圍ヲ擴張セシ結果特ニ其規定ヲ設クルノ必要消滅スルニ至レリ

以下各本條ニ就キ講説スヘシ

第三百十條ハ舊刑法第七十一條及ヒ第七十二條ヲ合シ少シク修正ヲ加ヘタルモノナリ今其修正ノ要點ヲ討査スルニ左ノ諸點ニ歸着スルモノノ如シ

舊刑法第七十一條第一項ニハ晝間ノ文字アレトモ本條ニハ之ヲ刪除セリ前已ニ説明スル如ク舊刑法ニ於テハ晝間ト夜間トニ依リ刑罰ヲ異ニスルノ法制ヲ採リタルヲ以テ晝間ノ文字ヲ要スレトモ本法ニ於テハ如此區別ハ畢竟犯罪ノ情狀ト認メタルノミナラス特ニ晝間ト夜間トニ依リ刑罰ヲ異ニス

ル必要ヲ認メサリシニ因ルモノナルヘシ加之如此區別アル爲メ解釋上種々ノ疑問ヲ生スル虞アレハナリ又同條ニハ人ノ住居シタル邸宅云々トアル爲メ從來往々ニシテ狭ク其意義ヲ解シ人ノ住居トシテ借受ケタル室内ニ侵入セル場合ニ於テ罪ト爲ラスト謂フモノナキニアラサルヲ以テ本法ハ廣ク之ヲ人ノ住居ト修正シ其意義ヲ明確ニセリ又從來艦船内ニ侵入スル罪ヲ規定セサル爲メ實際上不便少ナカラス軍艦ハ暫ク措キ土砂ヲ運搬スル小船ニ於テハ其中ヲ區劃シ舟夫一家ノ生活ノ本據ト爲スモノアリ如此ハ人ノ住居ト云フ中ニ包含スルハ勿論ナリト雖モ之ヲ邸宅ナリト云フハ少シク疑ヒナキ能ハス故ニ本法ハ特ニ艦船ヲ加ヘタルモノノ如シ尙舊刑法ニ於テハ唯侵入ノ行爲ヲ罰スルノミニシテ要求ヲ受ケテ退去セサル場合ヲ規定セサル爲メ總論ニ於テ説明セル如ク二様ノ解釋ヲ生シ實際上極メテ不便ヲ感スルヲ以テ本法ニ於テハ明確ニ其意義ヲ法文ニ表示シタリ

住居トハ民法ニ所謂生活ノ本據ト同一意義ニシテ寢食ノ本據ヲ指稱ス其被害者ノ所有ニ係ルト否トハ素ヨリ問フ所ニアラサルモ一時タルト永久タル

トニ付テハ其程度ニ依リ從來ニ様ノ解釋アリ苟モ人ノ住居タル以上ハ假令如何ナル短期ニ在ルモ故ナク侵入スルトキハ侵入罪ヲ構成スヘシト云ヒ又ハ全ク之ニ反對スルモノアリテ一致セスト雖モ其寢食ノ本據ナリト云フニ至テハ一致セリ而シテ權利ナクシテ生活ノ本據ト爲シタル場合モ尙事實上人ノ住居シタル家宅ナリト云フヲ得ヘキ乎假令ハ乞丐カ無斷ニテ明屋ニ寢食スル場合或ハ已ニ賃借權ノ消滅シタルニ拘ハラズ尙強ヒテ從來ノ居住ヲ繼續スル場合ノ如シ此點ニ付テハ舊刑法ニ於テモ本法ニ於テモ住居スル權利ナキ者ノ住所ハ之ヲ保護スル必要ナキモノト認メタルモノノ如シ況ンヤ本法ニ於テハ全然住所ノ平穩ヲ保護スルノ主義ヲ採リタルモノナル以上ハ權利ナキ者ノ住所ノ平和ヲ保護スルノ精神ニアラス從テ侵害セラレタル權利ノ存在セサルモノナレハナリ

看守トハ管理看視ノ二者ヲ包含シ舊刑法ノ意義ト異ナル所ナシ從テ其邸宅等ヲ管理又ハ看視スル者アレハ侵入スルトキニ看守者ノ現在スルヲ必要トセス

邸宅トハ家屋又ハ家屋外ノ建造物ニ附屬スル圍繞地域内ヲ云フ圍繞地域ニ付テハ圍繞物ト土地ノ境界ト爲ルヘキ物トニ區別アリ單ニ土地ノ境界ト云ヘハ之ヲ區分スルコトヲ得ル物ハ總テ之ヲ包含スレトモ侵入罪ニ於ケル圍繞物ニ付テハ限界ヲ示シ人ノ侵入ヲ防クニ足ルヘキ程度ニ達シタルモノナラサルヘカラス果シテ然ラハ如何ナル標準ニ依リ之ヲ區別スヘキ乎學說區々ニシテ一定セス或ハ牆壁ヲ以テ限界ヲ示ササルモ何人ノ所有タルコトヲ示スニ足ルヘキ標識アルヲ以テ足レリト爲スモノアリ或ハ繩張又ハ溝ヲ以テ區劃セハ足レリト爲スモノアリ要スルニ其標準ニ付テハ法文ハ單ニ人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅トアルノミニテ別ニ限界ヲ示ス所ナキヲ以テ事實ノ認定ニ依リテ定マルヘキ問題ニ屬スヘキモノナリト雖モ多クノ學者ノ唱道スル所ニ依レハ普通ノ意味ニ於ケル步行ニ因リテ踰越シ得ルヤ否ヲ標準トスルモノノ如シ故ニ踰越若クハ匍匐スルニ非サレハ入ル能ハサル物ノ如キハ之ヲ圍繞物ト認メテ可ナルモノノ如シ

建造物トハ人ノ住居スヘキ邸宅以外土地ニ定著スル工作物ヲ謂フ建造物ニ

付テハ實際ノ適用上種々ノ疑問ヲ生スヘキニ依リ聊カ讀者ノ參考ニ資スル爲メ固ヨリ著作ノ本旨ニアラサルモ立法ノ資料トナリタルモノト信スヘキ學說ノ廣ク世ニ公ケニセラレタル大家ノ説明ヲ摘錄掲載スヘシ

建造物ノ何タルカヲ解スルニ付テ極メテ廣義ニ解釋スル說ト又極メテ狹義ニ解釋スル說ト二様ニ行ハレ前說ニ於テハ人ノ勞力ニ因リ多數ノ物質ヲ綜合シテ土地ニ固定シタルモノヲ謂フト爲セリ此ノ如キ廣義ノ說ヨリ云ヘハ彼ノ川若クハ小川ノ口ニ設タル柵ノ類又ハ公園若クハ路傍ノ立像其他ノ裝飾物ノ類モ建造物ト云フニ至ルヘシ之ニ反シ後說ニ在リテハ家屋類似ノ工作物ニ限り左ノ如キ條件ヲ具備スルコトヲ要スト爲セリ

第一 屋根及ヒ壁ノ如キ雨露ヲ凌グヘキ設計ナカラサルヘカラス 故

ニ河口ノ柵公園ノ立像ノ如キバ此點ヨリ云フモ建造物ト爲ラス

第二 土地ニ接合シタルモノナラサルヘカラス 故ニ彼ノ屋臺店若クハ車ノ如キ固ヨリ建造物ト云フヲ得ス

第三 土地ト定著セシムル時間ハ比較的永續ノモノナラサルヘカラス

其幾日幾月以上タルヲ要スルヤト云フ如キ程度ノ問題ハ事實ノ認定ニ一任スルノ外ナシ故ニ彼ノ祭禮其他ノ棧敷足場ノ類ハ尙建造物ト云フヲ得サルヘシト雖モ若シ數個月若クハ數十日ニ渉ルモノニシテ雨露ヲ凌グヘキ設備アレハ此場合ハ建造物中ニ含包スヘシト信ス彼ノ奈良ノ大佛堂ノ如キ然リ

建造物ノ性質ハ大體右ニ述フル所ノ如シ而シテ刑法上ノ解釋トシテハ後說ヲ以テ妥當ナリト信ス尙之ヲ約言スレハ家屋類似ノ工作物ニシテ雨露ヲ凌グヘキ設計ト地上ニ定著スルコト及ヒ一定ノ時間相續スルコトノ三點ヲ以テ必要條件ナリト思考ス然レトモ現行各種ノ法律又ハ命令ノ中ニハ罕ニ尙一層廣義ニ解釋セサルヘカラサル條項アリ例ヘハ電信法第三十七條ニ云ヘル建造物ノ如キハ必スシモ家屋類似ノ工作物タルコトヲ必要トセス而シテ其最モ廣義ナルモノニ在リテハ人ノ製作品ニシテ土地ニ定著セシメタル物ノ總テヲ包含スルモノノ如ク思考セラル

建造物ニ人ノ出入スルコトヲ得ル組織アルヲ要スルヤ否ヤハ學說ノ岐カ

ルル所ニシテリスト竝ニフランク等ノ學者ハ出入口ナカルヘカラスト云
フ説ヲ採レリ然レト此説ハ必スシモ採テ以テ本法ノ解釋ニ充當スルコト
ヲ得サルヘシ如何トナレハ侵入罪ノ物體ト爲ルニハ固ヨリ出入口アルヲ
要スレトモ放火ノ物體ト爲ルヘキ建造物ノ如キハ毫モ出入口アル建造物
ニ限ルヘキ理由ヲ發見スルコト能ハサレハナリ

第三百十一條ハ舊刑法第七十三條ヲ修正シタルモノニシテ其修正ノ要點
ハ侵入ノ場所ニ神宮ヲ加ヘ法文ヲ二項ニ分チタルニ過キス其趣旨ニ於テハ
別ニ異ナル所ナシ神宮皇陵ノ解釋ニ付テハ第七十四條第二項ノ釋義ニ於テ
詳述セシヲ以テ茲ニ贅セス

第三百十一條ハ新ニ設ケタル規定ニシテ本章ノ未遂罪ハ之ヲ處罰スルノ必
要アリト云フノ外説明ノ要ヲ見ス

第三百三十三條 故ナク封緘シタル信書ヲ開披シタル者ハ一年
以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百三十四條 醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人又
ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付
キ知得タル人ノ祕密ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又
ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
宗教若クハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナ
ク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ祕密ヲ漏泄
シタルトキ亦同シ

第三百三十五條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ受理ス

第一 沿革

第一案 第三百三十三條 醫師、藥種商、產婆、辯護士、公證人又ハ神職、僧侶、其身
分職業ノ爲メ、人ノ陰私ヲ委託セラレ若クハ知リ得テ自己ヲ利シ
又ハ人ヲ害スルノ意ヲ以テ其陰私ヲ漏告シタル者ハ十一日以上

六月以下ノ有役禁錮及ヒ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
其誹毀ノ條件ヲ具備スルモノハ誹毀ノ刑ニ一等ヲ加フ

第三百三十四條 前條ノ罪ハ被害者ノ告訴アルニ非サレハ訴追ス
ルコトヲ得ス

第二案 第二百五十七條 故ナク封緘シタル信書ヲ開披隱匿又ハ毀棄シタル
者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十八條 醫師、藥劑師、產婆、辯護士、辯護人、公證人、神職又ハ宗教
ノ職ニ在ル者其業務ニ關シ委託ヲ受ケタルコトニ因テ知得タル
人ノ秘密ヲ漏告シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金
ニ處ス但證人トシテ事實ヲ陳述スル者ハ此限ニ在ラス

第二百五十九條 本節ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第三案 第二百五十六條 第二案第二百五十七條ニ同シ

第二百五十七條 醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ此
等ノ職ニ在リシ者其業務ニ關シ委託ヲ受ケタルコトニ因リ知得

タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下
ノ罰金ニ處ス

宗教若クハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者其業務ニ
關シ委託ヲ受ケタルコトニ因リ知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタル
トキ又同シ

第二百五十八條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第四案 第二百五十五條 第二案第二百五十六條ニ同シ

第二百五十六條 第三案第二百五十七條ニ同シ

第二百五十七條 第三案第二百五十八條ニ同シ

第二 參照法律

佛蘭西刑法

第三百七十八條 內科、外科ノ醫師及ヒ下等醫士又ハ賣藥者、產婆及ヒ其他
自己ノ職業又ハ其身分ニ因リ人ヨリ密事ノ托ヲ受ケタル者法律ニ循ヒ
其密事ヲ告訴ス可キ場合ノ外其密事ヲ漏告セシ時ハ一月ヨリ少カラス

六月ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且百フランクヨリ少カラ
ス五百フランクヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ

獨乙刑法

第三百條 代書人、代言人、公證人及ヒ刑事ニ付テノ辯護人、内外科醫師、產婆
藥商及ヒ其人ノ補佐等自己ノ職務、職業、工業等ニヨリ人ヨリ委託ヲ受ケ
タル密事ヲ其人ノ許可ナクシテ漏洩シタル者ハ五千「ターレル」ヨリ多カ
ラサル罰金又ハ三月ヨリ長カラサル禁獄ニ處ス可シ
訴ヲ待テ其罪ヲ論ス可シ

魯西亞刑法

第二千九條 人ノ榮譽ヲ害シ或ハ損害ヲ加フ可キ目的ヲ以テ其職務ニ
關シテ知り得タルカ或ハ祕隱スヘキ審詞ヲ爲セシ事件ヲ播傳セシ者モ
亦第二千八條ノ刑ヲ科ス可シ然レトモ若シ他人ノ書翰、包裹、文庫等ヲ
開封シ其他非法ノ所業ヲ以テ陰密ノ事件ヲ探知シ之ヲ流布セシ者ハ一
等ヲ加ヘラル可シ

埃太利刑法

第四百九十八條 内外科醫師、產婆等其職務ヲ以テ委任ヲ受ケタル人ノ
陰密ヲ妄リニ官ノ訊問ニ對スル外人ニ漏洩スルトキハ之ヲ違式罪ト
シ其初犯ニ於テハ三月間本業禁止再犯ニハ一年三犯ニ至レハ永ク本業
ヲ禁止ス可シ

第四百九十九條 藥舖ノ主人若クハ代 人某患者ニ對スル藥方書ニ據テ
其陰密ヲ知リシトキ官ノ訊問ニ應スル 外妄リニ他人ニ漏洩スル時ハ
違式罪トシ五「グルデン」以上五十「グルデン」以下ノ罰金若シ其手代ナルト
キハ一日以上四十日以下ノ禁獄但シ情ニ從ヒ猶ホ加嚴ヲ加フルコト
アルヘシ

埃及刑法

第二百七十四條 内科、外科ノ醫師、製藥者、產婆又ハ其他何人ニ限ラス其身
分又ハ職業ニ因リ人ノ祕密ヲ托セラレシ者法律上ニ其祕密ヲ告訴ス可
キヲ特定セシ場合ノ外猥リニ其祕密ヲ漏告シタル時ハ二十四時ヨリ少

カラス一週ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且ツ二十「ピアストル」ヨリ少ナカラス百「ピアストル」ヨリ多カラサル罰金ヲ言渡サル可シ

土耳其刑法

第二百十五條 内科醫師外科醫師藥商穩婆其他人ヨリ一身上ノ秘密ヲ委託セラルルヲ職業トスル者ハ法律ニ因リ出訴ス可キ場合ノ外其秘密ヲ漏告シタル者ハ二十九時間ヨリ少カラス一週間ヨリ多カラサル禁錮ト銀ノ一「メジベエ」ヨリ少カラス金ノ一「メジベエ」ヨリ多カラサル罰金ニ處ス

和蘭刑法

第二百七十二條 現ニ執行シ又ハ嘗テ執行セシ公務又ハ職業上保守ス可キ陰私ヲ故サラニ漏告シタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ六百「フロラン」以下ノ罰金ニ處ス
特定人ノ損害ニ於テ本條ノ罪ヲ犯シタル者ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二百七十三條 現ニ使役セラレ又ハ嘗テ使役セラレタル者工業ノ企圖ニ關スル特別事件ニシテ其秘密ヲ傳聞スヘキモノナルニ故意ヲ以テ之レヲ漏告シタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ六百「フロラン」以下ノ罰金ニ處ス
本條ノ罪ハ其者工業企圖ノ管理者ノ告訴ヲ待テ之ヲ處ス

奧太利刑法草案

第三百十四條 代言人、公證人、刑事辯護人、醫師、產婆、藥劑師並ニ此等ノ者ノ助手、其ノ職務身分又ハ營業上委託ヲ受ケタル陰密ヲ權利ナクシテ漏告シタルトキハ三月以下ノ禁錮又ハ五百「フロラン」以下ノ罰金ヲ以テ處刑セララルモノトス
私訴ヲ待テ處刑ス可キモノトス

瑞西刑法典案

第九十四條 業務ノ結果默秘義務アル事項ヲ權限ナクシテ人ニ通告シタル者ニハ申請ニ依リ一千「フロラン」以下ノ罰金又ハ禁錮ヲ科刑ス。此二個

ノ者ハ之ヲ併科スルコトヲ得

第九十五條 黙秘義務ヲ有スル製作上ノ秘密ヲ漏洩シタル者情ヲ知り其漏洩ヲ利用シタル者不法ノ手段ニ依リ製造上ノ秘密ヲ知得シタル者ニハ申請ニ依リ一千フラン以下ノ罰金又ハ禁錮ヲ科刑ス此二個ノ刑ハ之ヲ併科スルコトヲ得

第九十六條 權限ナクシテ信書又ハ其他ノ封緘セル文書ヲ開披シタル者ニハ申請ニ依リ一千フラン以下ノ罰金又ハ三月以下ノ禁錮ヲ科刑ス此二個ノ刑ハ之ヲ併科スルコトヲ得

第三 釋義

例ニ依リ舊刑法ト對照シ其異ナル點ニ付キ説明スヘシ
舊刑法ハ秘密ニ關スル罪ヲ以テ誹毀罪ト爲スト雖モ元來秘密ヲ侵スコトト人ヲ誹毀スルコトトハ其性質同一ナラサルヲ以テ本法ハ之ヲ分離シ別ニ本章ノ規定ヲ設ケタルモノノ如ク尙第三百六十條ニ記載スル罪ノ外信書ヲ保護スルノ規定ヲ新設セリ
左ニ各本條ニ付キ講説スル所アラントス

第三百三十三條ハ信書ヲ保護スルヲ目的トシ新ニ設ケタル規定ニシテ舊刑法ニ缺如スル所ナリ唯信書ニ付テハ郵便法等ニ二三ノ規定ナキニ非スト雖モ信書ノ秘密ハ前章ニ於ケル住所ノ保護ノ如ク等シク憲法ニ保障セラレタル權利ナルヲ以テ刑法上ノ犯罪トシテ處罰ノ規定ヲ設ケルハ寔ニ當然ナリト云ハサルヘカラス

本條ニ所謂故ナクトハ前章ニ於テ説明シタル如ク權利ナクシテノ意義ニ相當シ法律ノ規定ニ依ルモノヲ除外ス(刑事訴訟法第百十三條參照)

第三百三十四條ハ舊刑法第三百六十條ヲ修正シタルモノニシテ所謂陰私漏洩ノ罪ニ相當ス凡ソ他人ノ陰事ヲ漏洩スルハ道義ヲ許ササル所ナリ況ンヤ他人ヨリ委託ヲ受ケ其業務上知リ得タル事ヲ漏洩スルカ如キハ其罪最モ寬假スヘカラサルモノトス近世ノ法律ニ於テハ單ニ道義ニ反スルノミヲ以テハ之ヲ罪トセス其之ヲ罰スルハ甚シク一私人ノ利益ヲ害シ延テ公安ヲ害スル場合ニ限レシ本條ノ罪ハ一面ニ於テハ私人ノ利益ヲ害スルト共ニ一面ニ於テハ社會ノ公益ヲ害スルモノアルヲ以テナリ

本條ノ罪ヲ構成スルニハ左ノ三要素ヲ必要トス(一)犯人カ本條ニ規定シタル身分及職業ヲ有スルコト(二)其身分又ハ職業ニ因リテ知り得タル祕密ヲ漏泄シタルコト(三)祕密タルコトヲ知りナカラ之ヲ漏泄スルノ故意アルコト是レナリ

第一ノ要素ニ於テ犯人ノ身分及ヒ職業ハ醫師藥劑師藥種商産婆辯護士辯護人公證人又ハ此等ノ職ニ在リタル者又ハ宗教若クハ禱祀ノ職ニ在ル者若クハ此等ノ職ニ在リシ者トス醫師藥劑師藥種商産婆辯護士公證人ハ特定ノ名稱ニシテ各法規ノ下ニ在テ職業ヲ執ル者辯護人ハ裁判所ノ許可ヲ得テ辯護士ニアラサル者カ或事件ノ辯護事務ヲ取扱ヒタル者ヲ云フ舊刑法ニ於テハ代理人辯護人トアリ舊刑法制定ノ當時ニ於テハ現今ノ辯護士ハ代理人ト稱シ居リシモ明治二十六年辯護士法ノ發布アリタルト同時ニ辯護士ト爲レリ舊刑法ニ於ケル身分トハ人事上ノ身分ト云フ義ニアラスシテ職業ヲモ身分ト云フ通俗ノ義ニ用ヒタルモノニシテ畢竟語調ヲ助クル爲メニ挿入シタルモノトシ常ニ業務トスルモノニ非サレハ本罪ヲ構成セスト解釋スルノ結果

裁判所ノ許可ヲ得テ一時辯護人トナルモノノ如キハ辯護人ノ中ニ包含セス代理人ト辯護人トハ今日ノ辯護士ナリトノ解釋ヲ生スルニ至レリ本條ニ於テハ辯護士ト辯護人ト明ニ區別シタルヲ以テ辯護士ニアラサル者カ裁判所ノ許可ヲ得テ辯護事務ヲ執ル者ノ外辯護人ナルモノナキヲ以テ此解釋ハ自ラ消滅シタルモノトス又舊刑法ノ代書人ヲ削除セシム代書人ナル者ハ雜業者ノ一種ニシテ公證セラレタル營業ニアラサルノミナラス單ニ依頼者ノ手足トシテ文書ノ起草又ハ筆寫ヲ爲スニ過キサカ故ニ業務上他人ノ祕密ヲ知ルノ機會ナケレハナリ宗教又ハ禱祀ノ職ニ在ル者トハ神官僧侶耶蘇教傳道師又ハ公許ヲ受ケ禱祀ヲ爲ス者ヲ云フ此等ノ者ハ人ノ惡事ノ懺悔ヲ聽クノ機會アルヲ以テナリ古來本邦ニ於テハ宗教若クハ禱祀ノ職ヲ有スル者ニ對シ懺悔ヲ爲スノ習慣ハ殆ント絶無ナリシヲ以テ學者往々之ヲ嗤笑スル者ナキニアラスト雖モ近時往々其實例ヲ耳ニスルコトアリ人文ノ進歩スルニ從ヒ歐洲ノ習俗漸次輸入セラルルモノアリ今後益々發展セントスル國運ノ隆盛ニ伴ヒ此規定ヲ存スルハ敢テ無益ノ業ニアラサルヘシ

第二ノ要素ニ付テハ秘密ト何者タルカハ法文之ヲ定義セズト雖モ委託者カ他人ニ漏泄スルコトヲ欲セサル總テハ秘密ヲ意味スルモノニシテ受託者カ妄リニ漏泄スルトキハ委託者ハ有形又ハ無形ノ損害ヲ蒙ルルヘキモノヲ指稱ス漏泄トハ他人ニ知ラシムルノ意義ニシテ漏泄ノ方法ハ法文別ニ制限ヲ設ケサルヲ以テ言語ヲ以テスルト文書ニ因ルト公然タルト陰密ナルト多人數ニ知ラシムルト一人ニ告クアルトハ固ヨリ問フ所ニケラス苟モ自己以外シモツニ知ラシムルヲ以テ本罪ヲ構成ス

第三ノ要素ニ付テハ秘密タルコトヲ知ルニ拘ハラズ之ヲ漏泄セハ茲ニ害ヲ在スルト同時ニ其害ハ犯人ニ於テ之ヲ生セシタリト云フコトヲ得ヘキカ故ニ本罪ヲ構成スルカ爲メニハ單ニ秘密タルコトヲ知覺ト之ヲ漏泄セントスルノ意思トアルノミヲ以テ十分トシ更ニ他人ヲ害セントスルノ惡意アルコトヲ要セス

舊刑法ニ於テハ法文ニ列舉スル者カ職業ヲ止メタル後ニ於テ人々秘密ヲ漏泄シタル場合ノ規定ヲ缺如スト雖モ在職者カ其取扱ヒタル業務上知リ得タ

ル秘密ヲ漏泄スルト管テ其職ニ在リシ者カ在職中取扱ヒタル業務上ノ關係ヨリ知リ得タル秘密ヲ漏泄スルトハ其間何等異ナリタル所ナキヲ以テ本法ニ於テハ特ニ其職ニ在リシ者ナル語ヲ加ヘ一層意義ヲ明確ニセリ

第三百三十五條ハ舊刑法第三百六十一條ト同一趣旨ノ規定ニシテ本章ノ罪ヲ親告罪ト爲セシハ畢竟被害者ノ利益ヲ保護スルニ外ナラス

第三百三十六條 阿片煙ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第三百三十七條 阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第三百三十八條 税關官吏阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ輸入

シ又ハ其輸入ヲ許シタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第三百三十九條 阿片煙ヲ吸食シタル者ハ三年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

阿片煙ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シ利ヲ圖リタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第四百十條 阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ所持シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第一 沿革

第一案 第二百五十九條 阿片煙ヲ輸入シ製造シ販賣シ若クハ販賣ニ供シタル者ハ二等有期徒刑ニ處ス

第二百六十條 阿片煙ヲ吸食スルノ器具ヲ輸入シ製造シ販賣シ若クハ販賣ニ供シタル者ハ三等有期徒刑ニ處ス

第二百六十一條 税關官吏情ヲ知テ阿片煙若クハ其吸食器具ノ輸入ヲ容易ナラシメタル者ハ前二條ノ刑ニ照シ各一等ヲ加フ

第二百六十二條 阿片煙ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖ル者ハ三等有期徒刑ニ處ス

第二百六十三條 阿片煙吸食ノ際又ハ吸食ノ爲メ昏睡スル際發覺セラレタル者ハ一年以上三年以下ノ有役禁錮ニ處ス

阿片煙又ハ吸食ノ器具ヲ賣渡シ贈與シ又ハ貸與シテ他人ノ阿片煙ヲ吸食スルコトヲ容易ナラシメタルモノ亦同シ

第二百六十四條 阿片煙及ヒ吸食ノ器具ヲ所持スルコトヲ發覺セラレタル者ハ一年以上一年以下ノ有役禁錮ニ處ス

第二案 第六十條 阿片煙ヲ輸入製造又ハ販賣スル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第六十一條 阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入製造又ハ販賣スル者ハ三年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第六十二條 税關官吏阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ノ輸入ヲ許シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第六十三條 阿片煙ヲ吸食シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第六十四條 阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ所有又ハ所持シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第六十五條 本節ノ罪ヲ犯シタル者ニハ監視ヲ附加スルコトヲ得

第三案 第六十九條 阿片煙ヲ輸入製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第六十條 阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第六十一條 税關官吏阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ノ輸入ヲ許シタルトキハ二年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第六十二條 第二案第六十三條ニ同シ

第六十三條 第二案第六十四條ニ同シ

第六十四條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第六十五條 本章ノ罪ヲ犯シタル者ニハ監視ヲ附加スルコトヲ得

第四案 第三案ニ同シ

第二 參照法律

魯西亞法制

悉比利亞及ヒ、ブレングラ通過シ阿片ヲ密輸セル者ハ其取押ヘラレタル全量ニ付キ陸軍司藥局ノ定價倍額ヲ科セラル可シ

布哇法制

内務卿ハ、ホノルル市中ニ於テ二人ヲハイナ市中ニ於テ一人ノ居住者ニ一年間阿片煙ヲ輸入シテ支那人ニ販賣スルコトノ專賣免許ヲ一人ニ付キ二千弗以上ノ金額ヲ受ケテ與フルコトヲ得但シ其專賣免許ハ公賣ニ附シテ之ヲ高價ハ賣與スルコトヲ得

專賣免許ヲ願フ者ハ預シメ内務卿ニ阿片煙其他阿片ヲ以テ製造シタル物
 ハ支那人ノ外餘人ニハ決シテ賣却セナル爲メノ保證金千弗ノ證書ヲ差出
 シ其認可ヲ受ク可シ
 若シ專賣免許ヲ受ケタル者其約定ニ違背シタルトキハ專賣免許ヲ沒收シ
 タル上證書ニ記シタル金額ヲ罰トシテ懲收スヘシ
 專賣免許ヲ得サル者ニシテ阿片ヲ輸入シ又ハ販賣シタルトキハ百弗ヨリ
 少カラヌ五百弗ヨリ多カラサル罰金又ハ苦役ヲ附シタル六月以内ノ囚獄
 ニ處スヘシ

清律

一 興吸鴉片烟照收買違禁貨物例枷號一個月發近邊充軍爲從杖一百徒三
 年私開鴉片烟館引誘良家子弟者照邪教惑衆律擬絞監候爲從杖一百流三
 千里船戶地保隣佑人等俱杖一百徒三年軍民人等買食鴉片烟者杖一百枷
 號兩個月仍合指出販賣之人查拏治罪如不得販賣之人指出則將食烟之人
 照販賣爲從杖一百徒三年職官及在官人役買食者俱加一等治罪

内廷本監買食者枷號兩個月改發各省駐防給官員兵丁官奴以上俱拏獲鴉片
 烟見發有據者方座不許妄板施累如兵役人等籍端需索計贓照枉法律治罪
 失察之汎口地方文武各官並不行監察之海關監督均交部嚴加議處仍令各
 該督撫及現任道府州縣等官出具署內並無買食鴉片烟各甘結於年終彙奏
 一次如徇隱不究從嚴參處

第三 釋義

本章ノ規定ハ舊刑法第二編第五章第一節ト殆ント同一ニシテ唯
 舊刑法第二百四十條第二項即人ヲ誘引シテ阿片煙ヲ吸食セシメタル者ヲ處
 罰スルノ規定ヲ削除セリ是レ人ヲ誘引シテ吸食セシメタル行爲ハ多クノ場
 合ニ於テハ教唆トナルヘク別ニ規定ノ必要ヲ認メサリシニ因ルモノナルヘ
 シ但本法ニ於テハ舊刑法ニ比シ概シテ其刑ヲ輕クシタルモノノ如シ蓋シ舊
 刑法制定ノ當時ニ在テハ嚴ニ阿片煙ヲ取締ルノ必要アリタル爲メナルヘシ
 ト雖モ今日ニ在テハ阿片煙ノ害毒ハ一般ノ人ニ周知セラレ隣邦支那人ヲ除
 クノ外ハ之ヲ嗜好スルモノ極メテ稀少ナルノミナラス罪刑稍酷ニ失スルノ
 嫌アルヲ以テナルヘシ

各本條ニ付テハ別ニ説明ヲ要スヘキモノナキヲ以テ釋義ヲ省略ス

第四 疑問及説明

第一 阿片煙ノ性質如何

本條ニ所謂阿片煙ハ藥劑ニ用ユルモノニアラスシテ俗ニ阿片煙膏ト稱スルモノナリ其形狀ハ液體ナレハ器具ニアラサレハ吸食スルコトヲ得サルモノトス

第二 第三百三十六條及ヒ第三百三十七條中販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ナル文辭アリ販賣ノ目的ヲ以テ所持シタルモノナレハ販賣ノ未遂トナルニアラスヤ然ルニ販賣ト同様ニ之ヲ處罰スルハ如何ナル法意ナルヘキ乎

販賣ノ目的ヲ以テ所持シタル者カ公然販賣ノ未遂トナレハ特ニ規定ヲ設ケナルモ第四百四十一條ノ規定ニテ充分ナリト雖モ販賣ヲ以テ罪ノ成立要素ト爲ス以上ハ假令ハ土藏ノ中ニ藏置セルモノノ如キハ販賣ノ未遂ト云フヲ得ナル懸念ナキニアラサルヲ以テ特ニ販賣ノ目的ナル文字ヲ加ヘタ

ルモノナルヘシ

第三 然レトモ阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ノ所持ニ付テハ第四百四十一條ノ規定アレハ販賣ノ目的ニアラスシテ所持スルモノハ該條ニ依リ處分セラレ若シ販賣ノ目的ヲ以テ土藏ノ中ニ所持シタルモノナリトセハ純然タル未遂罪トナルニアラサルヤ

第四百四十一條ノ所持ヲ禁スルハ販賣ノ目的ナキ場合ナルコトハ論ヲ俟タス從テ其刑モ亦輕シ本法ニ於テハ販賣ヲ廣ク罰スルコトヲ必要ト認メタルモノニシテ同シ所持ナルモ販賣ノ目的ナルトキハ之ヲ嚴罰スルノ趣旨ナルモノノ如シ但シ販賣ノ目的ニアラサル事實ヲ證明ニシテ充分立テタルトキハ第四百四十一條ニ該當スヘシト雖モ販賣ノ目的ヲ以テ土藏ノ中ニ藏置シタルモノヲ以テ直ニ販賣ノ未遂ト云フハ少シク穩當ナラサルニ因ル

第四 前草案ニハ第四百四十一條中「所持」上ニ「所有」ノ文字ヲ冠シ所有ト所持ヲ區別セリ本法ニ於テ此區別ヲ廢シタル理由如何

前草案ニ於テ所有ト所持ヲ區別セシ立法者ノ趣意ハ蓋シ阿片ノ所有ハ法

律ニ於テ禁制スルヲ以テ自然民法上ノ所有ト云フヲ得サルヘキモ若シ人ニ依頼シテ所持セシメントキノ如キハ所有權ヲ有スル者ト現在ノ所持者トヲ雙方處罰セントスルニ外ナラサルヘシ然レトモ斯ノ如キ微妙ノ區別ハ實際ノ適用上著シク實益アルモノニアラサルノミナラス嚴格ナル意義ニ於テハ該條ニ規定スル場合ニ於テ明ニ所有ト所持ヲ區別スルコトヲ得サル場合アルヘキヲ以テ寧ロ確的ナル所持者ヲ處罰スルコトトセハ多クノ場合ニ於テ差支ナカルヘシト云フニ過キサルヘシ

第四百二十二條 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用ユルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百十三條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第四百十四條 人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第四百十五條 前三條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百十六條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第四百十七條 公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞又ハ壅塞シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第一 沿革

第一案 第二百六十五條 公衆ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ若クハ其水質

ヲ變セシメ多少ノ時間之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ十一日以上二月以下ノ有役禁錮又ハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百六十六條 人ノ健康ヲ害ス可キ物品ナルコトヲ知テ之ヲ用ヒ飲料水ヲ汚穢シ又ハ其水質ヲ變セシメタル者ハ一月以上二年以下ノ有役禁錮及ヒ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百六十七條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ擬シ重キニ從テ處斷ス

若シ人ヲ死ニ致スノ意アリテ死ニ致シタルトキハ死刑ニ處ス

第二案 第二百六十六條 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百六十七條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ五年

以下ノ懲役ニ處ス

第二百六十八條 人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第二百六十九條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ七年以上ノ懲役ニ處ス

第二百七十條 公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞又ハ壅塞シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百七十一條 第二百六十六條乃至第二百六十八條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三案 第二百六十六條 第二案ニ同シ

第二百六十七條 第二案ニ同シ

第二百六十八條 第二案ニ同シ

第六十九條 前三條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷
害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第七十條 第二案第六十九條ニ同シ

第七十一條 公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞又ハ壅塞シ
タル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第四案

第六十五條 第二條第六十六條ニ同シ

第六十六條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源
ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ七年
以下ノ懲役ニ處ス

第六十七條 第二案第六十八條ニ同シ

第六十八條 第三案第六十九條ニ同シ

第六十九條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源
ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ五年以上ノ
有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ

七年以上ノ懲役ニ處ス

第七十條 第三案第七十一條ニ同シ

第二 參照法律

獨乙刑法

第二百二十四條 故ラニ他人ノ用水トナリタル水溜井又ハ公然ト賣商ス
ヘキ各種ノ物品又ハ公ケノ使品物品ニ毒シタル者又ハ之レニ人ノ健康
ヲ害スル物品ヲ混合シタル者又其毒物及ヒ健康ヲ害スル物ヲ混合シタ
ルヲ知リテ其事ヲ買主ニ告知スルコトナク故ラニ之レヲ販賣シ又ハ之
ヲ賣物トナシ發行シタルモノハ十年ヨリ長カラサル徒刑ニ處シ因テ人
ヲ死ニ致シタルトキハ十年ヨリ短カラサル徒刑又ハ無期ノ徒刑ニ處ス
ヘシ

填太利刑法

第三百九十八條 飲料若クハ釀酒ニ用フヘキ水中ヘ死獸其他汚穢不潔殊
ニ健康ニ害アル物ヲ投入スル者ハ違警罪トシ三日以上一月以下ノ禁獄

印度刑法

第二百七十七條 故ラニ公用ノ水源水井ヲ汚濁シ其用ヲ失ハシメタル者ハ三ヶ月ニ止ル各種ノ入獄若クハ五百リユービーニ過サル贖金ニ處シ又ハ贖金入獄ヲ併科ス

第三 釋義 本章ノ規定ハ舊刑法第二編第五章第二節ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ

例ニ依リ舊刑法ヲ修正シタル主要ナル點ヲ掲記スヘシ

第一 舊刑法ニハ公衆ノ用ニ供スル水道ヲ保護スルノ規定ナシ蓋シ舊刑法制定ノ時代ニ在テハ水道ノ設備完全ナラス全國樞要ノ都會ニテモ全ク水道ノ設備ナキモノアリ偶々水道ノ如キ外形ヲ備フルモノナキニアラスト雖モ眞ニ一部分ニ止マリ未タ以テ保護ヲ與フヘキ程度ニ至ラザリシト雖モ今ヤ水道ノ設備ハ殆ント完全ノ域ニ近ク樞要ナル地ニハ率ネ敷設セラレタルヲ以テ之カ保護ノ途ヲ講スヘキハ刻下ノ急務ナリト

ス殊ニ水道ハ單ニ之ヲ一人ノ用ニ供スル淨水等ニ比スレハ之ニ對スル汚穢若クハ毒物混入ノ害ハ及ホスヘキ範圍極メテ廣ク甚シキニ至テハ數千數百人ノ健康ヲ害スヘキ事例ヲ生スルノ虞ナシトセス本法ハ特ニ水道ニ關スル場合ノ規定ヲ設ケ其缺點ヲ補充セリ是レ最モ機宜ニ適シタルモノト謂ハサルヘカラス

第二 本章ノ罪ハ其結果極メテ重大ナル危險ヲ生スル虞アルヲ以テ舊刑法ニ比シ一般ニ刑ヲ重クシタリ

以下各本條ニ就キ少シク説明スル所アラントス然レトモ新ニ設ケタル規定ヲ除ク外殆ント舊刑法ト其趣旨ヲ同フスルヲ以テ其趣旨ノ同一ナルモノニ付テ單ニ舊刑法ト對比スルニ止メ説明ヲ付セス蓋シ本章ノ罪ハ規定ノ趣旨簡明ニシテ別ニ説明ノ要ヲ見サレハナリ

第四百十二條ハ舊刑法第二百四十三條ト同一趣旨ノ規定ナリ
人ノ飲料トハ自己以外ノ人ノ飲用ニ供スル淨水ヲ謂ヒ淨水ノ淵源井戸河川等ノ自己ニ屬スルト否トハ問フ所ニアラス汚穢トハ汨濁不潔ヲ意味ス本條

ニ關シテハ其犯罪ハ淨水ヲ汚穢スルニ因テ成立スヘキモノナレハ法律上汚穢ト云フヲ得ヘキ程度ニ達スレハ充分處罰ノ價値アルモノニシテ畢竟人ノ健康ヲ保護スルノ趣旨ニ出テタルモノナルヲ以テ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタルノ條件ハ殆ント其必要ヲ見ス如何トナレハ假令汚穢セラレタル飲料水カ之ヲ飲用スルニ足ルヘキ場合ニ在リトスルモノノ健康ヲ害スルコトハ到底免ルヘカラサルモノナレハナリ依テ此條件ハ削除スルニ如カストノ批難ナキニアラサレトモ汚穢ノ程度ハ解釋ノ如何ニ依リ種々ノ結果ヲ生スヘシ廣義ノ解釋ヲ採ルトキハ其一部分ヲ汚穢スルモ直チニ處罰ヲ免レサルヘク如此ハ事宜ニ適セサルヲ以テ本法ニ於テハ飲用スルコト能ハサル程度ニ達スルヲ以テ處罰スルノ法制ヲ採リタルモノナレハ本條ノ條件ニ達セルハ汚穢ノ行爲ニ付テハ各地方ノ警察罰ヲ以テ取締ヲ爲スヲ以テ機宜ニ適シタルモノト謂ハサルヘカラス

第四百三三條ハ公衆ノ用ニ供スル水道ヲ保護スルモノニシテ新ニ設ケラレタル規定ナリトス水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水トハ水道ノ機關ニ

依リ日々公衆ニ輸送スル飲料水ヲ云ヒ水源トハ水道ノ淵源トナルヘキ河川ヲ云フ彼ノ瀦水池ノ如キハ之ヲ水源ト云フヘキカ又ハ水道ノ一部ト云フヘキカハ多少議論ノ餘地ナキニアラサルヘシト雖モ本條ニ所謂水源トハ水道ノ根源地ヲ指稱シタルモノニシテ瀦水池ノ如キハ一旦根泉ヨリ引水シ廓清シテ飲料水ニ供スル迄ノ間一時瀦留セシムルモノナレハ寧ろ水道ノ一部ト云フヲ妥當ナリト信ス

第四百四十四條ハ舊刑法第二百四十四條ト全ク同一趣旨ノ規定ナリトス

第四百四十五條モ亦舊刑法第二百四十五條ト同一趣旨ニ基ク規定ナリトス

第四百四十六條モ亦第四百四十四條ト同シク水道ヲ保護スルノ目的ニ出ツ本條ハ飲用ノ淨水又ハ水源ニ毒物其他人ノ健康ヲ害スヘキ物ヲ混入シタル場合及ヒ是ニ因リテ人ヲ死ニ致シタル場合ノ規定ニシテ健康ヲ害スル罪ノ中最モ重要ナルモノニ屬ス蓋シ此種ノ犯罪ハ前已ニ述フル如ク其害ノ及フヘキ範圍極メテ廣汎ナレハ從テ科刑ノ率モ亦重カラサルヘカラス是レ致死ノ場合ニ死刑ヲ科スル所以ナリ

第四百四十七條モ亦前條ト同一ノ目的ヲ有シ飲用ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞
又ハ壅塞セシ場合ノ規定ナリ。

損壞トハ損傷毀滅シテ水道ノ用ヲ爲サシメサルニ至ル行爲ヲ云ヒ壅塞トハ
水道ノ輸送ヲ蔽塞シテ通水ヲ不能ナラシムル行爲ヲ云ヒ損壞壅塞ハ相牽連
シテ罪ヲ構成スルモノニアラス個々別々ニ獨立シテ犯罪ヲ成立スルハ論ヲ
俟タサル所ナリトス

第四 疑問及説明

第一 水道ノ中ニ糞ヲ含ムヤ

糞ノ如キモノハ淨水ノ中ニ包含スルモ水道ニハ包含セス

第二 毒物ヲ水源ニ入レ因テ人ヲ死ニ致シタルトキハ死刑ニ處スルコトト
ナリ居レリ立法ノ趣旨ハ毒物ヲ水源ニ入ルルノ行爲ヲ以テ直チニ殺意ヲ
以テ認ムルニ在ル乎

人ヲ殺スノ意思ヲ以テ毒物ヲ水源ニ入レタルトキハ毒殺殺人未遂罪等ノ
犯罪ヲ構成スヘク第四百四十六條ノ場合ニ於テハ人ヲ殺スノ意思ナキモ毒

物ヲ混入シタル結果人ヲ死ニ致シタル場合ノ規定ナリ

第四百四十八條 行使ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣紙幣又ハ銀行券
ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス
偽造變造ノ貨幣紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ
以テ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ

第四百四十九條 行使ノ目的ヲ以テ内國ニ流通スル外國ノ貨幣
紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ二年以上ノ有期
懲役ニ處ス

偽造變造ノ外國貨幣紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目
的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ

第四百五十條 行使ノ目的ヲ以テ偽造變造ノ貨幣紙幣又ハ銀行
券ヲ收得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第一百五十一條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第一百五十二條 貨幣紙幣又ハ銀行券ヲ收得シタル後其偽造又ハ變造ナルコトヲ知り之ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シタル者ハ其名價三倍以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一圓以下ニ降スコトヲ得ス

第一百五十三條 貨幣紙幣又ハ銀行券ノ偽造又ハ變造ノ用ニ供スル目的ヲ以テ器械又ハ原料ヲ準備シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第一 沿革

第一案 第二百十二條内國ニ於テ適法ノ通用ヲ爲ス内外國ノ金銀貨ヲ偽造シテ使用シタル者ハ一等有期徒刑ニ處ス
若シ其量目ヲ減シ又ハ命價ヲ増シテ之ヲ變造シ使用シタル者ハ

三等有期徒刑ニ處ス

第二百十三條 政府ニ於テ發行スル紙幣若クハ紙幣ニ準スル證券又ハ官許ヲ得テ發行スル内外國銀行ノ紙幣若クハ紙幣ニ準スル内外國銀行ノ證券ヲ偽造變造シテ使用シタル者ハ前條ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百十四條 内國ニ於テ適法ノ通用ヲ爲ス内外國ノ銅貨若クハ白銅貨ヲ偽造變造シテ使用シタル者ハ一年以上五年以下ノ有役禁錮及十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百十五條 前數條ニ記載シタル貨幣證券ヲ偽造變造シテ之ヲ使用セサル者及ヒ其偽造變造ニ與セスシテ之ヲ使用シタル者ハ前數條ノ例ニ照シ各二等ヲ減ス

第二百十六條 偽造變造ノ貨幣證券ヲ内國ニ輸入シ又ハ之ヲ使用シタル者ハ内國ニ於テ貨幣證券ヲ偽造變造シ又ハ之ヲ使用シタル者ト同ク論ス

第二百十七條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ已ニ遂ケタル者ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

偽造・變造ノ豫備ヲ爲スニ止マリ未タ着手セサル者ハ偽造・變造ノ刑ニ三等ヲ減ス

第二百十八條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ監視ニ付スルコトヲ得

第二百十九條 貨幣證券ヲ偽造・變造シ又ハ輸入シタル者未タ之ヲ使用セサル前ニ於テ自首シタルトキハ本刑ヲ免シ一年以上三年以下ノ監視ニ付ス

第二百二十條 内外國ノ貨幣證券ヲ取受スルノ後ニ於テ偽造又ハ變造ナルコトヲ知リ之ヲ使用シタル者ハ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二案 第二百二十二條 行使ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣・紙幣又ハ兌換券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

内國ニ流通スル外國ノ貨幣・紙幣又ハ兌換券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

第二百二十三條 偽造・變造ノ貨幣・紙幣又ハ兌換券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ輸入シタル者ハ前條ノ例ニ同シ

第二百二十四條 偽造・變造ノ貨幣・紙幣又ハ兌換券ヲ行使スル目的ヲ以テ之ヲ取得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十五條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百二十六條 貨幣・紙幣又ハ兌換券ヲ取得シタル後其偽造又ハ變造ナルコトヲ知テ之ヲ行使シタル者ハ其價額三倍以下ノ罰金ニ處ス但一圓以下ニ下スコトヲ得ス

第二百二十七條 貨幣・紙幣又ハ兌換券ノ偽造・變造ノ用ニ供スル目的ヲ以テ器械又ハ原料ヲ準備シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十八條 本節ノ罪ヲ犯シ懲役ニ處ス可キ者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

本節ノ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キ者ニハ監視ヲ附加スルコトヲ得

第三案

第七十二條 行使ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣、紙幣又ハ兌換銀行券

ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

内國ニ流通スル外國ノ貨幣、紙幣又ハ兌換銀行券ヲ偽造又ハ變造

シタル者ハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

第七十三條 偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ兌換銀行券ヲ行使シタル

者ハ前條ノ例ニ同シ

行使ノ目的ヲ以テ偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ兌換銀行券ヲ輸入シ

タル者亦同シ

第七十四條 偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ兌換銀行券ヲ行使スル目

的ヲ以テ之ヲ收受シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第七十五條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第七十六條 貨幣、紙幣又ハ兌換銀行券ヲ收受シタル後其偽造又

ハ變造ナルコトヲ知テ之ヲ行使シタル者ハ其價額三倍以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ一圓以下ニ降スコトヲ得ス

第七十七條 貨幣、紙幣又ハ兌換銀行券ノ偽造又ハ變造ノ用ニ供スル目的ヲ以テ器械又ハ原料ヲ準備シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第七十八條 本章ノ罪ヲ犯シ懲役ニ處ス可キ者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

本章ノ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キ者ニハ監視ヲ附加スルコトヲ得

第四案

第七十一條 第三案第七十二條ニ同シ

第七十二條 第三案第七十三條ニ同シ

第七十三條 行使ノ目的ヲ以テ偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ兌換銀

行券ヲ收受シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第七十四條 第三案第七十五條ニ同シ

- 第七十五條 第三案第七十六條ニ同シ
- 第七十六條 第三案第七十七條ニ同シ
- 第七十七條 第三案第七十八條ニ同シ

第二 參照法律

佛蘭西刑法

第三百二十二條 佛蘭西ニ於テ當然通用ノ金銀貨幣ヲ贗造或ハ偽造セシモノ又ハ其贗造或ハ變造ノ貨幣ヲ發行シ或ハ公ケニ展示スルコトニ加ハリタル者又ハ其貨幣ヲ佛蘭西領地内ニ携ヘ來ルコトニ加リタル者ハ無期ノ徒刑ニ處セラル可シ

佛蘭西國ニ於テ當然通用ノ銅貨幣ヲ贗造或ハ變造セシ者又ハ其贗造或ハ變造ノ貨幣ヲ發行シ又ハ公ケニ展示スル事ニ加リタル者又ハ其銅貨幣ヲ佛蘭西國領地内ニ携ヘ來ル事ニ加リタル者ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第三百三十三條(千八百六十三年五月十三日如左改ム) 外國ノ貨幣ヲ佛蘭西

ニ於テ贗造或ハ變造セシ者又ハ贗造或ハ變造ノ外國幣紙ヲ佛蘭西國內ニ於テ發行シ或ハ公ケニ展示シ或ハ携ヘ來ル事ニ加リタル者ハ無期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第三百三十四條(千八百六十三年五月十三日如左改ム) 佛蘭西國ニ於テ當然通用ノ貨幣或ハ外國ノ貨幣ニ彩色ヲ加ヘ其金質ヲ僞ラント爲ス者又ハ其彩色ヲ加ヘタル貨幣ヲ佛蘭西國內ニ於テ發行シ或ハ携ヘ來リシ者ハ六月ヨリ少カラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ニ處セラル可シ

此彩色ヲ加ヘタル貨幣ヲ發行シ又ハ携ヘ來ル事ニ加リタル者モ亦同上ノ刑ニ處セラル可シ

第三百三十五條(千八百六十三年五月十三日如左改ム) 前三條ニ記載スル犯罪ニ加リタルノ刑ハ贗造變造或ハ彩色ヲ爲シタル貨幣ヲ好質ノ貨幣トシテ之ヲ受取リテ用ヒシ者ニ通シ用フ可カラス然レトモ其貨幣ノ惡質ナルコトヲ證シ又ハ證セシメシ後ニ之ヲ用ヒタル者ハ其用ヒタル金高ノ三倍ヨリ少カラズ六倍ヨリ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可シ但シ如

何ナル場合ニ於テモ其罰金ハ十六フランクヨリ少キコトナカル可シ
第三百三十八條 千八百六十三年五月十三日如左改ム 第三百三十二條ニ記シ
タル重罪ヲ犯セシ者其重罪犯ヲ成就スル前未タ犯罪ノ訴ヲ受ケサル中
ニ其重罪犯ノ旨ト其首謀者トヲ相當ノ官吏ニ告知シタル時又ハ犯罪ノ
訴ヲ受ケタル後ト雖モ他ノ犯人ヲ逮捕スルヲ助ケシ時ハ其刑ヲ宥恕ス
可シ

然レトモ同上ノ者ニ畢生間又ハ定期ノ時間政府ノ監察ヲ受ケシムル事
ヲ得ヘシ

白耳義刑法

第三百六十條 白國ノ通用金銀貨ヲ贋造スル者ハ十年ヨリ十五年マテノ徒
刑ニ處ス可シ

第三百六十一條 白國ノ通用金銀ヲ變質スル者ハ監役ニ處ス可シ

第三百六十二條 凡ソ金銀ニ非サル白國通用貨ヲ贋造スル者ハ一年ヨリ三
年マテノ獄ニ處ス可シ

此等ノ犯罪ハ皆第三十三條ノ奪權ヲ命シ且ツ五年ヨリ十年マテノ監察
ニ處スルコトアリ

第三百六十三條 凡ソ金銀ニ非サル貨幣ヲ變質スル者ハ三月ヨリ一年マテ
ノ獄ニ處ス可シ

第三百六十八條 凡ソ贋造貨幣若クハ變質貨幣ノ通用ヲ共ニシ或ハ共ニセ
シトスル者又贋造貨幣ヲ國內ニ輸入シ或ハ輸入セントスル者ハ前數條
ノ區別ニ從ヒ首從ヲ別チ罪ニ處ス可シ

第三百七十條 凡ソ贋貨變質貨タルヲ知ラスシテ之ヲ請取り爾後自ラ之ヲ
鑑定シ或ハ鑑定セシメ正貨ナラサルヲ知リ之ヲ使用スル者ハ二十六フ
ランクヨリ一千フランク迄ノ罰金ヲ科ス

獨乙刑法

第三百四十六條 内外國ノ貨幣及紙幣ヲ贋造シテ好質ノ貨幣及ヒ紙幣ト爲
シ使用シ又ハ通用セシメントシタル者又ハ使用及ヒ通用セシムルノ意
ニテ好質ノ貨幣ヲ變造シテ平常ノ價ヨリ高價ノ形容ヲ出シタル者又ハ

通用セナル貨幣ニ通用貨幣ノ形容ヲ出シタル者ハ二年ヨリ短カラサル
徒刑ニ處シ其餘監視ノ監視ニ付ス可シ

若シ酌量輕減アルトキハ禁獄ニ處ス可シ

第百四十七條 始メ使用スル意ニ非スシテ自ラ貨幣ヲ贋造變造スルト雖
モ後之レヲ好質トナシ通用セシメタル者又他人ヨリ其贋造變造シタル
貨幣ヲ求メ又之ヲ通用セシメ又通用セシムルノ意ニテ外國ヨリ之ヲ携
ヘ來リタル者ハ前同刑ニ處ス可シ

第百四十八條 贋造變造シタル貨幣ヲ好質ト思ヒ請取リタル後其贋造變
造タルヲ知リテ好質トナシ通用セシメタル者ハ三月ヨリ長カラサル禁
獄又ハ百タノレルヨリ多カラサル罰金ニ處ス可シ

之ヲ犯サントセシ所業モ亦罰ス可シ
第百四十九條 獨乙國又ハ獨乙北部連邦又ハ連邦諸國ノ政府又ハ外國政
府及ヒ邑又ハ會社又ハ證券類發行ヲ許サレタル人等ヨリ發行シタル負
債證券交換鋪紙券株金ノ證券及ヒ何人ヲ論セス證券ヲ持スル人ニ拂フ

ヘキ假證券又之レニ換ルヘキ請取證券及利金證券配分證券(合社等ニテ
配分スルコトアリ之ヲ
名ケテ配分證券ト云フ)及ヒ再興證券等ハ皆紙幣ト同シク見做ス可シ

英吉利刑法典

一 寶貨ヲ偽造シ巧拙ヲ論セス或ハ賤貨ノ金銀及銅鉛錫鐵等ニ金銀ヲ鍍
シ若クハ時用ノ金銀錢ヲ剪錯シ及ヒ金銀ヲ鍍シ之ヲ使用セントスル者
ハ竝ニ重罪ト爲シ五年ヨリ終身ニ至ル所ノ徒刑ニ處シ或ハ二年ニ止ル
囚獄ニ處シ情ニ依リ苦役ヲ加ヘ及ヒ監牢ニ處ス仍ホ限滿テ放免スルト
キニ於テ判事ノ適意ニ依リ其罪犯ノ友人ヲ招致シ豫メ期限ヲ立テ若干
ノ金銀ヲ約定セシメ其再犯セサルコトヲ保結セシム

一 外國ノ貨幣ヲ偽造シテ行使セントシ或ハ明カニ外國ノ賈金ナルコト
ヲ知テ國內ニ携帶スル者ハ竝ニ重罪ニ坐シ五年ヨリ七年ニ止ル徒罪ニ
處ス或ハ二年ニ止ル入獄ニ處シ情ニ依リ苦役及ヒ監牢ヲ加フ
若シ外國ノ賈金ナルコトヲ知テ行使スル者ハ已ニ行使シ及ヒ未タ行使
セサルヲ問ハス輕罪ニ坐シ初犯ハ六ヶ月ノ入獄ニ處シ情ニ依リ苦役ス

再犯ハ二年ノ入獄三犯ハ重罪ニ坐シ五年ヨリ終身ニ至ル徒罪ニ處ス或ハ二年ニ止ル入獄ニ處シ情ニ依リ苦役及ヒ隘牢ヲ加フ

一 外國ノ銅錢ヲ偽造スル者ハ輕罪ニ坐シ初犯一年ニ過キサル入獄ニ處シ再犯ハ五年ヨリ七年ニ止ル徒罪ニ處ス或ハ二年ニ過キサル入獄ニ處シ情ニ依リ苦役及ヒ隘牢ヲ加フ若シ外國ノ贋錢數五以上ヲ夾帶スル者ハ治安裁判所ニ於テ推問シ即日十シルリングヨリ四十シルリング迄ノ罰金ヲ出サシム

若シ盡ク贋錢ヲシテ夾帶シ或ハ肯テ罰金ヲ出ササル者ハ入獄三月限内罰金ヲ出セハ即チ免ス其贋造貨ハ官之ヲ毀棄ス

一 時用ノ銅錢ヲ偽造シ或ハ賤價ニテ之ヲ賣買取與シ若クハ行使セントシ或ハ偽造ノ情ヲ知テ器具ヲ作為繕補賣買シ若クハ人ノ委託ヲ受ケ或ハ藏匿スル者ハ竝ニ重罪ニ坐シ五年ヨリ七年ニ止ル徒刑ニ處シ或ハ二年ニ止ル入獄ニ處シ情ニ依リ苦役及ヒ隘牢ヲ加シ若シ偽造ノ銅錢ナルコトヲ明カニ知テ行使シ或ハ數三以上ヲ夾帶スル者ハ輕罪ニ坐シ一年

ニ過キサル所ノ入獄ニ處斷ス

一 時用ノ錢面ニ文字等ヲ打刻スル者ハ輕罪ニ坐シ一年ニ止ル入獄ニ處斷ス

若シ文字等ヲ打刻シアリテ流通セサル所ノ銅錢ヲ得テ行使スル者ハ治安裁判所ノ判事ノ處ニ於テ推問シ即日四十シルリングノ罰金ヲ出サシム

一 外國ニ於テ偽造スル所ノ贋金ナルコトヲ明カニ知テ境内ニ携帶シ或ハ情ヲ知テ偽造スル所ノ器具ヲ作為繕補賣買シ及ヒ之ヲ家藏シ若クハ人ノ寄託ヲ受ケ或ハ貨幣製造所ヨリ寶貨金銀銅錫器具等ヲ私ニ携帶シテ出ル者ハ竝ニ重罪ニ坐シ罪亦同其携出スト雖モ明カニ文案ヲ立テ事確證アリテ免スヘキ者ハ此限ニアラス以下此ニ準ス可シ

一 明カニ贋造ナル寶貨ヲ知テ行使セントスル者ハ已ニ行使シ及ヒ未タ行使セサルヲ問ハス輕罪ニ坐シ一年ニ過キサル所ノ入獄ニ處ス餘上ノ法ニ同シ或ハ判事ノ適宜ニ依テ其刑ノ上ニ贋罪ヲ加ヘ或ハ止タ本判ノ贋罪ノミニ換ヘ或ハ罪犯ノ友人ヲ招致シ豫メ若干ノ金數ヲ定約シ其後

自ノ善行ヲ保結セシムルコトヲ得ヘシ
若シ行使セントスル時ニ別ニ賈金一ヲ夾帶シ或ハ十日内ニ於テ又タ行
使セントスル者ハ二年ニ至ル入獄ニ處斷ス
若シ行使セントスル時ニ罪犯其外ニ賈金數三以上ヲ夾帶シ或ハ數家ニ
往行シテ之ヲ行使セント試ル者ハ五年ノ徒罪或ハ二年ニ過キサル入獄
ニ處斷ス

奧太利刑法

第百六條 特權ヲ得タル國立銀行ニテ製セシ銀行紙幣同株券、證券官許ヲ
得タル内國銀行ヨリ出シタル負債證券及ヒ之ニ附屬セル利息切符並ニ
利息票ハ之ヲ公債紙類ト同視ス可シ
第百十八條 左ノ各件ヲ犯セシ者ハ貨幣贋造ノ重罪ヲ以テ之ヲ論ス可シ
第一項 通用ノ貨幣ヲ擬造シ假令量目及ヒ率位等正貨ニ同シク或ハ此
レヨリ優レル者ト雖モ猥リニ贋貨ヲ製造セシ者
第二項 通用ノ貨幣ト同位ノ金屬ヲ用ユルト雖モ其量目ヲ減シ若クハ

下位ノ金屬ヲ用ヒテ贋貨ヲ擬造セシ者或ハ贋貨ニ正貨ノ形面ヲ具セ
シ者

第百十九條 此重罪ノ刑ハ五年乃至十年殊ニ大ナル危險若クハ損害アル
時ハ十年乃至二十年ノ重徒刑タル可シ然レトモ其贋造品ノ贋造タルヲ
容易ニ認知ス可キ者或ハ猥リニ製造セシ貨幣ノ量目及ヒ率位ノ眞品ト
同等ナル時ハ其刑期ハ一年乃至五年タル可シ

魯西亞刑法

第五百六十七條 第二項 偶贋造ノ貨幣ヲ受收シテ其貨幣ノ贋物タルヲ
熟知スト雖モ之ヲ官廳ニ呈出セサルノミナラス猶亦眞物ナリトシテ他
ノ者ニ之ヲ授與スル者ハ騙盜ニ就キ確定シタル罪ニ處セララル可シ
第五百八十八條 魯國ノ金銀白金及ヒ銅貨ヲ贋造セシ者ハ假令其贋貨正
貨ト内ク同價格ヲ有スト雖モ重刑ノ第二類第五等刑ニ處セララル可シ
第五百八十九條 魯國造幣官吏第五百八十八條ニ記載スル重罪ヲ犯爲ス
ルトキハ之ヲ重刑ノ第二類第四等ニ處スヘシ又官私ノ鑛山ヨリ竊取ス

ル金銀白金ヲ以テ魯國ノ印有ル貨幣ヲ贋造スル者モ其價額正貨ニ齊シト雖モ同上ノ刑ニ處ス可シ

第五百九十条 外國ノ貨幣ヲ偽造スル者ハ其價額正貨ニ殊ナラストイヘトモ重刑ノ第二類第七條ニ處ス可シ

第五百九十一条 貨幣偽造ノ罪ヲ共犯シ或ハ爲メニ印章模型其他器械ヲ調達或ハ付與セシ者モ第五百八十八條及ヒ第五百九十條ノ刑ヲ以テ論セラル可シ若シ共犯者其罪ヲ政府ニ自首シ以テ其事ヲ發覺シ能ク之ヲ制セシメシトキハ犯人ノ罪ヲ全免シ其名ヲ秘藏ス可シ

第五百九十二条 自ラ關係セスト雖モ凡ソ他ノ貨幣偽造ヲ爲ヌヲ知テ之ヲ届ケ出サル者ハ懲治刑ノ第一類第三等ニ處セラル可シ

第五百九十五条 外國ニ於テ偽造セシ魯國ノ貨幣ヲ情ヲ知テ内國へ輸入シ或ハ輸入セシメシ者ハ第五百八十条ニ從テ其罪ヲ論スヘシ而シテ其輸入セシ賈貨ハ之ヲ沒收ス

第五百九十六条 十六ルノベル或ハ二十四ルノベル通用ノ古銅貨ヲ外國

へ輸出セシ者ハ其輸出セント欲セシ價額四倍ノ罰金ヲ科スヘシ而シテ其輸出セント欲セシ貨幣ハ之ヲ沒收ス

第五百九十七条 情ヲ知テ外國ノ賈貨ヲ輸入シ或ハ輸入セシメシ者ハ重刑ノ第二類第七等刑ニ處スヘシ仍ホ其賈貨ハ之ヲ沒入ス

第六百條 貨幣贋造者或ハ賈貨使用人タル情ヲ知テ爲メニ賈貨融通ノ手傳ヲ爲セシ者ハ貨幣贋造ノ共犯ヲ以テ其罪ヲ論スヘシ又賈貨ヲ受收スル後其賈造物ナルヲ知テ猶ホ之ヲ届ケ出テス正當ノ物ノ如ク再ヒ之ヲ使用スル者ハ作偽ノ罪トシテ第二百八十四條ニ據テ罰スヘシ

第六百四條 魯國ノ紙幣公債證書預證書爲換手形其他凡ソ貨幣ニ代用スヘキ手形類ヲ贋造スル者ハ左ノ規則ニ從テ刑セラル可シ

(一) 同上ノ紙幣ニ用エヘキ紙及ヒ模様ヲ贋造シ或ハ紙幣ノ價額ヲ高位ノ物ニ變セシ者ハ内國ノ貨幣贋造者ニ齊シク第五百八十八條ニ從テ刑セラル可シ

(二) 通常ノ用紙ニ手筆ヲ以テ同上ノ手形類ヲ贋造シ或ハ銀行ノ紙幣ニ

供ス可キ用紙ヲ竊取セシ者ハ重刑ノ第二類第六等ニ處ス可シ

(三) 紙幣或ハ銀行ノ紙幣ノ色ヲ變シ上位ノ紙幣ニ擬スル者ハ其高及ヒ爾他ノ情狀ニ從ヒ懲治刑第一類第三等或ハ四等ニ處ス可シ

(四) 紙幣ニ供ス可キ用紙ヲ竊取シ其儘通用ニ行使スル者ハ第三百卅條ノ官署ノ證書ヲ竊ム者ニ付キ科ス可キ刑ノ最モ重キヲ以テ論ス可シ

(五) 同上ノ用紙ヲ竊取シ之ヲ變造シテ行使スル者ハ重刑ノ第二類第六等ニ處ス可シ

第六百五條 政府ノ命ヲ奉シテ紙幣ヲ造ル者或ハ其事務監督ノ任有ル者ニシテ前條ノ重罪ヲ犯ストキハ各一等ヲ加フ可シ

第六百六條 或ハ方法ヲ以テ魯國ノ紙幣贋造ニ關係シ或ハ情ヲ知テ器械物品等ヲ用意シ或ハ貸渡シ或ハ賣買シ或ハ同上不正ノ紙幣ヲ情ヲ知テ外國ヨリ輸入スル者ハ皆第六百四條ノ刑ヲ受ク可シ同上贋造ノ共犯者自首シテ其黨與ヲ告ケ以テ能ク之ヲ制セシムルトキハ該人ノ罪ヲ免シ且ツ其犯名ヲ削ラルヘシ首謀及ヒ共犯者ハ其刑ノ外尙ホ贋造セシ紙幣

ノ價ニ齊シキ罰金ヲ科セラルヘシ

第六百七條 自ラ紙幣贋造ニ關係スルニ非ストイヘトモ其贋造ヲ企ツル者有ルヲ知テ之ヲ届ケ出サル者ハ懲治刑ノ第二類第五等ニ處ス可シ

埃及刑法

第七百七十四條 內國ニ於テ當然通用スル金銀貨幣ヲ贋造シ又ハ鍍鑿錐硝酸等ヲ用ヒ貨幣中ニ入リタル金銀ヲ磨穿銘出シ貨幣ノ量ヲ減シタルモノ又ハ貨幣ニ着色シテ其價ヲ實ヨリ更ニ大ナルカ如ク見セシメタル者又ハ右贋造變造ノ貨幣ヲ流通セシムルヲ其職業ト爲ス者ハ有期ノ徒刑ニ處セラシムル可シ但シ其刑期ハ決シテ十年以下タルコトナカル可シ

第七百七十五條 何人ニ限ラス國內ニ於テ外國ノ貨幣ヲ贋造シ又ハ第十四條ニ記シタル方法ヲ用ヒ外國貨幣ノ價ヲ減シ或ハ其色ヲ變シ又ハ右贋造變造ノ外國貨幣ヲ發出シ或ハ之ヲ國內ニ輸入スルニ加ハリ又ハ之ヲ流通セシムルヲ其職業ト爲ス者ハ有期ノ徒刑ニ處セラシムル可シ

第七百七十七條 贋造變造ノ貨幣ヲ正シキ貨幣ナリト爲シ受取リテ流通セ

シメタル者ニハ前數條ノ規則ヲ通シ用フヘカラス然レトモ右貨幣ノ假造又ハ變造タルヲ識認シタル後之ヲ用ヒシ者ハ其用ヒタル貨幣ノ高ノ三倍ヨリ少ナカラス六倍ヨリ多カラサル罰金ヲ言渡サルヘシ但シ其罰金ハ決シテ百ピアストル以下タルコトナカル可シ

第七十八條 第七十四條第七十五條第七十六條ニ記シタル者其罪ヲ成就セサル前且ツ其犯罪告訴ノ始マラサル前ニ相當ノ官吏ニ其罪ヲ自訴シ又ハ其犯罪告訴ノ既ニ始リシ後ト雖モ他ノ犯人ノ逮捕ヲ得セシメタル時ハ其刑ヲ免ル可シ然レトモ此等ノ者ハ一時政府ノ機密ヲ受ケシム可シ

印度刑法

第二百三十條 貨幣トハ通用スルカ爲メ諸政府ヨリ刻印發行スル所ノ貨物ヲ云フ

國王ノ貨幣トハ國王ノ權或ハ印度政府ノ權或ハ印度州政府或ハ其他國王領地内ノ政府ノ權ヲ以テ刻印發行スル貨幣ヲ云フ

第二百三十一條 貨幣ヲ假造シ或ハ知ナカラ假造ノ一事ヲ行フ者ハ七年ニ止ル各種ノ囚獄ニ處シ且贖金ヲ科ス

第二百三十二條 國王ノ貨幣ヲ假造シ又ハ之ヲ假造スルニ係ル一事ヲナス者ハ終身流若クハ十年ニ止ル各種ノ囚獄ニ處シ且贖金ヲ科ス

第二百三十三條 貨幣假造ニ用ヒタルコトヲ知り又ハ之ニ用フヘキ目的ヲ以テ假造器械ヲ製作修補賣買スル者ハ三年ニ止ル各種ノ入獄ニ處シ且贖金ヲ加フ

第二百三十四條 其國王ノ貨幣ヲ假造スルニ用ヒタルコトヲ知り又ハ之ニ用フヘキ目的ヲ以テ國王ノ貨幣假造ノ器械ヲ製作修補賣買スル者ハ七年ニ止ル入獄ニ處シ且贖金ヲ科ス

第二百三十七條 其假造タルヲ知り假造ノ貨幣ヲ英領印度ニ輸入シ或ハ英領印度ヨリ輸出スル者ハ三年ニ止ル各種ノ入獄ニ處シ且贖金ヲ科ス

第二百三十八條 其假造タルヲ知り假造ノ國王貨幣ヲ英領印度ニ輸入シ或ハ英領印度ヨリ輸入スル者ハ十年ニ止ル各種ノ入獄ニ處シ且贖金ヲ科ス

第二百三十九條 贋造ノ貨幣タルコトヲ知り詐欺ヲ以テ之ヲ人ニ渡シ又ハ之ヲ渡サント試ミルモノハ五年ニ止ル各種ノ入獄及ヒ贖金ニ處ス
第二百四十條 贋造タルコトヲ知り詐欺ヲ以テ人ニ國王ノ貨幣ニ擬シタル贋貨ヲ渡シ又ハ渡サント試ミル者ハ十年ニ止ル各種ノ入獄及贖金ニ處スヘシ

第二百四十一條 初メ受ケシ時其贋造タルヲ知ラスト雖モ其後贋造タルヲ知り贋造ノ貨幣ヲ眞トシテ他人ニ渡シ或ハ他人ヲシテ眞トシ認メテ受ケシメント試ミル者ハ二年ニ及フ各種ノ入獄若クハ其贋造貨幣ノ價十倍ニ止ル贖金ヲ以テ之ヲ罰ス又ハ入獄贖金ヲ併科ス

第二百四十二條 人ヲ欺クノ心ヲ以テ贋造ト知ル所ノ貨幣ヲ所持スル者ハ三年ニ止ル各種ノ入獄及ヒ贖金ニ處ス可シ

第二百四十三條 人ヲ欺クノ心ヲ以テ贋造ト知ル所ノ國王ノ貨幣ニ擬シタル贋貨ヲ所持スル者ハ七年ニ及フ各種ノ入獄及ヒ贖金ニ處ス可シ
第二百四十六條 詐欺ヲ以テ貨幣ノ目方ヲ減シ或ハ其品位ヲ變スル者ハ

三年ニ及フ各種ノ入獄ニ處シ且贖金ニ科ス

第二百四十七條 詐欺ヲ以テ國王ノ貨幣ノ目方ヲ減シ其品位ヲ變スル者ハ七年ニ及フ各種ノ入獄及ヒ贖金ニ處スヘシ

第二百四十八條 別種ノ貨幣トシテ使用セシメン爲メ貨幣ノ外見ヲ變スル者ハ三年ニ止ル各種ノ入獄及贖金ニ處スヘシ

第二百四十九條 別種ノ貨幣トシテ使用セシメン爲メ國王ノ貨幣ノ外見ヲ變スル者ハ七年ニ止ル各種ノ入獄及贖金ニ處スヘシ

米國刑法

第五千四百十五條 銀行紙幣ヲ偽造變造シ又ハ之ヲ助クル者及其偽造變造タルヲ知テ之ヲ行使スル者ハ五年以上十五年以下ノ入獄ニ處シ且一千弗以下ノ贖金ヲ科ス

第五千四百五十七條 合衆國ノ金銀貨幣又ハ合衆國ニ通用スル外國ノ金銀貨幣ヲ偽造變造スル者之ヲ助クル者及其偽造變造タルヲ知テ之ヲ行使シタル者ハ五千弗以下ノ贖金ヲ科シ且ツ十年以下ノ加苦役囚獄ニ處

ス

第五千四百五十八條 合衆國ノ銅貨ヲ偽造變造スル者及之ヲ助クル者又ハ其偽造變造タルヲ知テ之ヲ行使シ又ハ外國ヨリ輸入スル者又ハ人ヲ欺クノ意ヲ以テ之ヲ所持スル者ハ一千弗以下ノ贖金ヲ科シ且三年以下ノ加苦役入獄ニ處ス

第五千四百五十九條 詐欺ノ心ヲ以テ合衆國ノ金銀貨幣及ヒ合衆國ニ通用スル外國金銀貨幣ノ銖銖價額ヲ變スル者ハ二年以下ノ囚獄ニ處シ且ツ二千弗以下ノ贖金ヲ科ス

第五千四百六十一條 匪法ニ合衆國及外國ノ金銀及ヒ其他ノ貨幣ヲ造リ又ハ造ラシムル者及ヒ之ヲ行使シ又ハ行使セント試ミル者ハ三千弗以下ノ贖金ヲ科シ且五年以下ノ囚獄ニ處ス

土耳其刑法

第四百十三條 土耳其帝國ニ於テ公然通用ノ金銀貨幣ヲ偽造シ鑄鑿雖其他ノ器械手段ヲ以テ貨幣中ニ合入スル金銀ノ一部分ヲ採取テ其量目ヲ

減シ貨幣ヲ鍍飾シテ高價ニ通セシメ其偽造變造ノ貨幣ヲ發行シ又ハ其貨幣ヲ土耳其格ノ所領内ニ輸入スルヲ助ケシ者或ハ其流通ヲ謀リシ者ハ有期ノ徒刑ニ處スヘシ但シ其刑期ハ如何ナル場合ト雖モ十年以上タルヘシ

第四百十四條 何人ニ限ラス土耳其帝國ニ於テ通用ノ銅貨ヲ偽造シ又ハ其銅貨ヲ發行シ或ハ土耳其格ノ所領内ニ輸入スルヲ助ケシ者ハ有期ノ徒刑ニ處スヘシ

第四百十五條 土耳其帝國ニ通用スル外國ノ貨幣ヲ偽造シ第四百十三條ニ記シタル手段ヲ以テ其貨幣ノ量目ヲ減シ鍍飾ヲ爲シ又ハ偽造變造シタル外國ノ貨幣ヲ土耳其格ノ領内ニ輸入シ或ハ其流通ヲ謀リシ者ハ有期ノ徒刑ニ處スヘシ

第四百十六條 前數條ニ記シタル犯罪ヲ助ケシ者ノ刑ハ偽造又ハ變造シタル貨幣ヲ好質ト思ヒ之ヲ受取リテ使用セシ者ニ適用ス可カラス然レトモ其使用セシ貨幣ノ惡質ナルコトヲ檢知シタル後之ヲ使用セシ者ハ

其使用セシ貨幣ノ高ノ三倍ヨリ少ナカラス六倍ヨリ多カラサル罰金ヲ科ス可シ但シ其罰金ハ如何ナル場合ト雖モ金ノ「メジバエ」ヨリ少ナキコト勿ルヘシ

第四百十七條 第四百十三條第四百十四條及ヒ第四百十五條ニ記シタル重罪ヲ犯セシ者其重罪ヲ遂クル前及ヒ訴訟ヲ受クル前其重罪ノ情實ト其首謀トヲ官府ニ告知シタル時又ハ訴訟ヲ受ケタル後ト雖モ他ノ犯人ヲ逮捕スルヲ助ケシ時ハ其刑ヲ宥恕ス可シ但シ犯人ハ一時政府ノ監察ヲ受クルモノトス

布哇刑法

此法律ニ於テ貨幣ト稱スル者ハ通用ノ金銀寶貨ヲ云フ
何人ニテモ貨幣ヲ偽造シ又ハ其共犯ニシテ偽貨ヲ使用シタル者ハ苦役ヲ附シタル終身ノ囚獄ニ處シ又ハ裁判官ノ適當トスル所ノ年限ノ囚獄ニ處スヘシ
何人ニテモ偽貨ナルコトヲ知テ之ヲ行使セントシ又ハ偽造ナルコトヲ知

リ十箇以上ヲ所持スル者ハ二十年以下ノ苦役ヲ附スル囚獄ニ處シ或ハ一千弗以内ノ贖金且五年以上ノ苦役ヲ附スル囚獄ニ處ス可シ
十箇以下ノ偽貨ヲ行使スルノ目的ヲ以テ所持スル者ハ十年以下ノ囚獄又ハ五百弗以内ノ贖金及ヒ二年以下ノ囚獄ニ處ス可シ
寶貨ヲ受取リタル後始メテ其偽造ナルコトヲ知リ之ヲ行使セントスル者ハ苦役ヲ附スル五年以下ノ囚獄又ハ一千弗以内ノ贖金ニ處ス

那威刑法

第七十四條 交通界ニ附與スル爲メ内國又ハ外國ノ通用貨幣ヲ偽造シタル者又ハ此種ノ意向ヲ以テ偽造貨幣ヲ準備シタル者又ハ其協力者ニハ三年以上ノ禁錮ヲ科刑ス可シ

個々ノ貨幣又ハ證券ヲ準備シ又ハ特別ニ偽造器具ヲ使用セスシテ之ヲ偽造シタル者ニハ比較的短期間ノ禁錮ヲ科スルコトヲ得

第七十五條 交通界ニ附與スル爲メ磨滅截斷又ハ其他ノ方法ニ依リ内國又ハ外國ノ通用貨幣ノ價值ヲ減損シタル者又ハ此種ノ意向ヲ以テ通

用貨幣ニ其實價以上ノ價值ノ表示ヲ爲シ又ハ通用シ難キ貨幣ニ通用貨幣ノ表記ヲ爲シタル者又ハ其協力者ニハ八年以下ノ禁錮ヲ科刑ス

第七十六條 偽造又ハ變造ノ貨幣第七十四條、第七十五條ヲ真正又ハ不變造ノ貨幣トシテ交通界ニ附與シタル者又ハ其協力者ニ對シ上述ノ條項ニ依リ宣告ヲ爲ス可カラサル限リハ之ニ十年以下若クハ六年以下ノ禁錮ヲ科刑ス

行爲者自身善意ヲ以テ偽造又ハ變造ノ貨幣ヲ受領シタリシトキハ之ニ金刑又ハ六月以下ノ禁錮ヲ科刑ス

磨滅截斷又ハ其他ノ方法ニ依リ減損シタル鑄貨ヲ善意ヲ以テ通用貨幣トシテ受領シタル場合ニ於テ之ヲ交通界ニ附與スル行爲ハ之ヲ刑ス可カラス

第七十七條 第七十四條及ヒ第七十五條ニ對スル罪ノ準備ノ爲メ明確ニ貨幣ノ製作又ハ變造ニ供ス可キ器具又ハ其他ノ物件ヲ準備又ハ製作シタル者又ハ其協力者ニハ六年以下ノ禁錮ヲ科刑ス

和蘭刑法

第二百八條 善良ニシテ且偽造物ニアラストシテ之ヲ發行シ又ハ之ヲ發行セシムルノ企望ヲ以テ貨幣又ハ紙幣ヲ偽造又ハ變造シタルモノハ九年以下ノ禁錮ニ處ス

第二百九條 貨幣又ハ紙幣ヲ受領シタルノ際其偽造又ハ變造ニ係ルコトヲ知り好意ヲ以テ善良ニシテ且偽造物ニアラストシテ之ヲ發行シ又ハ善良ニシテ且偽造物ニアラストシテ之ヲ發行セシムルノ企望ヲ以テ之ヲ貯蓄シ又ハ歐羅巴ノ和蘭王國內ニ輸入シタル者ハ九年以下ノ禁錮ニ處ス

第二百十條 價格ヲ減シタル貨幣ヲ發行シ又ハ之ヲ發行セシムルノ企望ヲ以テ貨幣ノ價格ヲ減シタル者ハ貨幣改造ノ罪ヲ犯シタルモノトシテ八年以下ノ禁錮ニ處ス

第二百十一條 貨幣ヲ受領シタルノ際其改造ニ係ルコトヲ知り改造物ニアラストシテ之ヲ發行シ又ハ之ヲ發行セシムルノ企望ヲ以テ之ヲ貯蓄

シ又ハ歐洲ノ和蘭王國內ニ輸入シタル者ハ八年以下ノ禁錮ニ處ス
第二百十二條 外國ノ貨幣又ハ紙幣ニ對シテ第二百八條第二十一條ニ
掲ケタル犯罪ノ一ヲ行ヒタルトキハ禁錮ノ刑ノ最高點ヨリ二年ヲ減ス
ルモノトス

第二百十三條 偽造、變造、改造ノ情ヲ知リタル後偽造、變造又ハ改造ニ係ル
貨幣又ハ偽造、變造ニ係ル紙幣ヲ通用セシメタル者ハ三月以下ノ禁錮又
ハ三百フロラン以下ノ罰金ニ處ス

第二百十四條 貨幣ニ關スル犯罪ヲ行フノ用ニ供スヘキモノナルコトヲ
知リ原料及ヒ器械ヲ所有スル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ三百フロラン以
下ノ罰金ニ處ス

原料及ヒ器械ハ之ヲ沒收ス

第二百十五條 第二百八條乃至第二百十一條ニ特定シタル犯罪ノ一ニ因
リテ刑ヲ言渡ス場合ニ於テハ第二十八條第一項乃至第四項ニ列擧シタ
ル權利ノ剝奪ヲ宣告スルコトヲ得

奧太利刑法草案

第二百五十一條 何人タリトモ偽造又ハ變造シタル貨幣ヲ其外觀通リニテ
流通セシムルノ目的ヲ以テ國家ノ流通金屬貨幣又ハ紙幣又ハ刑法上ノ
保護ノ點ニ於テ國家貨幣ニ同視セララルル貨幣ヲ偽造シ又ハ真正ノ貨幣
ヲ變造シテ之ニ高價ノ外觀ヲ與ヘ又ハ流通以外ノ(流通ヲ止メラレタル)
貨幣ヲ變造シテ之ニ通用ノ外觀ヲ與ヘタル者又ハ有債券ノ切斷又ハ結
合ニ依テ其ノ數ヲ増加シタル者ハ十五年以下ノ懲役又ハ一年ヨリ少ナ
カラサル禁錮ヲ以テ處刑セララルルモノトス又之ニ五千フロリン以下ノ
罰金ヲ附加スルコトヲ得

偽造又ハ變造物カ各五フロリンヲ超ヘサルモノニシテ且増發ニ要スル
器械又ハ方法ニ依リ偽造ヲ爲シタルニアラサルトキハ五年以下ノ懲役
又ハ六月ヨリ少ナカラサル禁錮ヲ言渡サル可キモノトス又二千フロリ
ン迄ノ罰金ヲ附加スルコトヲ得ルモノトス
又監視ニ付スルノ言渡ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

第五十二條 第五十一條ニ記載シタル目的アルニアラスシテ自ラ偽造又ハ變造シタル貨幣ヲ真正ノ物トシテ流通シタル者竝ニ其外觀通りノ價額ヲ以テ流通スル爲メ或ル者カ偽造シ又ハ變造シタル貨幣ヲ買入レ領收シ又ハ他人ニ附與シタル者ニモ亦前條ノ刑ヲ適用スルモノトス

第五十三條 何人タリトモ第五十二條及ヒ第五十三條ノ場合ノ外偽造又ハ變造貨幣ヲ真正ノ貨幣トシテ流通セル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ五百「フロリン」以下ノ罰金ヲ以テ處刑セラルルモノトス

第五十六條 何人タリトモ定量ノ物トシテ流通スルノ目的ヲ以テ真正ノ流通金屬貨幣ヲ切斷シ摩削シ又ハ他ノ方法ニ依テ減量シタル者ハ懲役五年以下又ハ禁錮ヲ以テ處刑セラルルモノトス又之ニ二千「フロリン」以下ノ罰金ヲ附加スルコトヲ得

何人タリトモ前條ノ目的アルニアラスシテ減量シタリシ貨幣ヲ定量ノモノトシテ流通スル者竝ニ流通スルノ目的ヲ以テ或者カ減少シタル貨幣ヲ買入レ領收シ又ハ他人ニ附與シタル者ニモ亦前項ノ刑ヲ適用スル

モノトス

瑞西刑法典案

第四十二條 眞正物ニ轉用スル爲メ偽造貨幣、偽造銀行券又ハ偽造流通券ヲ作製シタル者ニハ懲役ヲ科刑ス。行爲者其大數ヲ作製シタルトキハ其刑ハ三年以上ノ懲役トス

容易ニ偽造ヲ認知ス可キトキ又ハ行爲者輕少ノ價値ヲ有スル二三ノ貨幣ノミヲ作製シタルトキハ三月以上ノ禁錮ヲ裁定スルコトヲ得

自由刑ニハ何ノ場合ト雖モ一萬「フランク」以下ノ罰金ヲ併科スルコトヲ得

流通券トハ債務證書、株券、共有券、假定券、大數ヲ發行セル質入證書竝ニ利息金及割賦金證書ヲ曰フ

第四十三條 偽造者ト共謀シテ偽造貨幣、偽造銀行券及ヒ流通券ヲ發行ナシタル者ニハ懲役又ハ六月以上ノ禁錮ヲ科刑ス

自由刑ニハ一萬「フランク」以下ノ罰金ヲ併科スルコトヲ得

第四百十四條 真正ノ貨幣、真正ノ銀行券、真正ノ流通券ヲ變更シテ之ニ高價額ノ銘價ヲ付シタル者ニハ六月以上ノ禁錮又ハ五年以下ノ懲役ヲ科刑ス

自由刑ニハ一萬フランク以下ノ罰金ヲ併科スルコトヲ得

第四百十五條 金貨トシテ轉用スル爲メ截斷、磨消、穿孔、列溝ニ依リ鑄貨ノ量目ヲ減却シタル者ニハ禁錮又ハ二千フランク以下ノ罰金ヲ科刑ス
鑄貨ノ減量ヲ常業トスル者ニハ五年以下ノ懲役ヲ科刑ス、懲役ニハ五千フランク以下ノ罰金ヲ併科スルコトヲ得

第四百十六條 偽造變造又ハ減量セルモノナルコトヲ知ルニ拘ハラヌ偽造又ハ變造セル貨幣、偽造又ハ變造セル銀行券、偽造又ハ變造セル流通券又ハ減量セル鑄貨ヲ真正又ハ不變造又ハ全價額ノモノトシテ發行シタル者ニハ懲役又ハ五千フランク以下ノ罰金ヲ科刑ス

第四百十七條 真正不變造又ハ全價額ノモノトシテ流通セシムル爲メ偽造又ハ變造貨幣又ハ偽造又ハ變造銀行券又ハ減量セル鑄貨ノ大數ヲ輸

入又ハ仕入レタル者ニハ五年以下ノ懲役又ハ六月以上ノ禁錮ヲ科刑ス
自由刑ニハ五千フランク以下ノ罰金ヲ併科スルコトヲ得

第四百十條 貨幣銀行券流通券又ハ官ノ有價章又ハ物品章ノ偽造又ハ變造ニ供ス可キ模型裝置又ハ器械ヲ製作シ又ハ其仕入ヲ爲シタル者ニハ禁錮又ハ三年以下ノ懲役ヲ科刑ス

第四百十一條 偽造及變造ノ貨幣、偽造及ヒ變造ノ銀行券、流通券、偽造又ハ變造ノ官ノ有價章又ハ物品章、減量セル鑄貨竝ニ偽造器械ハ之ヲ沒收シ其效用ヲ毀滅ス可シ

第四百十二條 本章ノ規定(第三百十八條乃至第五百十一條)ハ外國ノ鑄貨又ハ紙幣及ヒ外國ノ文書、銀行券、流通券及ヒ有價章及ヒ物品章ニモ亦之ヲ適用ス

明律

凡偽造寶鈔不分首從及窩主若知情行使者皆斬財產並入官告指者官給賞銀二百五十兩仍給犯人財產

凡私鑄銅錢者絞匠人罪同爲從及知情買使者各減一等告指者官給賞銀五十兩里長知而不首者杖一百不知者不坐○若將時用銅錢剪錯薄小取銅以求利者杖一百○若偽造金銀者杖一百徒三年爲從及知情買使者各減一等

唐律

諸私鑄錢者流三千里作具已備未鑄者徒二年作具未備者杖一百
苦磨錯成錢令薄小取銅以求利者徒一年

清律

與明律同

第三 釋義 本章ノ規定ハ舊刑法第二編第四章第一節ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ

例ニ依リ其修正ノ要點ヲ舉クレハ左ノ如シ

第一 舊刑法ニ於テハ通貨偽造罪ノ成立ニハ偽造又ハ變造ノ行爲ト行使ノ行爲トノ二要素ヲ必要トシ單ニ偽造ノ場合ニハ刑ヲ輕減スルコトト爲セリ然レトモ本法ニ於テハ通貨偽造ノ罪ハ通貨ノ偽造又ハ變造ノ成

リタルトキニ成立スヘキモノト爲シ從テ偽造又ハ變造ヲ罰スルコトト爲セリ

第二 舊刑法ハ貨幣ノ種類ヲ金銀貨及紙幣ト銅貨トニ分チ罪ノ輕重ヲ區別スト雖モ本法ハ其區別ヲ廢シタリ又銀行券ニ關スル規定ハ唯兌換銀行券條例ニ在ルノミナルヲ以テ本法ハ茲ニ之ヲ收メタリ

第三 舊刑法第百八十七條及ヒ第百八十八條ハ貨幣偽造罪ノ幫助ノ場合ナルヲ以テ本法ハ總則從犯ノ規定ヲ以テ足レリト爲シ之ヲ削除セリ

第四 舊刑法第百九十二條モ亦總則自首ノ規定ニ讓リ其必要ナキモノトシテ之ヲ削除セリ

法制史ヲ案スルニ古ハ何レノ國ニ於テモ貨幣ヲ偽造スル罪ハ特種ノ名稱ノ下ニ於テ極メテ慘酷ナル刑罰ヲ科セリ羅馬ニ於テハ之ヲ山野ニ投棄シテ猛獸ヲシテ其肉ヲ喰ハシメタル如キ其一例トス是レ蓋シ一面ニ於テハ古代ニ在テハ貨幣鑄造ノ權ハ君主ノ大權ノ一部ナリト看做サレタルカ故ニ其之ヲ偽造スルノ所爲ハ君主ノ大權ヲ侵害スルモノニシテ畢竟大逆罪ノ一種ナリ

ト認メラレタルト一面ニ於テハ當時科學ノ進步尙未タ幼稚ニシテ其鑄造法甚タ粗笨ナリシヲ以テ容易ニ之ヲ偽造スルコトヲ得タルニ依ルモノナルヘシ然レトモ近世理財學ノ發達スルニ及ンテ貨幣ヲ鑄造スルノ權ハ君主ノ大權ニ屬セス單ニ國ノ公益ヲ維持センカ爲メ政府ノ之ヲ保有スルニ過キスシテ殆モ鹽煙草ノ專賣權ヲ政府ニ保留スルト一般ナリトノ新思想ヲ生シ刑罰漸ク寛和ニ赴クノ傾向ヲ生スルニ至レリ

以下各本條ニ就キ説明ヲ附スヘシ

第四百四十八條第一項ハ舊刑法第百八十二條第百八十四條及ヒ第百八十五條ノ規定ヲ合シ之ヲ修正シタルモノニシテ行使ノ目的ヲ以テ通貨タル貨幣紙幣又ハ銀行券ヲ偽造變造シタル罪ノ規定ナリ第二項ハ偽造變造ノ通貨銀行券ヲ行使シタル者ノ外行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シタル者及ヒ之ヲ輸入シタル者ヲ偽造變造者ト同一ニ處分スヘキコトヲ定ム茲ニ行使ノ目的ヲ以テ人ニ交付シタル罪ヲ定ムルハ偽造變造ノ通貨銀行券ヲ賣却シ又ハ他人ヲシテ行使セシムル爲メ之ヲ他人ニ授クル者ヲ嚴重ニ處罰スルノ必要アル

ヲ以テナリ

貨幣トハ交換ノ手段トシテ國家ノ認ムル物件ニシテ其如何ナル物ヲ以テ貨幣ヲ製造スヘキカ貨幣ノ強制通用ノ額ヲ何程ニ定ムヘキカハ貨幣法ノ規定スル所ナリ而シテ茲ニ貨幣ト稱スルハ硬貨ヲ云フ舊刑法ニ於テハ硬貨ハ紙幣ニ對シ金銀銅貨ノ名稱ヲ用ヒ表題ヲ貨幣ヲ偽造スル罪ト爲セシヲ以テ紙幣モ亦硬貨ニ代ルヘキ性質ヲ有スル結果等シク貨幣ノ中ニ包含スルモノト爲セシト雖モ本法ニ於テハ通貨偽造ノ罪ト題シ貨幣紙幣ト列記シタルヲ以テ貨幣ナル語ハ單純ニ硬貨ヲ意味スルコト、ナレリ貨幣ニ於ケル學說ハ率ネ一致シ之ヲ説明スル言辭ハ各異ナル所アリト雖モ要スルニ價格交換ノ用ニ供センカ爲メニ製造セラレタルモノト爲セリ故ニ夫ノ金銀銅塊寶石ノ如キモノハ如何ニ其物質貴重ナルモ貨幣ニアラサルモノト解セサルヘカラス紙幣トハ交換價格ヲ表示シテ何時ニテモ其名價ニ相當スル硬貨ト兌換スヘキ旨ヲ記載シタル紙片ヲ謂ヒ法令ニ依リ發行シタルモノナラサルヘカラス銀行券トハ法令ノ規定ニ依リ發行ノ特許ヲ得テ銀行ヨリ發スル兌換券ヲ謂

ヒ現今日本銀行ニ於テ發行スル兌換券ノ如キハ此一種ナリトス
 舊刑法ニ於テハ貨幣ノ偽造ニ内外ノ區別ヲ設ケ内國通用ノ貨幣ヲ偽造行使
 シタル場合ハ第八十二條ニ内國ニ通用スル外國ノ金銀貨ヲ偽造行使シタ
 ル者ハ第八十三條ニ其規定ヲ設ケタリ而シテ二者法文ノ體様ヲ異ニシ第
 百八十二條ニハ内國通用ノ云々ト規定シ第八十三條ニ於テハ内國ニ於テ
 通用スル云々ト規定シタル爲メ通用ノ意義ニ於テ二様ノ學說ヲ生セリ其一
 ハ通用トハ法律ニ於テ制シタル場合ノミヲ言ヒ任意ノ通用ヲ包含セスト解
 釋シ其二ハ第八十二條ノ場合ニ於テハ強制通用ヲ第八十三條ノ場合ニ
 於テハ強制的タルト任意的タルトヲ問ハス凡テ事實上ノ流通ヲ意味スト解
 ス而シテ本法ニ於テモ此問題ハ大ニ關係ヲ有スルヲ以テ左ニ理由ノ概要ヲ
 摘記シテ讀者研鑽ノ資料ニ供ス

第一說ノ理由ニ曰ク(一) 草案ト成法トヲ比照スルニ第八十二條ト第百
 八十三條トハ國ノ内外ヲ問ハス凡テ強制的の流通力ヲ有スル金銀貨ニ對ス
 ル規定タリシ草案第二百十四條ヲ内外國ノ區別ニ從ヒテ分離シタルモノ

ナルカ故ニ第八十三條ノ規定モ亦強制的の流通力アルモノニ限ラサルヲ
 得ス(二) 茲ニ佛文草案第二百五條ヲ翻譯シタル日本草案ニハ等ク通
 用セサル外國貨幣ナル文字アリテ明カニ一私人カ任意ニ通用セシムルモ
 ノタルニ過キサコトヲ明示スルノ語アリシモ第三百三十八條ニハ此文字
 ナク却テ法律上ノ通用力アルコトヲ意味セル第八十二條ノ通用ナル文
 字ヲ用ヒアルカ故ニ草案第二百五條ハ全ク削除セラレタルモノナリ加
 之通用ナル語ハ他ノ總テノ法文ニ同一ノ用語アリテ而モ其解釋ハ事實上
 ノ流通ニ非スシテ法律上ノ通用ナラサルヘカラスト爲スカ故ニ特リ第百
 八十三條ノミ一層廣キ適用ヲ試ミ任意ノ流通ヲ包含セシムルハ前後ノ解
 釋ニ於テ其一貫ヲ缺クノミナラス法文起草者ノ意思ヲ推測スルニ若シ日
 本ニ於テ彼ノ羅典同盟ノ如キ外國ニ於テ鑄造シタル金銀貨ヲ内國ニ通用
 セシムル法令ヲ公布シタル場合ニ後テ此條ヲ適用セシムルノ精神ナルヲ
 窺フコトヲ得ルヲ以テ之ヲ視レハ任意ノ流通ヲ包含セスト解釋スルノ正
 當ナルヲ知ルヘシ之ヲ要スルニ任意ノ流通ヲモ包含セシメントスルニハ

特別ニ其趣旨ヲ表ハスヘキ法文アルヲ要ス

第二說ノ理由ニ曰ク舊刑法草案第二百十五條ニハ更ニ任意ニ流通セル外國ノ金銀貨ニ對スルノ規定アリ此規定ノ削除セラレタルコトヲ明ニ論定スルニアラサレハ草案第二百十四條ノ舊刑法第八十二條ト第八十三條トニ分離セラレタルモノノ中第八十三條トナリタルモノハ更ニ草案第二百十五條ノ規定ト結合シテ第八十三條ヲ組成シタルモノナリトノ說ヲ排斥スルノ力ヲ有セス又佛文草案第二百十四條ニモ亦第二百十五條ニ於ケルカ如ク法律上ノ通用又ハ翻譯シタル日本文草案ニ合法ノ通用ナル文字アリテ舊刑法第八十二條ノ如ク單ニ通用トノミハ云ハサリキ然ラハ若シ夫レ第一說論者ノ論法ヲ以テ至當ナリトセハ第八十二條ニ對シテモ亦同一ノ筆法ニ依リ同條ノ所謂通用ハ合法ノ通用タルヲ要セスト云ハサルヘカラサルニ至ラン又草案ト確定法文トノ間ニ存スル文字ノ有無ヨリ立論セハ論者ハ何ニ依テ第八十二條ノ通用カ強制的通用ナリトノコトヲ知り得タル乎頗ル疑ヒナキヲ得ス恐クハ第八十二條ノ原文タ

ル草案第二百十四條ノ規定カ強制的通用ノ場合アリタルヨリ直チニ草案ノ趣旨ヲ逐フテ此言ヲ爲スモノナラン然レトモ已ニ第八十二條ヲ解スルニ當リ此言ヲ爲ストセハ何故ニ第八十三條ノ解釋ニ於テモ亦草案ノ趣旨ヲ逐ヒ同條ハ草案第二百十四條ノ一部ト第二十五條トノ併合セラレタルモノナリト言ハサル乎之ヲ要スルニ論者ノ說ハ自己ノ前提ニ合スル點ニ於テ草案ヲ採リ合セサル點ニ於テハ漫然之ヲ排斥シタルモノニシテ毫モ強固ナル證據アルヲ見ス之ニ反シ草案ニ於テハ内國ノ貨幣ニ付テハ明カニ法律上ノ通用即チ強制的通用ノ場合ノミヲ規定スルモ外國ノ貨幣ニ付テハ強制ト任意トノ場合ヲ規定シタルモノナリト解釋スルヲ至當トス從テ確定法文中何等ノ法文ナシト雖モ第八十二條ニ所謂通用ノ意義ハ強制的通用ヲ意味シ第八十三條ノ通用ナル文字ハ強制的通用ト任意の通用ヲ包含スルモノト解釋スルヲ至當ナリト謂ハサルヘカラス

貨幣ノ偽造トハ如何ナルコトヲ意味スル乎之ニ關スル學者ノ定義ヲ見ルニ甲ハ曰ク偽造トハ行使ノ目的ヲ以テ權利ナキ者カ新ニ眞貨ノ外觀ヲ有スル

物件ヲ製出スルヲ謂フ其現ニ存スル通貨ノ外觀ヲ有スルコトヲ必要トスルカ又ハ單ニ人ヲシテ通貨ト信セシムルニ足ルヘキ外觀アルヲ要スルニ止マルカハ議論分歧スリスト氏ハ後説ヲ主張シフランク氏ハ前説ヲ主張ス偽物ノ實價ハ金屬貨幣ノ偽造ニ付テハ眞物ヨリ劣ルヲ常トスレトモ彼此同一ノ實價ヲ有ヘルモ仍ホ偽造タルヲ免レスト云ヒ乙ハ曰ク偽造トハ全ク新規ナル材料ヲ以テ眞物ニ類似シタル物件ヲ製作スルノ義ナリト云ヒ各説ク所ノ言辭ヲ異ニスルモ意義ニ至テハ同一ナリトス本條ニ所謂偽造ナル語モ亦此意義ニ外ナラサルモノトス

變造トハ行使ノ目的ヲ以テ權利ナキ者カ眞正ナル貨幣ノ上ニ實價又ハ名價ノ變更ヲ加フルヲ謂ヒ材料ハ眞正ナル貨幣ノ上ニ採ルコトヲ要スルハ變造ノ特色ナリト雖モ變更ヲ加ヘテ成立シタル物件ハ貨幣ノ外觀ヲ有シ且其外觀タルヤ現ニ存スル某ノ通貨ニ酷似スルコトヲ要スルハ偽造ノ場合ト敢テ異ナル所ナシ

變造ニ關スル學說ニ付テハ種々ノ異説アリト雖モ本法カ採テ以テ立法ノ參

照ト爲シタルモノナラント思料スルニ個ノ學說ヲ掲記スヘシ

第一説 變造トハ已ニ存スル物ニ勞力ヲ施シ人ヲシテ他ノ物ト信セシムルノ外觀ヲ與フルヲ謂フ故ニ其基礎トナルヘキモノハ已ニ存在スルコトヲ要ス又變更ヲ加ヘタルモノカ同種類ニ屬シ唯別物タルノ外觀ヲ生セシムルヲ以テ變造ノ條件ナリトス故ニ勞力ヲ加ヘタル爲メ全ク別個ノ物タルノ外觀ニ變スレハ變造ニアラスシテ破壞ナリトス又貨幣ニアラサル物ヲ材料ト爲シ新ニ貨幣ノ外觀ヲ有スル物ヲ生セシムル如キハ材料ヲ全ク異ナレルモノニ取リタルカ故ニ是レモ亦變更ト稱スルヲ得ス

第二説 信用罪ニ付テ抽象的ニ變造ノ定義ヲ下セハ變造トハ眞正ナル物ノ上ニ信用ヲ害スヘキ工作ヲ施スノ義ナリ約言スレハ偽造ト云ヒ變造ト云フモ二者共ニ物ノ上ニ技術ヲ施シ以テ或信用ヲ有スル物ノ眞實ヲ僞ル所爲ナレトモ二者相異ナル所ハ單ニ其依テ信用ヲ害セラルヘキ物自體ヲ基礎トシテ之ヲ利用シタルト否トニ存ス然リ而シテ凡ソ此變造

ナルモノハ毎ニ二様ノ方法ヲ以テ行ハル一ハ物自體ヲ物質的ニ増減變更スルモノ他ハ物ノ保有セル性質ヲ無形的ニ變更スルモノヲ謂フ尙ホ之ヲ詳説センニ物質的又ハ有形的變更トハ貨幣ニ付テ之ヲ云ヘハ例ヘハ鍍其他ノ器具ヲ以テ貨幣ノ縁邊ヲ削リ以テ其分量ヲ減殺シ又ハ電氣ヲ應用シテ其成分ヲ吸取シ去ルカ如キ信用ヲ害スルノ目的偏ニ其物自體ノ形狀ヲ變更スルニ在ルモノニシテ性質的又ハ無形的變更トハ貨幣ニ付テ之ヲ云ヘハ例ヘハ半錢銅貨ヲ五圓又ハ二十錢ノ金銀貨タラシメニ付テ之ヲ云ヘハ例ヘハ其縁邊ニ鍍目ヲ付シテ之ニ金若クハ銀ヲシカ爲メ其名額ヲ改竄シ又ハ其縁邊ニ鍍目ヲ付シテ之ニ金若クハ銀ヲ鍍スルカ如キ鍍目ヲ付スルハ物質的又ハ有形的變更ト云フヘキカ如キモ此場合ニ在リテハ其所爲偏ニ物量ヲ減殺スルニアラスシテ其物ノ性質ヲ變更セントスルニ存スルモノナルカ故ニ性質的又ハ無形的變更タリヲ云ヒ文書ニ付テ之ヲ云ヘハ五十圓ノ借用證書ヲ六十圓ト變更シ又ハ無利息ノ證書ニ利息ヲ書キ加フルカ如キ物自體ノ形狀ヲ變更スルヲ目的トスルニ非スシテ物ノ保有セル性質ヲ變更スルコトヲ目的トスル

モノヲ云フ

以上引用ノ學說ヲ參酌セハ偽造ト變造ノ區別ハ自ラ釋明セラレタルヲ信スルヲ以テ茲ニ贅セス

行使トハ偽造變造ノ貨幣紙幣銀行券ヲ眞貨ニ裝フテ流通セシムル行爲ヲ總稱シ交付トハ行使ノ目的ヲ以テ他人ニ交付スルノ意義ニシテ有價タルト無價タルトハ問フ所ニアラス故ニ玩弄品トシテ他人ニ交付スルカ如キハ之ヲ交付ト云フコトヲ得ス輸入トハ行使ノ目的ヲ以テ外國ニ於テ偽造變造シタル貨幣紙幣又ハ銀行券ヲ輸入スル行爲ノ總テヲ云フ故ニ他國ニ輸送スルノ目的ヲ以テ一時我國ニ陸上スルカ如キハ之ヲ輸入ト云フコトヲ得ス又外國ヨリ運ヒ入ルルコトヲ要スルカ故ニ我國土内ノ甲地ヨリ乙地ニ運ヒ入ルルカ如キハ亦輸入ニアラス我國土内ニ運ヒ入ルルコトヲ要ス凡ソ外國ヨリ内國ニ輸送セラレヘキ物件ハ普通税關ヲ經由スヘキモノニシテ外國ヨリ輸送セラルル物件ニ對スル所謂一國々境ハ税關設置線ナリトス故ニ縱令已ニ我領海内ニ運ヒ入ルルモ未タ税關設置線内ニ運ヒ入レサル間ハ未タ以テ輸入

已遂ノ所爲アリト云フヲ得ス然レトモ其茲ニ注意スヘキハ之ヲ以テ一國主權ノ版圖ニ關スル問題ト混同セサルコトヲ要スルコト是レナリ刑事上一國ノ主權ハ其領海ニモ及ブモノナルカ故ニ縱令右ノ如キノ場合ニ於テモ輸入未遂ノ所爲トシテ之ヲ逮捕スルコトヲ妨ケサルモノトス

第四百九條ハ舊刑法第八十三條及ビ第八十四條ノ規定ヲ合セテ之ヲ修正シタルモノ即チ内國ニ流通スル外國ノ通貨ヲ偽造變造シタル罪ノ規定ナリ而シテ其修正ノ要點ハ其第一項ニ於テ舊刑法第八十三條ト第八十四條ノ規定ヲ合記シ其第二項ニ於テ前條ト同一ノ例ニ依リ偽造變造ノ外國通貨ノ交付又ハ輸入ヲ規定シタルニ過キス其趣旨ニ至テハ別ニ異ナル所ナキモノノ如シ

本條ニ於ケル主要ノ說明ヲ要スル點ニ付テハ前條ノ釋義ヲ援用シ茲ニ復タ贅セス畢竟其目的物ニ内外ノ別アルノ外他ニ異ナル所ナケレハナリ

第五百十條ハ舊刑法第九十條ニ該當ス收得トハ偽造變造ノ情ヲ知り自己ニ於テ之ヲ行使スルノ目的ヲ以テ他人ヨリ交付ヲ受ケタルノ意義ニシテ舊

刑法第九十條ニ所謂收受ト異ナル所ナシ從テ苟モ他人ヨリ偽造又ハ變造ノ通貨ノ所持ヲ移シタル以上ハ之ヲ買受ケタルト贈與ヲ受ケタルト又支拂ヲ受ケタルトハ問フ所ニアラス唯之ヲ強奪若クハ竊取シタル場合ハ收得ト云フコトヲ得ヘキ乎ニ至テハ多少議論ナキニアラサルヘキモ偽造變造ノ通貨ノ如キハ苟モ行使ノ目的ヲ有スル以上ハ本條ニ依リ處斷スルヲ妨ケサルモノトス其舊刑法ト異ナル點ハ舊刑法ニ於テハ本條ノ場合ニ於テモ尙行使ヲ要件トスルモ本條ニ於テハ其目的行使ニ在レハ之ヲ行使スルト否トハ問フ所ニアラス畢竟害惡ヲ未然ニ防止セントスルノ趣旨ニ外ナラサルヘシ而シテ本條ト第五百十二條ノ差ハ其偽造變造ノ通貨ヲ收得スルノ際偽造變造ノ情ヲ知ルト否トニ在リ

第五十一條ハ本罪ノ未遂ヲ罰スル規定ニシテ舊刑法第八十六條第一項末段ト同一趣旨ノ規定ナリトス但本條ニ於テハ偽造變造ノ通貨輸入罪ノ未遂ヲ罰スルノ點舊刑法ト異ナル所タリ殆ト説明ヲ爲スノ要ナク輸入罪ノ未遂ノ如キハ最モ之ヲ處罰スルノ必要アレハナリ

第五十二條ハ舊刑法第九十三條ト同一趣旨ノ規定ニシテ唯金刑ノ額ヲ增加シタルノミ
第五十三條ハ舊刑法第八十六條第二項ニ該當シ其趣旨ニ至テハ別ニ異ナル所アルヲ見ス而シテ本章ノ罪ハ經濟上最モ重大ナル影響ヲ有スルヲ以テ其豫備ヲモ罰スルコトトセリ

第四 疑問及説明

第一 第四百十九條第二項ノ場合ニ於テモ行使ノ目的ナル條件ヲ要スルヤ
固ヨリ然リ唯法文ニ行使ノ目的ヲ以テノ文字ヲ缺如スルハ第二項ハ第一項ヲ受ケタル規定ナルヲ以テ此文字ナクモ意義明瞭ナルヲ以テ之ヲ省略シタルモノナルコトヲ疑ハス
第二 坊間玩弄紙幣ト稱スルモノアリ本法ノ偽造紙幣ノ中ニ包含スルヤ
本法ニ所謂偽造ナルヤ否ヤハ畢竟釋義欄ニ説明スル主義ニ依リ専ラ事實問題ニ屬スルヲ以テ模擬ノ程度紙幣ノ偽造ト云フヲ得ヘケレハ固ヨリ論ナキモ然ラサレハ他ノ法令ノ取締罰ヲ科セラルルハ格別紙幣偽造ヲ以テ

處罰スルコトヲ得サルヘシ

第三 第五百十條ト第五百十三條ノ刑ハ權衡ヲ失スルコトナキ乎即第五百十條ニ記載スル場合ハ既ニ偽造變造ノ情ヲ知テ收得シタルモノニシテ其刑期ハ三年ナルニ第五百十三條ハ未タ製作ニモ至ラス器械ヲ備ヘ原料ヲ集メテ是レヨリ著手セムトスル場合ナリ然ルニ其刑ヲ五年トスルハ少シク酷ニ失スル嫌ヒナキヤ
第五百十條ノ場合ハ他ニ偽造變造ヲ爲シタル者アリテ其偽造變造ノ實害ハ行使ノ點ニ在リト雖モ第五百十三條ハ此原因ヲ作ルヘキ基本ト爲ルヘキ行爲ナレハ第五百十條ニ比シ刑ヲ重クスルハ決シテ權衡ヲ失スルモノト謂フコトヲ得サルヘシ

第五 異説

第一 第四百十九條ノ行使ノ目的ハ人ヲ欺罔スル目的ト修正スヘシ
理由 本法ニ於ケル偽造變造罪ノ成立ニハ行使ヲ要素トセス從テ行使ノ事實ナキモ苟モ偽造變造ノ行爲アレハ直チニ偽造變造ノ犯罪ヲ構成ス

ヘキコトハ寔ニ明瞭ナリトス然ルニ偽造變造ノ目的トナリタル所ハ犯罪構成ノ要素ニアラサル行使ナル文字ヲ用ヒテ目的ノ主要ナルモノトセリ犯罪成立ノ要素ト認メサル行使ヲ以テ目的ノ主要ナルモノト爲スハ頗ル奇怪ノ感ナキニ非ス加之果シテ此行使ナルモノカ偽造變造ナルト否トヲ區別スル標準ト爲スコトヲ得ルヤ否ヤニ付テ考察スルニ是亦標準ト爲スニ足ラサルヘシ現ニ第四疑問及ヒ説明欄ニ掲クル第一ノ疑問ニ掲クル如キ玩弄紙幣ヲ製作シタル場合ニ就テ研究スルモ製作者ノ意思ハ行使ニ在リ即チ幼年者ニ賣却スル乎世間ニ撒布スル乎ニ在リ唯紙幣トシテ行使スルニ非サルモ玩弄紙幣トシテ賣却又ハ撒布ヲ爲セリ賣却又ハ撒布ノ行爲ハ乃チ行使ノ種類ニ屬スルモノタルヲ失ハス果シテ然リトセハ假令其目的ハ行使ニ在リトスルモ必スシモ偽造變造タルヤ否ヤヲ區別スヘキ標準ト爲スコトヲ得サルヘシ而シテ人ヲ欺罔スル意思アリヤ否欺罔スル目的ニ出テタルモノナリヤ否ヤヲ以テ區別ノ標準ト爲スコトキハ通貨ノ偽造變造ナルカ若クハ玩弄物ノ紙幣ヲ玩具トシ

テ製作シタルモノナルヤ否ヤハ判然區別スルコトヲ得ヘシ如何トナレハ玩具トシテ製作シタル場合ニ於テハ固ヨリ人ヲ欺罔スルノ意思ニ出テタルモノニアラサルコトハ明瞭ニシテ同時ニ欺罔ノ目的ヲ以テ製作シタルモノニアラサルコト明カナリ之ニ反シテ眞貨ニ類似ノモノ即價金ヲ正金ノ如ク裝テ行使スルノ行使ハ取りモ直サス人ヲ欺罔セントスルノ目的ト意思ナルコトヲ推知シ得ヘケレハナリ故ニ判然ト偽造變造ヲ見分クル標準ト爲ルヘキモノヲ以テ偽造變造ノ目的ト爲スヲ以テ最も穩當ナルモノト謂ハサルヘカラス殊ニ行使ヲ以テ目的トスレハ一方ニ於テハ要素ニアラスト認メタルモノヲ條件トスルノ嫌ヒアルト一方ニ於テハ偽造變造ヲ鑑別スヘキ標準ト爲スニ足ラサルコト前述ノ如シトセハ何ヲ苦ンテ乎斯ル曖昧ナル文辭ヲ以テスルノ必要アル乎頗ル疑ヒナキ克ハス況ンヤ實際ノ事例ニ於テ行使ノ目的ニ出テタルコトヲ獨立ノ證據ヲ以テ證明スルコトヲ得ル場合ハ極メテ稀レナレハ要スルニ行使ノ目的ヲ以テト云フモ結局何等ノ條件ト爲ラサル場合多カルヘキ

ニ於テオヤ

第二 通貨ノ偽造變造ハ行使ヲ以テ犯罪成立ノ要素トシ偽造變造シテ行使セサル者ノ處分ハ別ニ規定スヘシ

理由 通貨ノ偽造變造ニ付テ如何ナル行為カ最モ信用ヲ害スル乎説明ヲ要スルマテモナク行使スルニ在リ舊刑法ニ於テハ特リ貨幣偽造罪ニ限ラス官文書偽造官印偽造私書偽造私印偽造皆ナ行使ヲ以テ犯罪成立ノ要素ト爲セリ畢竟此等ノ偽造變造ノ物件ヲ社會ニ出ストキハ之カ爲メニ信用ヲ害スルノミナラス延ヒテ不測ノ禍害ヲ惹起スヲ以テナルヘシ但通貨ノ如キハ其性質價格交換ニ在レハ信用ヲ重スル點ニ付テハ一層多大ノ注意ヲ拂ハサルヘカラス故ニ別ニ一條若クハ一項ヲ設ケ行使セサル場合ト雖モ處罰ノ規定ヲ設クルハ定ニ妥當ナリト謂ハサルヘカラス

第一百五十四條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔勅其他ノ文書ヲ偽造シ又ハ偽造シタル御璽、國璽若ク

ハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

御璽、國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書ヲ變造シタル者亦同シ

第一百五十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ

前二項ノ外公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ

偽造シ又ハ公務所又ハ公務員ノ作りタル文書若クハ圖畫ヲ
變造シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處
ス

第一百五十六條 公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ虚偽ノ
文書若クハ圖畫ヲ作り又ハ文書若クハ圖畫ヲ變造シタルト
キハ印章署名ノ有無ヲ區別シ前二條ノ例ニ依ル

第一百五十七條 公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ權利義務ニ關
スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲シタル者ハ二年以下
ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ免狀鑑札又ハ旅券ニ不實ノ
記載ヲ爲サシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ
罰金ニ處ス

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第一百五十八條 前四條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタ
ル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虚偽ノ文書
若クハ圖畫ヲ作り又ハ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ト同一
ノ刑ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第一百五十九條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使
用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽
造シ又ハ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利
義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者
ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利義務又ハ

事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ
前二項ノ外權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫
ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓下ノ罰
金ニ處ス

第六十條 醫師公務所ニ提出ス可キ診斷書檢案書又ハ死亡
證書ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ五
百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十一條 前二條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタ
ル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虛偽ノ記載
ヲ爲シタル者ト同一ノ刑ニ處ス
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第一 沿革

第一案 第二百二十一條 御璽國璽又ハ其影蹟ヲ偽造シタル者又ハ其印影

アル文書ヲ使用シタル者ハ無期懲役ニ處ス

御璽國璽ヲ不正ニ押捺シタル者又ハ其印影アル文書ヲ使用シタ
ル者ハ一等有期徒刑ニ處ス

第二百二十二條 法律規則ニ從ヒ船車、量衡等ニ押用スル官署、公署
ノ記號極印ヲ偽造シテ其物品ニ押捺シ又ハ記號極印ノ影蹟ヲ偽
造シタル者ハ一年以上四年以下ノ有役禁錮及ヒ五十圓以上五十圓
以下ノ罰金ニ處ス

偽造シテ押捺セサル者又ハ單ニ不正ノ押捺ヲ爲シタル者又ハ一
ノ物品ヨリ他ノ物品ニ印影ヲ移シタル者ハ一等ヲ減ス

第二百二十三條 官ヨリ發行スル各種ノ印紙、手形用紙、郵便切手、封
皮、葉書、帶紙ヲ偽造、變造シテ之ヲ販賣シ、販賣ニ供シ又ハ使用シタ
ル者ハ一年以上五年以下ノ有役禁錮及ヒ五十圓以上五十圓以下ノ
罰金ニ處ス

其偽造シテ販賣使用セサル者及ヒ偽造ニ與セスシテ販賣使用シタル者ハ六月以上三年以下ノ有役禁錮及ヒ五圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百二十四條 郵便聯合條約國政府ノ發行スル郵便切手、封皮、葉書、帶紙ヲ偽造、變造シ又ハ其偽造、變造ニ係ルモノヲ販賣使用シタル者ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

第二百二十五條 此節ニ記載シタル輕罪ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百二十六條 他人ヲ害シ又ハ自己若クハ他人ヲ利スルノ意ヲ以テ公私ノ文書、帳簿、切符ヲ偽造シ又ハ變造シテ公私ノ害ヲ生シ得ヘカラシメタル者ハ二月以上五年以下ノ有役禁錮及ヒ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百二十七條 左ニ記載シタル文書、帳簿ヲ偽造シ又ハ變造シタル者ハ三等有期懲役ニ處ス

一 判決書及ヒ裁判上ノ調書、始末書

二 身分證書其他ノ權利ヲ證明スル公ノ文書、帳簿

三 公債證書及其利札

四 株式會社ノ株券

五 爲替手形、約束手形、小切手、船荷證書、倉荷證書其他ノ信用證券
第二百二十八條 官吏、公吏其職務ヲ以テ作ル可キ文書、帳簿ヲ偽造シ又ハ變造シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

第二百二十九條 官吏、公吏其職務ヲ以テ第二百二十七條第二號ニ記載シタル文書、帳簿ヲ作ルニ當リ陳述人又ハ出席人トシテ之ニ關係スル者他人ヲ害シ又ハ自己若クハ他人ヲ利スルノ意ヲ以テ詐僞ノ申告ヲ爲シ公私ノ害ヲ生シ得ヘキ記載ヲ爲サシメ若クハ増減變換ヲ爲サシメタル者ハ二年以上五年以下ノ有役禁錮及ヒ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十條 族籍、身分、氏名ヲ詐稱シ其他詐僞ノ所爲ヲ以テ官署、公署ノ免狀、鑑札、證明書又ハ疾病其他ノ事項ヲ證明スル醫師ノ證

明書ヲ受ケタル者ハ十一日以上六月以下ノ有役禁錮及ヒ五圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

官吏、公吏、醫師情ヲ知テ免狀、鑑札又ハ證明書ヲ附與シタル者ハ一等ヲ加フ

第二百三十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ其偽造、變造ニ係ル文書、帳簿、切符ヲ使用シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ加フ

偽造、變造ニ與セスシテ之ヲ使用シタル者ハ偽造、變造シタル者ノ刑ニ同シ

第二百三十二條 此節ニ記載シタル輕罪ノ未遂犯ハ之ヲ罰ス

第二案 第七十九條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽若クハ御名ヲ不正ニ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シ又ハ偽造シタル御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

御璽、國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ書シタル詔書其他ノ文書ヲ變造シ

タル者亦同シ

第八十條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書ヲ偽造シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書ヲ偽造シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ捺印署名シタル文書ヲ變造シタル者亦同シ
前二項ノ外公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書ヲ偽造シ若クハ公務所又ハ公務員ノ作リタル文書ヲ變造シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十一條 公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ詐僞ノ文書ヲ造リ又ハ不正ニ文書ヲ變造シタル者ハ印章署名ノ有無ヲ區別シ前二條ノ例ニ依ル

第八十二條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ

使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書ヲ偽造シ又ハ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書ヲ偽造シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス
他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書ヲ變造シタル者亦同シ

第百八十三條 公務員ニ對シ詐僞ノ申立ヲ爲シ戶籍簿登記簿其他權利義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

公務員ニ對シ詐僞ノ申立ヲ爲シ免狀又ハ鑑札ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
本條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百八十四條 醫師官署又ハ公署ニ提出ス可キ證明書若クハ死亡證書ニ詐僞ノ記載ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十五條 第百七十九條乃至第百八十四條ニ記載シタル文書ヲ行使シタル者ハ其文書ヲ作り又ハ變造シタル者若クハ不實ノ記載ヲ爲サシメタルモノト同一ノ刑ニ處ス
本條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百八十六條 本節ノ罪ヲ犯シ懲役ニ處ス可キ者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

本節ノ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キモノニハ監視ヲ附加スルコトヲ得

第三案 第百七十九條 第二案ニ同シ

第百八十條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ繪圖ヲ偽造シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ繪圖ヲ偽造シタル者ハ二年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ繪圖ヲ變造シタル者亦同シ

前二項ノ外公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ繪圖ヲ偽造シ又ハ公務所又ハ公務員ノ作リタル文書若クハ繪圖ヲ變造シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十一條 公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ虛偽ノ文書若クハ繪圖ヲ作り又ハ不正ニ文書若クハ繪圖ヲ變造シタル者ハ印章署名ノ有無ヲ區別シ前二條ノ例ニ依ル

第百八十二條 前三條ニ記載シタル文書又ハ繪圖ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ繪圖ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虛偽ノ文書若クハ繪圖ヲ作りタル者ト同一ノ刑ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百八十三條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ繪圖ヲ偽造

シ又ハ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ繪圖ヲ偽造シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ繪圖ヲ變造シタル者亦同シ

第百八十四條 公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ戶籍簿、登記簿其他權利義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ免狀、鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百八十五條 醫師公務所ニ提出ス可キ證明書、檢案書又ハ死亡證書ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下

ノ罰金ニ處ス

第八十六條 前三條ニ記載シタル文書又ハ繪圖ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ繪圖ヲ偽造若クハ變造シ又ハ不實ノ記載ヲ爲サシメ若クハ虚偽ノ記載ヲ爲シタル者ト同一ノ刑ニ處ス
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第八十七條 本章ノ罪ヲ犯シ懲役ニ處ス可キ者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

本章ノ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キ者ニハ監視ヲ附加スルコトヲ得

第四案

第七十八條 行使ノ目的ヲ以テ御璽國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シ又ハ偽造シタル御璽國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス
御璽國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書ヲ變造シ

タル者亦同シ

第七十九條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ繪圖ヲ偽造シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ繪圖ヲ偽造シタル者ハ二年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ繪圖ヲ變造シタル者亦同シ

前二項ノ外公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ繪圖ヲ偽造シ又ハ公務所又ハ公務員ノ作リタル文書若クハ繪圖ヲ變造シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十條 公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ虚偽ノ文書若クハ繪圖ヲ作り又ハ文書若クハ繪圖ヲ變造シタル者ハ印章署名ノ有無ヲ區別シ前二條ノ例ニ依ル

第百八十一條 前三條ニ記載シタル文書又ハ繪圖ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ繪圖ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虛偽ノ文書若クハ繪圖ヲ作リタル者ト同一ノ刑ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百八十二條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ繪圖ヲ偽造シ又ハ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ繪圖ヲ偽造シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ繪圖ヲ變造シタル者亦同シ

第百八十三條 公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ戶籍簿登記簿其他權利義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ免狀鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百八十四條 醫師公務所ニ提出ス可キ診斷書檢案書又ハ死亡證書ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十五條 前三條ニ記載シタル文書又ハ繪圖ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ繪圖ヲ偽造若クハ變造シ又ハ不實ノ記載ヲ爲サシメ若クハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ同一ノ刑ニ處ス
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百八十六條 本章ノ罪ヲ犯シ懲役ニ處ス可キ者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

本章ノ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キ者ニハ監視ヲ附加スルコト

ヲ得

第二 參照法律

佛蘭西刑法

第三百三十九條 國璽ヲ贋造シ又ハ贋造ノ璽ヲ用ヒタル者

此等ノ犯人ハ無期ノ徒刑ニ處セララル可シ

官ノ會計局ヨリ發行セシ記號アル國債ノ證券又ハ法律ヲ以テ允許セシ

銀行ノ手形ヲ贋造變造シタル者又ハ其贋造變造ノ證券或ハ手形ヲ用ヒ

タル者又ハ其證券或ハ手形ヲ佛蘭西領地内ニ携へ來リシ者

此等ノ犯人ハ無期ノ徒刑ニ處セララル可シ

第四百十條 證券印紙又ハ伐出サント爲ス樹木ニ印スル官ノ鑿記又ハ金

銀ノ質ヲ極ル爲メノ鑿記ヲ贋造變造セシ者又ハ贋造變造ノ印紙或ハ鑿

記ヲ用ヒタル者ハ至重ノ有期ノ徒刑ニ處セララル可シ

第四百十五條

姓名ノ手摺ヲ贋造スル事

書籍文體姓名ノ手摺ヲ變造スル事

人ノ姓名ヲ詭リ換ル事

簿冊及ヒ公ケノ證書ヲ記了シタル後ニ竊ニ記入ヲ爲ス事

官吏其職ヲ行フニ當リ此等ノ所行ヲ爲シタル時ハ無期ノ徒刑ニ處セラ

ル可シ

第四百十六條

官吏其職務ニ關シタル書類ヲ記スルニ當リ契約ヲ爲ス雙

方ノ者ノ陳述セシ以外ノ契約ヲ記載シ又ハ偽リノ事ヲ眞正ナリト證シ

又ハ陳述セサル事ヲ陳述シタリト爲シテ其書類ノ意義ト模樣トヲ贋設

シタル者ハ無期ノ徒刑ニ處セララル可シ

第四百十七條

書類及ヒ姓名ノ手摺ヲ贋造變造スル事

契約書規則書職務ノ證書負債拂濟ノ證書ヲ贋造シ或ハ此等ノ書類ヲ記

了セシ後ニ竊ニ書入ヲ爲ス事

證書ノ章句又ハ本人ノ陳述スル所又ハ其證書ヲ以テ證ス可キ條件ヲ增

加シ又ハ變造スル事

此等ノ罪ヲ犯シテ公正ノ證書又ハ商業及ヒ銀行ノ書類ヲ贋造セシ官吏
外ノ者ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第百五十三條(千八百六十三年五月十三日如左改ム) 往來手形或ハ獵ノ免
狀ヲ贋造セシ者又ハ真正ナル往來手形或ハ獵ノ免狀ヲ變造セシ者又ハ
其贋造變造シタル往來手形或ハ獵ノ免狀ヲ用ヒタル者ハ六月ヨリ少カ
ラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第百五十四條(千八百六十三年五月十三日如左改ム) 往來手形或ハ獵ノ免
狀ヲ受クルニ付キ偽名ヲ述ヘシ者又ハ偽名ヲ用ヒ往來手形ヲ受取ル證
人ト爲リシ者ハ三月ヨリ少カラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ
處セラル可シ

他人ノ姓名ヲ以テ渡シタル往來手形或ハ獵ノ免狀ヲ用ヒシ者モ亦同上
ノ刑ニ處セラル可シ

旅舎ノ主人旅客ノ姓名簿ニ故ラニ旅客ノ偽リノ姓名ヲ記載セシ時又ハ
旅客ト相通シテ其姓名ヲ記載セサル時ハ六月ヨリ少カラス三月ヨリ多
カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第百五十五條(千八百六十三年五月十三日如左改ム) 官吏其自ら知ラサル
者ニ己レノ知ル所ノ者ニ人ヲシテ其姓名身分ヲ證セシムルコトナク往
來手形ヲ渡シ或ハ渡サシメタル時ハ一月ヨリ少カラス六月ヨリ多カラ
サル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

官吏偽名タルコトヲ知り其偽名ノ儘ニテ往來手形ヲ渡シ或ハ渡サシメ
タル時ハ一年ヨリ少カラス四年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラ
ル可シ

又其犯人ノ其刑ニ處セラレシ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラ
サル時間第四十二條ニ記シタル權利ヲ剝奪スル事ヲ得可シ

第百五十六條(千八百六十三年五月十三日如左改ム) 兵士ノ往來手形ヲ贋
造シ又ハ真正ナル兵士ノ往來手形ヲ變造シ又ハ贋造變造シタル兵士ノ
往來手形ヲ用ヒタル者ハ左ノ刑ニ處セラル可シ

若シ其贋造或ハ變造ノ往來手形ヲ以テ偽テ官署ノ監察ヲ免ルルノ目的ノミナルトキハ六月ヨリ少カラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

若シ其贋造或ハ變造往來手形ヲ所有スル者官ノ會計局ヨリ當然得可カラサル旅費ヲ受ケ又ハ當然ニ得可キ高ニ過ル旅費ヲ受ケタル時ハ一年ヨリ少カラス四年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ但シ其不當ニ得タル金高百フランク以下ナル時ニ限ル可シ

若シ其往來手形ニ付キ不當ニ得タル所ノ高百フランク以上ナル時ハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ終リノ二個ノ場合ニ於テハ犯人ノ其刑ニ處セラレシ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第四十二條ニ記シタル權利ヲ剝奪スルコトヲ得ヘシ

又其犯人ニ裁判所ノ言渡ヲ以テ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ケシムルコトヲ得可シ

第百五十八條(千八百六十三年五月十三日如左改ム) 若シ官吏偽名ヲ詭稱

セシ事ヲ知リ故ラニ兵卒ノ往來手形ヲ渡シタル時ハ左ノ刑ヲ受ク可シ

第百五十六條ノ第一ノ場合ニ於テハ一年ヨリ少カラス四年ヨリ多カラ

サル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第百五十六條ノ第二ノ場合ニ於テハ二年ヨリ少カラス五年ヨリ多カラ

サル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第百五十六條ノ第三ノ場合ニ於テハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セ

ラル可シ

第百五十六條ノ第一第二ノ場合ニ於テハ其刑ニ處セラレシ日ヨリ五年

ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第四十二條ニ記シタル權利ヲ剝

奪スル事ヲ得可シ

第百五十九條(千八百六十三年五月十三日如左改ム) 自カラ公役ヲ免カレ

又ハ他人ヲシテ公役ヲ免カレシム可キ爲メ内科外科ノ醫官及ヒ下等醫

士ノ偽名ヲ用ヒ疾病ノ證券ヲ造ル者ハ一年ヨリ少カラス三年ヨリ多カ

ラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第六十條(千八百六十三年五月十三日如左改ム)人ヲ曲庇シテ其人ノ公務ヲ免レシム可キ爲メ詐テ疾病ノ證券ヲ造リタル内科外科ノ醫官及ヒ下等醫士ハ一年ヨリ少ナカラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

若シ贈遺或ハ約束ニ因テ其罪ヲ犯セシ時ハ一年ヨリ少カラス四年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

此二個ノ場合ニ於テハ其犯人ノ其刑ヲ受ケシ日ヨリ五年ヨリ少カラス十年ヨリ多カラサル時間第四十二條ニ記シタル權利ヲ剝奪スルコトヲ得可シ

贈遺或ハ約束ニ因テ公役ヲ免レントスル罪ヲ犯セシ者ハ偽リノ疾病證券ヲ渡シタル内科外科ノ醫官及ヒ下等醫士ト同一ノ刑ニ處セラル可シ

白耳義刑法

第七十九條 凡ソ國璽ヲ偽造シ若シクハ偽摺ヲ用フル者ハ一年ヨリ十

五年マテノ懲役ニ處ス可シ

第八十條 凡ソ(シタシヨナルナ)國璽又ハ金銀貨ノ極印ヲ偽造若クハ變造スル者

以上偽造或ハ變造ノ國璽或ハ極印ヲ用フル者皆監役

第八十八條 凡ソ郵便切手及ヒ其他貼用證印紙ノ白國竝ニ外國ニ屬スルモノヲ偽造シ若クハ肆店ニ出シ若クハ用フル者ハ二月ヨリ三年マテノ獄ニ處シ及ヒ第三十三條ノ奪權ニ處スルコトアリ

若シ其偽造ヲ果サハル者ハ一月ヨリ一年マテノ獄ニ處スヘシ

第八十九條 凡ソ郵便切手及ヒ貼用證印紙ノ偽造物ヲ得之ヲ用フル者ハ八日ヨリ一月マテノ獄ニ處ス可シ

第九十四條 凡ソ内外官吏其職務ノ幹事タルモノニシテ署名ヲ偽ル者

文書署名若クハ文書ヲ變造スル者

無實ノ人名ヲ署スル者

文案簿籍ニ後ヨリ加筆填字スル者

以上ハ皆十年ヨリ十五年マテノ懲役ニ處ス可シ

第九十五條 凡ソ官吏其官省ノ文案ヲ書シ其體面模様ヲ換フルニ於テ
雙方申出ノ契約ヲ違ヘ或ハ虛ヲ實トスル者ハ十年ヨリ十五年マテノ懲
役ニ處ス可シ

第九十六條 凡ソ公私商賈ノ諸文書ニ偽名ヲ署シ或ハ書體ヲ變造シ若
クハ偽造シ或ハ諸契約若クハ罷職ノ事ヲ書シ或ハ後ヨリ之ヲ填シ無實
ノ事情ヲ本條ニ加ヘ或ハ之ヲ變造スル等ノ常人犯ハ皆監役

第九十八條 凡ソ旅券佩兵免狀冊子(職人ノ生國姓名等ヲ記シ製造場ノ
出入巡行等ニ用フル冊子ナリ)ヲ偽造若クハ變造スル者或ハ其偽造物ヲ
用フル者ハ一月ヨリ一年マテノ獄ニ處ス可シ

第九十九條 凡ソ旅券佩兵免狀冊子ヲ得ント欲シ姓名ヲ偽ル者及ヒ其
證據人トナル者ハ八日ヨリ六月マテノ獄ニ處ス可シ

第一百條 凡ソ兵役路券ヲ製作シ偽造シ變造スル者及ヒ此等ノ路券ヲ用
フル者ハ一月ヨリ二年マテノ獄ニ處ス可シ

第一百一條 凡ソ兵役路券ヲ得ルニ姓名ヲ偽リ或ハ其身分ヲ偽ル者ハ八
日ヨリ二年マテノ獄ニ處ス可シ

第一百二條 凡ソ旅券佩兵免狀冊子兵役路券ヲ請フ者ニ其請ヲ爲ス者ヲ
識ル證據人二名ヲ要セスシテ與ル者ハ二十六「フランク」ヨリ二百「フラン
ク」マテノ罰金ヲ科ス可シ

若シ其偽タルヲ知テ以上諸券ヲ與フル官吏ハ六月ヨリ二年マテノ獄ニ
處ス可シ

若シ以上ノ諸券ヲ與フルニ賄賂ヲ受ケ若クハ受ク可キヲ約スル官吏ハ
一年ヨリ五年マテノ獄ニ處ス可シ

以上二段ニ於テハ本刑ノ外尙ホ第三十三條ノ奪權ニ處スル事アリ

第一百三條 凡ソ公役若クハ公務ヲ免レ或ハ免レシメント欲シ醫ノ姓名
ヲ用ヒ或ハ自ラ詐テ醫ト稱シ疾病若クハ癡疾者ノ證券ヲ偽造スル者ハ
八日ヨリ一年マテノ獄ニ處ス可シ

第一百四條 凡ソ公役公務ヲ免レシムル爲メ疾病癡疾等ノ實證券ヲ與フ

ル醫師ハ八日ヨリ二年マテノ獄ニ處ス可シ
若シ財ヲ受ケ若クハ受ク可キヲ承諾スル者ハ一年ヨリ五年マテノ獄ニ
處シ且ツ第三十三條ノ奪權ニ處スルコトアリ

第二百七條 凡ソ證書ヲ變造スル者及ヒ第二百三條、第二百四條、第二百五
條、第二百六條ニ掲載スル偽證券ヲ用フル者ハ各條ニ依テ論シ其本刑ニ
處ス可シ

第二百九條 凡ソ官ノ證券ヲ得セシムル爲メ實ナキノ事ヲ詐ハリ證スル
者ハ八日ヨリ二年マテノ獄ニ處スヘシ

若シ詐リ證シ財ヲ受ケ若クハ受ク可キヲ承諾スル者ハ六月ヨリ三年マ
テノ獄ニ處シ且ツ第三十三條ノ奪權ニ處スル事アリ

英吉利刑法典

一 國印、寶璽、官印及ヒ證券印紙、銀行札爲替切手、收納書若クハ遺書等ヲ偽
造スル者ハ重罪ニ坐シ五年ヨリ終身ニ至ル徒刑ニ處シ或ハ二年ニ止ル
入獄ニ處シ若クハ苦役及ヒ監牢ヲ加フ

一 若シ官ノ日誌ヲ偽造スル者ハ七年ニ至ル徒刑ニ處シ或ハ治安裁判所
ノ命令書ヲ偽造スル者ハ五年ニ至ル徒刑ニ處シ或ハ竝ニ入獄ニ處ス其
法上ニ同シ

一 官ニ係ル文書、戶籍、招票、命令書等ヲ竊取、詐取若クハ消滅破壞スル者ハ
竝ニ重罪ニ坐シ五年ノ徒刑ニ處シ或ハ二年ニ止ル入獄ニ處シ若クハ苦
役及ヒ監牢ヲ加フ

若シ偽造シ或ハ眞ヲ以テ偽ト爲シ或ハ情ヲ知テ使行スル者ハ七年ニ至
ル徒刑ニ處シ若クハ入獄ニ處ス其法上ニ同シ

一 詐欺ノ心ヲ以テ遺囑書ヲ偽造變造スル者及ヒ其偽造變造タルヲ知テ之
ヲ行使スル者ハ重罪ト爲シ五年ヨリ終身ニ至ル徒刑ニ處シ或ハ二年ニ
過キサル入獄ニ處シ情ニ依リ監牢及ヒ苦役ヲ加フ

一 詐欺ノ心ヲ以テ契約書、證書及ヒ其讓與書竝ニ契約書、證書ヲ證スル證
人ノ姓名手署ヲ偽造變造スル者及ヒ其偽造變造タルヲ知テ之ヲ行使ス
ル者ハ重罪ト爲シ五年ヨリ終身ニ至ル徒刑ニ處シ或ハ二年ニ過キサル

入獄ニ處シ情ニ依リ苦役及ヒ隘牢ヲ加フ

魯西亞刑法

第三百十九條 勅書特許狀決裁狀其他皇帝ノ名字アル證書ヲ偽造シ或ハ情ヲ知テ之ヲ不正ノ目的ニ使用セシ者ハ重刑ノ第二類第一等刑ニ處セラル可シ

又皇帝ノ手署セル名字或ハ手ツカラ允裁セル證書ヲ惡意ヲ以テ毀損或ハ變造セル者モ亦同上ノ刑トス然レトモ犯罪者若シ此偽證ヲ使用セス自ラ裁判所或ハ其所轄廳へ出テ其罪ヲ自首セシ者ハ裁判官ノ見込ヲ以テ其罪ヲ減シ重刑ノ第三類第二等刑ニ處スル事アル可シ

第三百二十一條 官令、制令及ヒ省廳ノ布令ヲ偽造シ或ハ正當ノ制令或ハ布令ヲ惡意ヲ以テ毀損若クハ變造セシ者或ハ偽證ヲ故ラニ不正ノ目的ニ使用セシ者ハ第三百二十條ニ照ラシ一等ヲ減シテ其罪ヲ論ス可シ

第三百二十二條 官令、指令、命令其他地方廳署或ハ法律ニ因リ認可セラレタル會社ノ布告ヲ偽造シ或ハ其正當ノ證書中ヲ惡意ヲ以テ毀損若クハ

變造スル者或ハ此偽證ヲ詐僞ノ目的ニ使用セシ者ハ重刑ノ第三類第二等刑或ハ懲治刑ノ第一類第三等刑ヲ言渡サル可シ同上ノ證書ヲ偽造シ之ヲ使用セサリシ者ハ懲治刑ノ第一類第五等刑ニ處セラル可シ

又自ラ裁判所或ハ所轄署ニ其犯罪ヲ首服シ以テ其害ヲ受クル者無カラシメシ者ハ唯タ七日以上三週以下ノ禁錮ニ處セラル可シ

第三百二十三條 國璽或ハ皇帝ノ璽印ヲ贋造セシ者或ハ同上ノ偽印ヲ詐僞ノ目的ニ使用セシ者ハ第三百十九條ニ記載セル勅書偽造ノ罪ニ齊シク論セラル可シ

第三百二十四條 公廳ノ印章及ヒ印紙ヲ偽造シ或ハ同上ノ偽印若クハ正證ヨリ複寫セル偽證ヲ不正ノ目的ニ使用セシ者ハ懲治刑ノ第一類第二等刑ニ處セラル可シ

同上ノ贋造變造者若シ之ヲ使用セサルトキハ三等ヲ減セラル可シ又其偽證ヲ早ク自ラ首服シ以テ其害ヲ受クル者無カラシメシトキハ唯タ七日以上三週以下ノ禁錮ニ處セラル可シ

第三百二十五條 直チニ官ヨリ命セラレタルニアラスシテ法ニ背キ官署ノ印章及ヒ印紙ヲ造リシ職人ハ三月以上六月以下ノ禁獄ノ刑ヲ言渡サル可シ然レトモ該人若シ此印章若クハ印紙ヲ以テ重罪ヲ犯サルヘキ事ヲ知テ之ヲ作爲セシトキハ本罪共犯ヲ以テ論セラルヘシ

埃及刑法

第七十九條 國君ノ印璽國憲官署ノ印ヲ贋造シタル者或ハ其贋造セシ印璽ヲ用ヒタル者國債證書會計局ノ證券又ハ其他總ノ會計局或ハ公ケノ銀舖ノ證券ヲ贋造シ又ハ其贋造變造ノ證券ヲ用ヒ又ハ之ヲ國內ニ輸入シタル者ハ有期ノ徒刑又ハ繫獄ノ刑ニ處セラル可シ但シ其刑期ハ決シテ十年以下タル可カラス
政府ノ命令書ヲ贋造シ或ハ贋造セシメ又ハ變造シ或ハ變造セシメシ者政府官吏ノ鈐印姓名ノ手署姓名ノ手署ニ代用スル横線ヲ贋造シ或ハ贋造セシメシ者ハ有期ノ徒刑又ハ繫獄ノ刑ニ處セラル可シ但シ其刑期ハ決シテ十年以下タル可カラス

第八十八條 何人ニ限ラス前ニ記セシ方法中ノ一ヲ用ヒ私書ヲ贋造シタル者又ハ故ラニ贋造ノ私書ヲ用ヒタル者ハ一年ヨリ少ナカラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第九十條 何人ニ限ラス往來切手或ハ路票ヲ贋造シタル者又ハ原來真正ナル此類ノ證書ヲ變造シタル者又ハ其贋造或ハ其變造ノ往來切手或ハ路票ヲ用ヒタル者ハ一年ヨリ少ナカラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第九十二條 官吏若シ規則ニ循ヒ當然ノ保證ヲ要セス往來切手ヲ渡シタルトキハ六月ヨリ少ナカラス一年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラレ且ツ其職ヲ退ケラル可シ
官吏若シ本人ノ姓名ヲ偽リシヲ知リ其偽名ヲ記シタル往來切手ヲ渡セシ時ハ六月ヨリ少ナカラス二年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第九十三條 何人ニ限ラス自カラ公役ヲ免カル爲メ又ハ他人ノ公役

ヲ免カレシムル爲メ内科又ハ外科ノ醫師ノ姓名ヲ僞リ用ヒテ疾病ノ證書ヲ製造シ又ハ贋造セシメタル者ハ一年ヨリ少ナカラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ

第百九十四條 内科又ハ外科ノ醫師本人ノ乞ニ從ヒ又ハ其情ヲ憐ミ公役ヲ免レシム可キ疾病ノ證書ヲ僞リ造リシ時ハ一年ヨリ少ナカラス三年ヨリ多カラサル時間禁錮ノ刑ニ處セラル可シ若シ其醫師約束或ハ贈物ノ爲メ其心ヲ動かサレシ時ハ納賂ノ刑ニ處セラレ又其賄賂者ハ其罪ニ應スル刑ニ處セラル可シ

奧太利刑法

第二百一條 (イ)凡ソ人民私有ノ證書類ヲ僞造シ又ハ其正物ヲ變造セシ者及ヒ全ク關係ナキカ或ハ其獨權ニ屬セサル證書類ヲ他人ニ損害ヲ與フヘキ爲メ故ラニ沒收毀損磨滅セシ者或ハ贋造ノ紙幣若クハ公債證書及ヒ貨幣等其主犯或ハ共犯者トノ協同ニ由ラスト雖モ贋造物ナルヲ知テ之ヲ流通セシメシ者

第二百二條 詐僞ノ刑ハ大抵六月以上一年以下ノ徒刑トス然レトモ特ニ加等ノ情狀アルニ於テハ一年以上五年以下ニ及フコトヲ得

第三百三十條 官印ヲ其命ナクシテ猥リニ調製スルカ或ハ其命アリテ調製セシモノヲ本官ニ納メス關係ナキ他人ニ渡ストキハ之ヲ違式罪トシ初回ニ於テハ二週以下禁獄再犯ニ於テハ禁獄一月ノ外尙ホ本職業禁止ニ處ス可シ

米國刑法

第五千四百十三條 合衆國ノ職務及ヒ保證ノ文句ハ通用紙幣、公債證書、利子證書、合衆國手形及ヒ合衆國ノ官吏ニ出ル預金證書、爲替手形及議事院ノ決議ニ依テ發行スル印紙等ヲ指ス

第五千四百十四條 詐欺ノ心ヲ以テ合衆國ノ職務又ハ保證ヲ變造僞造スル者ハ五千弗以下ノ贖金ヲ科シ或ハ十五年以下ノ加苦役入獄ニ處ス

第五千四百十九條 政府又ハ官署ノ印ヲ僞造シ或ハ其僞印ヲ使用シタル者地券國債證書其他官ヨリ發行シタル證券ヲ僞造變造シ又ハ僞造變造

シタル證券ヲ使用シ或ハ土耳其格ノ所領内ニ輸入セシ者ハ有期ノ徒刑又ハ禁獄ノ刑ニ處ス可シ但此刑ノ期限ハ如何ナル場合ト雖モ十年以上タルヘシ

第五千四百二十三條 税關局ノ船舶登記證書沿海貿易免許狀漁業免許狀船舶所有證書船舶通行證書及船舶納稅濟證書ヲ偽造變造スル者及其偽造變造タルヲ知テ之ヲ使用スル者ハ一千弗以下ノ贖金ヲ科シ且ツ三年以下ノ加苦役入獄ニ處ス

第五千四百二十四條 歸化シテ合衆國民トナランコトヲ願フ人或ハ如此人ノ爲ニ證人トナリテ出頭スル人他人ノ名ヲ冒シ又ハ偽名ヲ稱シ若クハ歸化法ヲ要スル所ノ誓文印記録及證書ヲ偽造シ及偽造タルヲ知テ之ヲ使用スル者ハ一年以上五年以下ノ加苦役入獄ニ處ス若クハ三百弗以上一千弗以下ノ贖金ヲ科ス或ハ入獄贖金ヲ併用シテ之ヲ罰ス

第五千四百六十四條 郵便印紙及ヒ其極印板具ヲ偽造スル者及ヒ其偽造タルヲ知テ之ヲ使用販賣シ又ハ之ヲ使用スルヲ圖テ之ヲ所有スル者及

ヒ其權ナクシテ郵便印紙ヲ出版シ其極印ヲ造作シ及ヒ受クルノ權ナキ人ニ之ヲ授クル者ハ五百弗以下ノ贖金ヲ科シ或ハ五年以下ノ加苦役入獄ニ處シ或ハ入獄贖金ヲ併用シテ之ヲ罰ス

第五千四百六十五條 外國政府ノ郵便印紙ヲ偽造スル者及ヒ其偽造タルヲ知テ之ヲ行使スル者ハ二年以上十年以下ノ加苦役入獄ニ處ス

土耳其刑法

第四百四十八條 政府又ハ官署ノ印ヲ偽造シ或ハ其偽印ヲ使用シタル者地券國債證書其他官ヨリ發行シタル證券ヲ偽造變造シ又ハ偽造變造シタル證券ヲ使用シ或ハ土耳其格ノ所領内ニ輸入セシ者ハ有期ノ徒刑又ハ禁獄ノ刑ニ處ス可シ但此刑ノ期限ハ如何ナル場合ト雖モ十年以上タルヘシ

第四百四十九條 官ニ屬スル印紙ヲ偽造シ又ハ變造シタル者ハ十年以下ノ有期ノ徒刑及ヒ禁獄ニ處ス可シ真正ノ印紙ヲ不當ナル方法ヲ以テ得タル後チ國家ノ利益ニ害アル事ニ之ヲ使用シタル者ハ三年ノ禁錮ニ處ス

可シ

第百五十五條 前條ニ記載シタル方法ヲ以テ私書ヲ偽造シ又ハ故ラニ其偽造シタル書類ヲ使用セシ者ハ一年ヨリ少ナカラス三年ヨリ多カラサル禁錮ニ處ス可シ

第百五十六條 何人ニ限ラス軍人ノ往來手形通行免狀旅行免狀ヲ受取ルニ付キ偽名ヲ稱シ又ハ偽ヲ以テ其手形免狀ヲ受取ラシムル爲メ證人トナリタル者ハ六ヶ月ヨリ少ナカラス二年ヨリ多カラサル禁錮ニ處ス可シ

第百五十七條 何人ニ限ラス軍人ノ往來手形通行免狀旅行免狀ヲ偽造變造シ又ハ其偽造變造シタル手形免狀ヲ使用セシ者ハ一年ヨリ少ナカラス三年ヨリ多カラサル禁錮ニ處ス可シ

第百五十九條 官吏現行ノ規則ニ背キ保證ヲ爲サシメスシテ軍人ノ往來手形ヲ渡シタル時ハ其職務ヲ免シ且ツ六月ヨリ少ナカラス一年ヨリ多カラサル禁錮ニ處ス可シ若シ官吏偽名タルコトヲ知リ其偽名ノ儘ニテ往來手形ヲ渡シタルトキハ六月ヨリ少ナカラス二年ヨリ多カラサル禁

錮ニ處ス可シ

第百六十條 自カラ公務ヲ免カレ又ハ他人ヲシテ公務ヲ免カレシムル爲メ内科外科ノ醫師ノ名ヲ以テ疾病ノ證書ヲ構造セシ者ハ一年ヨリ少ナカラス三年ヨリ多カラサル禁錮ニ處ス可シ

第百六十一條 人ノ囑託ニ應シ又ハ信切ヲ以テ公役ヲ免カレシムル爲メ疾病ヲ偽リ證セシ内科外科ノ醫師ハ一年ヨリ少ナカラス三年ヨリ多カラサル禁錮ニ處ス可シ若シ贈遺進物ニ因テ其罪ヲ犯セシ時ハ賄賂ヲ受ケシ者ト同一ノ刑ニ處シ且其贈遺進物ヲ爲シテ賄賂ヲ行ヒタル者ヲ其重罪ノ爲メニ受ク可キ刑ニ處ス可シ

獨乙刑法

第百六十七條 詐僞ヲ爲サントスル目的ニテ獨乙國或ハ外國ヲ論セス公證ノ文書(公證人代書人門繼等ニテ)或ハ自己ノ權利ヲ證スル私證ノ文書ヲ變造シ又ハ贋造シ又人ヲ誘惑スル爲メ其變造又贋造シタル文書ヲ使用シタル者ハ文書ヲ變造シタル罪トナシ禁獄ニ處ス可シ

第二百六十八條 己レニ利ヲ得ン爲メ又ハ他人ニ利ヲ得セシメン爲メ或

ハ他人ニ害ヲ加ヘン爲メ文書ヲ變造シタルトキハ其處刑左ノ如シ

第一 其變造セシ文書私證ナルトキハ五年ヨリ長カラサル徒刑ノ外千

「ターレル」以下ノ罰金ニ處スルコトヲ得可シ

第二百六十九條 本人ノ承諾ナク或ハ其意ニ反シテ印章アル白紙(白紙上ニ姓名ヲ記シテ餘白ヲ殘シ用事ノ都度ニ書キ入レヲナシ證書ト同様ニ書キ入ル爲メ假ケタルモノヲ云フ)ニ書キ入レヲナシ證書ト同様ニ

爲シタル者ハ文書ヲ變造シタルト同ク論ス可シ

第二百七十條 變造贋造タルコトヲ知テ人ヲ誘惑スルノ目的ニテ其文書

ヲ使用シタル者ハ文書ヲ變造シタルト同ク論ス可シ

第二百七十五條 左ノ件々ニ於テハ三月ヨリ短カラサル禁獄ニ處スヘシ

第一 故ラニ變造贋造ノ印紙(請取書其他)姓名ヲ記シタル印章白紙印

紙板郵便印紙又ハ傳信印紙或ハ印ヲ押シタル狀袋ヲ使用シタルモノ

第二 眞物トシテ使用スルノ目的ニテ贋造印紙(請取書其他)姓名ヲ記シ

タル印章白紙骨牌往來免券曆書聞紙ニ押ス印板其他活版書ヲ贋造シ

タル者又ハ郵便印紙、電信印紙及ヒ印ヲ押シタル狀袋ヲ贋造シタル者

第三 印紙印、姓名ヲ記シタル印紙、印版郵便印紙、電信印紙及ヒ印ヲ押シ

タル狀袋等ヲ高價ニ賣ルノ目的ニテ偽造シタルモノ

第二百七十七條 免許醫師醫士(リチフヒールテサントハメシサン醫師ヨ)

ト詐稱シ或ハ免許ナク醫師醫士ノ名義ヲ用ヒテ自己ノ健康或ハ他人ノ

健康ヲ證スル爲メ健康狀ヲ渡シタル者又ハ平常渡サレタル健康狀ヲ贋

造シテ官署及ヒ健康請負會社(歐洲ニテ死シタル后子孫ノ爲メ凡幾千萬

年々金ヲ納メシトナシフ其時會社ニテ醫師ヨリ渡シタル健康狀チリ)

誘惑シタル者ハ一年ヨリ長カラサル禁獄ニ處ス可シ

第二百七十八條 免許ノ醫師又ハ醫士人ノ健康ナルヲ知テ故ラニ官署及

ヒ健康請合會社ニ出スヘキ健康狀ニ虛偽ノ事ヲ認メタル者ハ一月ヨリ

短カラス二年ヨリ長カラサル禁獄ニ處ス可シ

印度刑法

第二百五十五條 課税ノ目的ヲ以テ政府ヨリ發行スル所ノ印紙ヲ偽造シ

又ハ之ヲ偽造スルノ一事ヲ行フ者ハ終身流若クハ十年ニ止ル各種ノ入獄及ヒ贖金ニ處スヘシ

第二百五十九條 課税ノ目的ヲ以テ政府ヨリ發行スル所ノ印紙ノ賾物タルヲ知リ之ヲ真物ト爲シテ之ヲ所持スル者ハ七年ニ及フ各種ノ入獄及ヒ贖金ニ處ス可シ

第二百六十條 課税ノ目的ヲ以テ政府ヨリ發行スル所ノ印紙ノ賾物タルヲ知リ之ヲ真物トシテ使用スル者ハ七年ニ止ル各種ノ入獄若クハ贖金ニ處シ又ハ贖金入獄ヲ併科ス

第四百六十七條 有價ノ證書又ハ遺囑書又ハ我子ヲ養フ免狀或ハ有價證書ノ讓與元金利息及ヒ分利ノ受取又ハ金錢動産有價ノ書ヲ受授スル等ノ權ヲ與フル委任狀或ハ金錢及ヒ有價ノ證書又ハ動産ノ受領ヲ表スル憑書ヲ偽造スル者ハ終身流若クハ十年ニ止ル各種ノ入獄ニ處シ且贖金ヲ科ス

第四百六十八條 人ヲ欺クノ意ヲ以テ憑書ヲ偽造スル者ハ七年ニ及フ各

種ノ入獄及ヒ贖金ニ處ス

和蘭刑法

第二百五十五條 或權利義務又ハ或債務ノ免除ヲ發生シ得ヘキ文書ヲ製造又ハ變造シ其文書ヲ行使シ又ハ他人ヲシテ之ヲ行使セシメント企テタル者ハ若シ之ヲ行使スルニ於テ損害ヲ生シ得ヘキトキハ文書偽造ノ罪ヲ犯シタルモノトシテ五年以下ノ禁錮ニ處ス

故意ヲ以テ製造又ハ變造ニ係ル文書ヲ真正ニシテ變造物ニアラストシテ行使シタル者モ亦若シ其行使ニ因リ損害ヲ生シ得ヘキトキハ同上ノ刑ニ處ス

第二百二十六條 文書偽造ノ罪ヲ犯シタル者ハ左ノ場合ニ於テハ七年以下ノ禁錮ニ處ス

第一 公正證書ニ關シテ偽造罪ヲ行ヒタルトキ

第二 國家州邑公會ノ債券又ハ債務ノ認證書ニ關シテ偽造罪ヲ行ヒタルトキ

第三 結社創立又ハ會社ノ株券、債券又ハ株券又ハ債券ノ認證書ニ關シテ偽造罪ヲ行ヒタルトキ

第四 前二項ニ掲ケタル書類ニ附屬スル符號、配當金又ハ手金ノ證券ニ關シ又ハ是等ノ書類ニ代ヘテ行ヒタル證券ニ關シテ偽造罪ヲ行ヒタルトキ

第五 流通ノ用ニ供スル信用又ハ商業ノ手形ニ關シテ偽造罪ヲ行ヒタルトキ

故意ヲ以テ第一項ニ記載シタル偽造又ハ變造ノ文書ノ一ヲ恰モ真正ニシテ變造物タラサルカ如ク之ヲ行使シタル者モ亦若シ其行使ノ爲メニ損害ヲ生シ得ヘキトキハ同一ノ刑ニ處ス

第二百二十七條 或事實ノ眞實ヲ證スヘキ公正證書中ニ其事實ニ關スル虛偽ノ陳述ヲ記載シ其陳述ヲ事實ニ合スルモノトシテ證書ヲ行使シ又ハ他人ヲシテ之ヲ行使セシメント企テタル者ハ若シ其行使ニ因リテ損害ヲ生シ得ヘキトキハ六年以下ノ禁錮ニ處ス

故意ヲ以テ前記ノ證書ニ掲載セシ事項ヲ事實ニ合スルモノトシテ證書ヲ行使シタル者モ亦其行使ニ因リテ損害ヲ生シ得ヘキトキハ同上ノ刑ニ處ス

第二百二十八條 疾病、虛弱又ハ癡疾ノ現在又ハ既往ノ存否ニ關シテ虛偽ノ證書ヲ與ヘタル醫士ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

若シ癡狂院内ニ人ヲ入院セシメ又ハ抑留スルノ企謀ヲ以テ證書ヲ與ヘタルトキハ七年六月以下ノ禁錮ニ處ス

故意ヲ以テ虛偽ノ證書ニ掲載セル事項ヲ事實ニ合スルモノトシテ證明書ヲ行使シタル者モ亦同上ノ刑ニ處ス

第二百二十九條 公ケノ官廳又ハ保險者ヲ欺罔スルノ企謀ヲ以テ疾病、虛偽又ハ癡疾ノ現在又ハ既往ノ存否ニ關スル證明書ヲ製造又ハ變造シタル者ハ三年以下ノ禁錮ニ處ス

同上ノ企謀ニ出テ偽造、變造ノ證明書ヲ眞正ニシテ且變造物ニアラストシテ之ヲ行使シタル者モ亦同一ノ刑ニ處ス

第二百三十條 品行方正、適任、貧窮又ハ其他ノ事情ノ證明書ヲ製造又ハ變造シ或ル地位ヲ得ルカ爲メ又慈善心ヲ喚起シテ救助ヲ得ルカ爲メ之ヲ行使シ又ハ他人ヲシテ行使セシメント企テタル者ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

故意ヲ以テ第一項ニ掲ケタル偽造、變造ノ證明書ヲ真正ニシテ變造物ニアラストシテ之ヲ行使シタル者モ亦同一ノ刑ニ處ス

第二百三十一條 通行券、安全券、旅行券ヲ製造又ハ偽造シ又ハ姓名身分ヲ詐僞シテ此種ノ書類ヲ下付セシメ其書類ヲ真正ニシテ變造物ニアラストシテ又ハ其中ニ掲載セシ事項ヲ事實ニ合スルモノトシテ其書類ヲ行使セント企テタル者ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

故意ヲ以テ第一項ニ掲ケタル偽造、變造ノ書類ヲ真正ニシテ變造ニアラストシ又ハ其中ニ掲ケタル事項ヲ事實ニ合スルモノトシテ書類ヲ行使シタル者モ亦同一ノ刑ニ處ス

第二百三十二條 法律ニ依テ創立セラレタル流通ノ和蘭國立銀行ノ手形

ヲ受領スル際其偽造又ハ變造ニ係ルコトヲ知り之ヲ善良ニシテ變造物ニアラストシテ流通セシムルノ企謀ヲ以テ之ヲ貯藏シ又ハ歐羅巴ノ和蘭王國內ニ輸入シタル者ハ七年以下ノ禁錮ニ處ス
法律ニ依テ創立セラレタル流通ノ和蘭國立銀行ノ手形ノ偽造、變造ニ係ルコトヲ知りタル後之ヲ流通セシメタル者ハ三月以下ノ禁錮又ハ三百「フロラン」以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十四條 第二百二十六條第二項乃至第五項ニ特定セシ犯罪ノ一ヲ行フノ用ニ供スヘキモノナルコトヲ知りテ其原料又ハ器械ヲ貯藏スル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ三百「フロラン」以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十五條 第二百二十五條乃至第二百二十九條及ヒ第二百三十二條ニ特定セル犯罪ノ爲メニ刑ヲ言渡ス場合ニ於テハ第二十八條第一項乃至第四項ニ掲ケタル權利ノ剝奪ヲ宣告スルコトヲ得

那威刑法

第七十九條 文章ハ本法ノ定義ニ於テハ文字又ハ其他ノ手段ニ依ル通

告ヲ包含スル物件ニシテ權限義務又ハ此種ノモノノ解除ニ關スル重用
ノ證據資料タルモノ又ハ證據ノ爲メ作製セラレタリト思料ス可キモノ
ト解ス可シ

第一百八十条 虚偽ノ署名ニ依リ作製シタル文書又ハ作製者不法ニ其證據
力ニ重要ノ影響ヲ及ホス可キ序列ヲ爲シタル文書又ハ其一部ノ除去ニ
依リ定義ヲ變更シタル文書モ亦之ヲ偽造シタル文書ト看做ス

第一百八十一条 當該者ノ署名ヲ空白ニシタル證券又ハ爾餘ノ物件ニ權限
ヲクシテ書入ヲ爲シ依リテ當該者ノ署名ヲ作製シ又ハ錯誤ヲ生セシメ
タル結果其希圖セサリシ文書又ハ其希圖セサリシ意義ノ文書ヲ署名セ
シメタル場合並ニ權限ヲクシテ真正ノ印印證又ハ記號ヲ使用シ依リテ
文書ヲ作製シタル場合モ亦文書偽造罪トシテ之ヲ罰ス可シ

第一百八十二条 違法ノ意向ニ依リ偽造又ハ變造ノ文書ヲ真正又ハ不變更
ノモノトシテ使用シタル者又ハ其協力者ニハ二年以下ノ禁錮ヲ科刑ス
而シテ内國又ハ外國ノ公文書ニ關スルトキハ四年以下ノ禁錮ヲ科刑ス

特別ノ減輕事由アルトキハ金刑ヲ科スルコトヲ得
權限アル請求ニ付キ又ハ權限ナキ請求ノ防衛ニ付キ證據資料ヲ作製ス
ル爲メ使用シタルトキハ金刑又ハ一年以下ノ禁錮ヲ科ス

第一百八十三条 二年ノ禁錮以上ノ刑ヲ規定シタル罪ヲ犯ス爲メ偽造又ハ
變造ノ文書ヲ真正又ハ不變更ノモノトシテ使用シタル者並ニ其協力者
ニハ五年以下ノ禁錮ヲ科刑ス

使用シタル文書公ノ調書署名及ヒ印ヲ空白ニシタル公ノ文書又ハ遺言
ナリシトキ又ハ罪ニ依リ一千クローン以上ノ損害ヲ惹起シ又ハ希圖シ
タルトキハ八年以下ノ禁錮ヲ科スルコトヲ得

第一百八十四条 違法ノ意向ニ依リ不變更ノモノトシテ使用セラレタル變
造文書郵税不要ノ記號消印又ハ其他ノ記號入封券又ハ乗車船券又ハ類
似ノ物件ニシテ其實際ノ有效範圍以外ニ於テ又ハ其效力ノ消滅後ニ於
テ效力ヲ有スル如キ外觀ヲ附與セントシタルモノナルトキハ金刑又ハ
六月以上ノ禁錮ヲ科ス

第百八十五條 公ノ圖畫ヲ變造シタル者又ハ其協力者ハ第百八十二條ニ依リ之ヲ科刑ス而シテ二年ノ禁錮以上ノ刑ヲ規定シタル罪ヲ犯ス手段トシテ行爲ヲ爲シタルトキハ第百八十三條ニ依リ之ヲ科刑ス

爾余ノ場合ニ於テ第百八十二條又ハ第百八十三條ニ依リ科ス可キ方法ニ使用シ又ハ使用セシムル爲メ偽造ノ文書ヲ作製シ又ハ取得シタル者又ハ其協力者又ハ同一ノ意向ヲ以テ真正ノ文書ヲ變造シ又ハ變造文書ヲ取得シタル者又ハ其協力者ニハ金刑又ハ使用ニ付キ規定シタル最高度ノ半ハ以下ノ禁錮ヲ科刑ス

本條ニ依ル科刑ハ罪責者第百八十二條又ハ第百八十三條ニ依リ宣告ヲ受ケタルトキハ之ヲ爲サス

第百八十六條 文書偽造ノ準備ノ爲メ偽造又ハ變造ノ用ニ供ス可キコト明確ナル虛偽ノ印印證記號又ハ其他ノ物件ヲ作製シ又ハ取得シタル者又ハ此種ノ意向ヲ以テ真正ノ印印證又ハ記號ヲ充用シタル者又ハ其協力者ニハ三年以下ノ禁錮ヲ科刑ス

第百八十七條 違法ノ意向ヲ以テ文書上ノ自己ノ署名ヲ否認シ又ハ文書ヲ毀滅隱蔽シ又ハ其全部又ハ一部ヲ無効トシタル者竝ニ其協力者ニハ第百八十二條ニ依リ之ヲ科刑ス而シテ二年ノ禁錮以上ノ刑ヲ規定シタル罪ヲ犯ス手段トシテ行爲ヲ爲シタルトキハ第百八十三條ニ依リ之ヲ科刑ス

第百八十八條 違法ノ意向ニ依リ境界石又ハ土地所有權又ハ土地ニ關スル權利其他ノ記號ヲ除去遷移又ハ毀壞シタル者又ハ其協力者ニハ五年以下ノ禁錮ヲ科刑ス

權限アル請求ニ付キ又ハ權限ナキ請求ノ防衛ニ付キ證據資料ヲ作製スル爲メ其行爲ヲ爲シタルトキハ金刑又ハ一年以下ノ禁錮ヲ科刑ス

第百八十九條 權限ニ依リ證明ス可キ事變又ハ事實ニ付キ内國又ハ外國ノ公文書ニ不當ノ登記ヲ爲シタル者又ハ其協力者ニハ金刑又ハ一年以下ノ禁錮ヲ科刑ス而シテ行爲者ノ意向權限ナキ利得ヲ爲シ又ハ爲サシメ又ハ人ヲ損害スルニアリシトキハ三年以下ノ禁錮ヲ科刑ス

第一百九十條 第一百八十九條ニ記載シタル種類ノ記載ヲ正當ノモノトシテ
使用シタルトキハ同條ニ豫見シタ刑ヲ科ス

奧太利刑法草案

第二百八十五條 何人タリトモ變造又ハ偽造ノ證書ヲ不法ノ目的ヲ以テ
誑惑ノ用ニ供シタル者ハ證書偽造ノ罪アルモノトシテ六月以下ノ禁錮
又ハ五百フロリン以下ノ罰金ヲ以テ處分セラル、モノトス若シ證書カ
公ケノモノナルトキハ内國又ハ外國ノモノタルニ拘ハラヌ禁錮又ハ千
フロリン以下ノ罰金ヲ以テ處刑セラルモノトス

第二百八十六條 不法ノ財産上ノ利益ヲ自己ニ得又ハ他人ニ爲サシメ又
ハ他人ノ財産ニ損害ヲ加フルノ目的ヲ以テ此ノ證書ヲ使用シタル者ハ
禁錮又ハ五年以下ノ懲役ヲ科シ若シ實際加ヘタル損害カ千フロリンヲ
超ヘタルトキハ十年以下ノ懲役又ハ三月ヨリ少ナカラサル禁錮ヲ以テ
處刑セラルモノトス

自由刑ト共ニ五千フロリン以下ノ罰金ヲ科スルコトヲ得ルモノトス

第二百八十七條 證書ノ一部ヲ消除シ塗抹シ又ハ除去シテ其意氣ヲ變更
シタルトキハ之レ亦變造證書ナリトス

他人ノ署名アル紙ニ其ノ同意ナク又ハ其命令ニ反シテ記入ヲナシ之ヲ
證書ノ意義ヲ備ヘシメタルトキハ之モ亦偽造證書ナリトス

第二百八十八條 何人タリトモ法律上重要ノ事情ニ關スル公ケノ簿冊又
ハ帳簿ヲ記入シ又ハ公ケノ證書ヲ調製スル職務アル者ヲ誑誘シテ左ノ
事ヲ基ケタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ五百フロリン以下ノ罰金ヲ以テ
處刑セラルモノトス

第一 皆無又ハ相異ノ事實ヲ公證セシメタル者

第二 皆無又ハ相異ノ陳述又ハ或ル人カ己レノ資格外ニ於テナシタル
又ハ他人カナシタル陳述ヲ本人カナシタルモノトシテ公證セシメタ
ル者

公ケノ簿冊帳簿又ハ證書カ内國又ハ外國ノモノナルトモ更ニ區別ナキ
モノトス

第二百八十九條 何人タリトモ不法ノ財産上ノ利益ヲ自己ニ得又ハ他人ヲシテ得セシメ又ハ或ル者ニ損害ヲ加フルノ目的ヲ以テ前記ノ所爲ヲ行フタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ一週間ヨリ少ナカラサル禁錮ヲ以テ處刑シ之ト共ニ四千「フロリン」以下ノ罰金ヲ科スルヲ得ルモノトス

第二百九十條 何人タリトモ第二百八十九條ニ記載セル種類ノ眞誠ナラサル證書ヲ不法ノ目的ヲ以テ誑惑ノ用ニ供シタル者ハ第二百八十九條及ヒ第二百九十條ノ規定ニ從テ處刑セラルルモノトス

第二百九十一條 何人タリトモ不法且他人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ左ノコトヲナシタル者ハ禁錮ヲ以テ處刑セラレ之ニ千「フロリン」以下ノ罰金ヲ附加スルヲ得ルモノトス

第一 全然己レニ屬セサル又ハ己ノ專有ニ歸セサル證書ヲ毀損シ又ハ掩蔽シタル者

第二 疆界石又ハ其他ノ疆界又ハ水平ノ表示ニ定メタル又ハ此目的ヲ以テ關與者間ニ承認セラレタル又ハ公權ヲ以テ設ケラレタル標ヲ撤

去シ破壊シ不明ニシ移置シ又ハ偽設シタル者

第二百九十二條 何人タリトモ左ノコトヲナシタル者ハ千「フロリン」以下ノ罰金ヲ以テ處刑セラルルモノトス

第一 模造又ハ變造ノ證券印紙這般ノ印紙稅印アル白紙、押印、郵便切手、電信切手又ハ稅印アル狀袋又ハ郵送切手又ハ其他ノ切手ヲ備ヘタル郵便又ハ電信ノ有價券ヲ眞正ノモノ又ハ偽造ニアラサルモノ、シテ使用シ又ハ流通シタル者

第二 斯ル目的ヲ以テ別記ノ種類ノ偽物ヲ作り買込ミ又ハ他人ニ得ナシメタル者

第三 既ニ使用シタル眞正物ヲ使用記號ヲ撤去シテ再ヒ使用シ又ハ流用シタル者

國家ノ租稅又ハ公納ノ支拂領收證モ亦帝國法典ヲ以テ布告セラレタル命令ニ基キ刑法上保護ノ點ニ關シテ第一號ニ記載シタル物ト同一ニ看做サルヘキモノトス

第二百九十三條 何人タリトモ官廳又ハ保險會社ヲ誑惑センカ爲メ醫師又ハ其他ノ免許醫員ノ作リタル詐欺ノ證書又ハ他人カ此等ノ人ノ氏名ヲ用ヒ又ハ權利ナクシテ醫師又ハ免許醫員ノ名稱ヲ冒シテ交付シタル證書ヲ使用シタル者ハ六月以上ノ禁錮又ハ五百フロリン以下ノ罰金ヲ以テ處刑セララルモノトス

第二百九十四條 官廳又ハ保險會社ニ使用スルコトヲ知リツツ人ノ健康ニ關シ不正ノ證書ヲ交付シタル醫師又ハ其他ノ免許醫員ハ二年以下ノ禁錮又ハ五百フロリン以下ノ罰金ヲ以テ處刑セララルモノトス

第二百九十五條 何人タリトモ自己又ハ他人ノ健康ニ付キ官廳又ハ保險會社ヲ誑惑センカ爲メ第二百九十五條ニ記載シタル種類ノ證書ヲ使用シタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ五百フロリン以下ノ罰金ヲ以テ處刑セララルモノトス

瑞西刑法典案

第三百三十六條 虛偽ノ文書ヲ作製シ又ハ真正ノ文書ヲ變造シ又ハ真正ノ

案文ノ妄用ニ依リ文書ヲ作製シテ之ヲ詐欺ノ目的ニ行使シタル者
虛偽又ハ變造ノ文書又ハ真正ノ案文ヲ妄用ニ依リ作製セラレタル文書ナルコトヲ知リテ之ヲ詐欺ノ目的ニ行使シタル者

ニハ一月以上ノ禁錮又ハ五年以下ノ懲役ヲ科刑ス。輕微ノ場合ニ於テハ一千フランクノ罰金ヲ裁定スルコトヲ得

文書トハ法律上ノ效用ヲ有スル事實ヲ證明ス可キ書類又ハ證明スルニ適スル書類ヲ曰フ。其他ノ物件ハ法律上書類ト同一トス。

第三百三十七條 公文書ヲ偽造シ又ハ變造シ又ハ情ヲ知リテ此種ノ文書ヲ行使シタル者ニハ懲役ヲ科ス。輕微ノ場合ニ於テハ禁錮ヲ裁定スルコトヲ得

行爲者欺罔ノ意向ニ依リ行爲ヲ爲シタルトキハ二年以上ノ懲役ヲ科刑ス

官吏其職務ヲ以テ又ハ公ノ信用ニ依リ認許セル者其資格ヲ以テ調製シ又ハ認證セル文書ハ之ヲ公文書トス

第三百三十八條 虛偽又ハ不實ノ事實ナルコトヲ知リテ官吏又ハ公ノ信用ニ依リ認許セル者ヲシテ法律上ノ效用ヲ有スル事實例之案文ノ真正ナルコト又ハ謄本ノ純正ナルコトヲ文書ニ記載セシメ又ハ認許セシメタル者ニハ一月以上ノ禁錮ヲ科刑ス
行爲者欺罔ノ意向ニ依リ行爲ヲ爲シタルトキハ其刑ハ十年以下ノ懲役トス

唐律

諸偽造皇帝八寶者斬太皇太后皇太后皇后皇太子寶者絞皇太子妃寶者流三千里
諸偽寫官文書印者流二千里餘印徒一年
諸詐爲制書及增減者絞未施行者減一等
諸詐爲官文書及增減者杖一百準所規避徒罪以上各加本罪二等未施行各減一等

明律

凡偽造諸衙門印信及曆日符驗夜巡銅牌茶鹽引者斬有能告捕者官給賞銀五十兩偽造關防印記者杖一百徒三年告捕者官給賞銀三十兩爲徒及知情行使用者各又減一等若造而未成者各又減一等其當該官司知而聽行與同罪不知者不坐
詐爲制書條 凡詐爲制書及增減者皆斬未施行者絞傳寫失錯者杖一百
詐爲將軍總兵官五軍都督府六部都察院都指揮使司內外各衛指揮使司守禦緊要隘口千戶所文書套畫押字盜用印信及空紙用印者皆絞察院布政司按察司府州縣衙門者杖一百流三千里其餘衙門者杖一百徒三年未施行者各減一等若有規避事重者從重論

清律

與明律同

第三 釋義 本章ハ舊刑法第二編第四章中其第三節第二百四條ヲ除ク第四節ノ私書偽造罪ノ一部及ヒ第五節ノ規定ヲ合シ之ニ修正ヲ加ヘタルモノナリ
例ニ依リ本章修正ノ主要ナル點ヲ舉クレハ左ノ如シ

第一 舊刑法ハ文書ノ偽造ノミヲ罰シ圖畫ノ偽造ヲ豫想セスト雖モ例ヘハ檢證調書ニ添付スル圖畫ノ如キハ刑ヲ科シテ以テ其偽造ヲ防止スヘキモノトス故ニ本法ハ文書偽造ノ罪ナル章目ノ下ニ廣ク文書若クハ圖畫ノ偽造罪ヲ規定セラレタリ

第二 舊刑法ハ文書偽造罪ノ成立ニハ原則トシテ偽造ノ行爲ト行使ノ行爲トノ二要素トヲ必要トセリ從テ單ニ偽造ノ行爲ノミニテハ未タ罪ト爲ラス故ニ本法ハ通貨偽造罪ニ於ケルト同シク此點ニ修正ヲ加ヘ文書偽造罪ハ行使ヲ待タスシテ既ニ偽造ノトキニ成立スルモノト爲シ行使ノ有無ヲ問ハサルコトト爲シタリ

第三 舊刑法ハ其第二百二條末段第二百三條第二項及ヒ第二百五條第二項ニ於テ官文書毀棄罪ノ規定ヲ設クト雖モ本罪ハ少シモ文書ノ偽造ト關係ナキヲ以テ本法ハ改メテ之ヲ本編第四十章毀棄罪ノ中ニ規定シタリ

第四 舊刑法ハ其官文書偽造罪ニ於テ單ニ官吏ニ關スル規定ノミヲ設ク

ルヲ以テ本法ハ之ヲ補修シ官吏ノミナラス廣ク其他ノ公務員ニモ共通スル規定ヲ加ヘタリ

第五 舊刑法ハ公務員カ其職務上虛偽ノ文書ヲ作り又ハ不正ニ官ノ文書ヲ増減變換シタル場合ヲ以テ等シク官文書ノ偽造變造ト爲スト雖モ本法ハ之ヲ改メ虛偽ノ文書ヲ作製シ又ハ文書ヲ變造シタル罪ト爲シタリ

第六 第五十四條乃至第五十七條及ヒ第六十條ノ罪ノ未遂ハ之ヲ罰セス是蓋シ此等ノ場合ニ在テハ其行爲ノ未遂ハ多クハ第十九章ノ罪ヲ構成スヘケレハナリ

第七 舊刑法ノ文書偽造罪ニ關スル規定殊ニ官文書ニ關シテハ刑ノ範圍狹キニ過キ適用ノ際困難ヲ感スルコトナシトセス是ヲ以テ本法ハ之ヲ改メ充分ニ刑ノ範圍ヲ擴張シ裁判所ヲシテ情狀ニ因リ適宜ニ刑ヲ科セシムルコトト爲シタリ

本法ニ所謂文書偽造罪ノ何者タルヤニ付テハ學說紛々歸一スル所ナシ抑モ文書トハ言語若クハ之ニ代ルヘキ方法ニ依リ或事實又ハ意思ヲ他ニ發表ス

ルノ機關タルコトハ殆ント疑ヒヲ容レヌ是ニ於テ事實又ハ意思ヲ表示スル
 機關タニ正當ナルトキハ其中ニ表示セラルル所ノ事實又ハ意思モ亦自ラ正
 當ナルヘシト云フ推測ヨリシテ専ラ機關ノ真正ヲ保護セントスル思想即形
 式ヨリ觀察シタルモノト文書ハ單ニ或ル事實又ハ思想ヲ表示スルノ機關タ
 ルカ故ニ文書ニ依テ表示セラレタル事實真正ナルトキハ其機關タル文書其
 モノノ眞否ハ敢テ問フ所ニアラストノ思想即實質ヨリ觀察シタルモノトノ
 二説ヲ生スルニ至レリ前者ノ説ニ依ルトキハ文書偽造罪トハ或事實又ハ意
 思ヲ表示スル機關其モノヲ僞ルノ所爲ニシテ之ヲ構成スル爲メニハ(一)他人
 ヲ欺キ以テ形式ノ真正ナル文書ナリト誤信セシムルノ意思ト(二)他人ヲ欺ク
 ニ足ルヘキ文書ヲ僞作スルノ所爲トノ二要素ヲ具備スルヲ以テ充分ナリト
 シ後者ノ説ニ從ヘハ文書偽造罪トハ文書ニ依テ文書ノ證明セント欲スル所
 ノ事實又ハ意思ノ眞實ヲ僞ルノ所爲ニシテ之ヲ構成スルカ爲メニハ(一)他人
 ヲ欺キ以テ文書カ表示スル所ノ事實ヲ真正ナリト誤信セシムルノ意思ト(二)
 虛僞ノ事實ヲ記載シタル文書ヲ作成スルトノ二要素ヲ具備スルヲ以テ十分

ナリトストノ論結ヲ生シタリ我舊刑法ニ於テハ第二ノ主義ニ制限ヲ付シタ
 ル佛國刑法ノ主義ヲ採リタルモノノ如ク從テ之ヲ構成スルカ爲メニハ實害
 ヲ生シ得ヘキコト及ヒ害ヲ生セシムル意思アルコトヲ要スルモノトセリ故
 ニ學者ハ左ノ如キ定義ヲ付セリ(勝本博士刑法析義上卷第四百八十一頁岡田
 博士刑法講義各論ノ部第百十五頁參照)

第一説 文書偽造罪トハ文書ニ憑テ文書カ證明セント欲スル所ノ事實ノ

眞實ヲ僞リ以テ害ヲ生セシムルノ所爲ナリ故ニ本罪ハ下ノ各要
 素ヲ以テ成立ス(一)文書ニ憑ルコト即チ文書ヲ作製シ又ハ増減變
 換シテ之ニ憑ルコト(二)事實ノ眞實ヲ僞ルコト(三)文書カ證明セン
 ト欲スル所ノ事實ニ關スルコト(四)害ヲ生シ得ヘキコト(五)害ヲ生
 セシムルノ意思アルコト是レナリ(勝本博士定義)

第二説 文書ノ偽造又ハ變造トハ證據文書ノ真正ヲ模擬(偽造)又ハ變更(變
 造)シ以テ其文書ノ證明セントスル事項(權利)又ハ義務若クハ事實
 ノ眞正ヲ誤解スヘキ體裁ニ達シタルヲ謂フ(岡田博士定義)

參照

文書ノ偽造變造ハ文書自體ノ真正ヲ模擬變更スルニ因テ罪ト爲ルカ文書ノ指定スル事項ノ真正ヲ害スヘキ體裁アルニ因テ罪ト爲ル乎ニ付テハ岡田博士ハ左ノ如ク論斷セリ

官公文書ハ各其權限内ニ於テ之ヲ作成スルコトヲ要スルノミナラス亦其程式ヲ遵守シ一旦成立シタル文書ノ現状ヲ保持スヘキモノナルカ故ニ(例登記簿訴訟記録ノ類皆然リ)文書自體ノ真正ヲ模擬變更スルニ因テ罪ト爲ル可キモ私文書ニ至テハ却テ其示定スル事項ノ真正ヲ證明スルヲ主眼トスルカ故ニ之ヲ害スヘキ體裁アルニ因テ始メテ罪ト爲ル可シ(例一ヲ壹ニ改ム)刑法論(350)頁反對

右ニ論スル所ハ之ヲ畧言スレハ文書ノ偽造又ハ變造カ其文書ノ用ニ從テ害ヲ生シ得可キモノナレハ有罪ト爲リ若シ何等ノ害ヲモ生シ得カラサルモノナレハ罪ニ非スト云フ原則ノ適用ヲ示シタルモノナリ

以上二個ノ學說ハ舊刑法施行ノ時代ヨリ種々ノ異說ヲ參酌シタル結果遂ニ斷定ヲ見ルニ至レリ各說ク所ヲ異ニスト雖モ歸著スル所ハ大差アルヲ見ス本法ハ果テ此二個ノ學說ニ於ケル觀念ト一致スルヲ得ヘキ乎法條ノ示スルニテハ全然同一ナリト云フヲ得サルモノアルヲ知ルヘシ文書ノ性質ニ付テハ舊刑法ニ規定スル所モ本法ニ規定スル所モ異ナル所ナキノミナラス文書自體ノ解義ニ至テハ固ヨリ學者ノ說ク所ト同一ナリト雖モ單ニ文書ノ形式ヲ僞ルコトノミヲ以テ文書偽造罪ノ本義ナリトセン乎第百五十六條ノ如キハ此主義ヲ以テ解釋スルコトヲ得ヘキモ他ハ悉ク然ラス形式ヲ僞ルモ事實ノ眞實ヲ僞ラサレハ犯罪ヲ構成セサルモノアリ又形式事實トモニ僞ルコトヲ以テ犯罪成立ノ要素ト爲スモノアリテ之ニ一貫スル定義ヲ付セントスルハ至難ノコトニ屬ス之ト等シク事實ノ眞實ヲ僞ルコトヲ以テ文書偽造罪ノ唯一ノ要素トスル主義ヲ採リタルモノトセン乎形式ヲ僞ルモ記載ノ事實ニ

シテ眞實ナレハ本罪ヲ構成セスト論斷セサルヘカラス從テ形式ハ文書偽造罪ニ於ケル構成要素トナラサルノ嫌ヒアリ如此ハ法文ト相容レサル所ナリトス強テ定義ヲ付スルモ何等ノ實益ナキノミナラス却テ律意ヲ誤マル虞ナシトセス畢竟本法ハ二個ノ主義ヲ折衷シ或ハ併セ用ヒタル所アレハナリ即チ形式ヲ僞ルコトモ事實ノ眞實ヲ僞ルコトモ形式事實トモニ僞ルコトモ悉ク犯罪成立ノ要素ト爲シタレハナリ但舊刑法ノ如ク行使ヲ以テ條件ト爲サルカ故ニ偽造變造ノ結果實害ヲ生スルト否トハ本法ノ問フ所ニアラサルハ明瞭ナリトス如何トナレハ行使ノ事實ナケレハ實害ヲ生スルコトモ亦實害ヲ生セントスル場合ヲモ生セサレハナリ果テ然ラハ何故ニ行使ヲ以テ條件ト爲ササリシヤ單ニ文書圖畫ヲ偽造變造スルモ之ヲ行使セサレハ何等ノ結果ヲ生セサレハ以テ刑法罰ト爲スノ理由何レニ在ル乎ハ直ニ起ルヘキ疑問ナリト雖モ畢竟文書ノ偽造變造ノミヲ處罰セントスル立法者ノ意見ハ文書圖畫ハ主トシテ或事實ノ證明ノ具ニ供スル目的ヲ以テ作成スルモノナレハ之ヲ偽造變造スルトキハ假令之ヲ行使セサルモ信用ヲ害スルノ行爲ハ僞

造變造ノトキニ成立シ直ニ危險ヲ生スルノ虞アルヲ以テナルヘシ

以下各本條ニ就キ解説スル所アルヘシ

第五十四條ハ舊刑法第二百二條前段ト同一趣旨ノ規定ニシテ唯規定ノ異なる所ハ偽造變造ノ手段ヲ示シタルニ過キス本條ニ記載スル罪ノ如キハ頗ル重大ノ關係アルモノナルニ拘ハラズ實際ノ事例ニ於テハ其數極メテ鮮シ固ヨリ斯ル犯罪ヲ生スヘキ機會少ナキニ由ルモノナルヘシト雖モ我國體上第一章ニ記載スル場合ト同シク生スヘカラサル事例ニ屬スルヲ以テナルヘシ

御璽トハ天皇ノ御名ヲ彫刻シタル玉璽ヲ云ヒ國璽トハ大日本帝國ヲ表章スルノ印影ヲ云ヒ詔書トハ天皇ノ親ヲ作製セラルヘキ勅書ヲ云フ舊刑法ニハ單ニ詔書ヲ偽造シ云々ト規定シタル爲メ詔書ノ意義ニ廣狹二様ノ解釋ヲ生セリ即チ其一説ハ天皇カ國家ノ首長トシテ作製セラルル特別ノ文書ニ限ルトスルモノニシテ其理由トスル所ハ舊刑法ニ於テハ詔書ノ偽造變造ハ官ノ文書ヲ偽造スル罪ノ中ニ規定セラレタリ官ノ文書ナル意義ニモ亦官吏カ其

職務ヲ以テ調製スル凡テノ文書ヲ云フト解スル者ト官吏カ國家爲政ノ機關トシテ調製スル凡テノ文書ニ限リ私法上ノ關係即チ民事又ハ商事等ニ於テ作成スルモノハ官文書ト云フヲ得ストノ二様ノ解釋ナキニアラサレトモ其官文書ノ一種トシテ規定セラレタル點ヨリ觀察シ學者ノ多クハ天皇カ私人關係ノ爲メニ發セラルル文書ハ詔書ニアラスト論斷セシモ本條ニ付テハ廣狹何レノ主義ヲ採ルモ詔書ニ入ラサレハ其他ノ文書ニ包含スヘキニ依リ御璽國璽又ハ御名ヲ使用シテ偽造シタル文書ハ本條ノ制裁ヲ受クルコトト爲セリ

第一百五十五條ハ舊刑法第二百三條及ヒ第二百十三條ヲ合シ之ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ其第一項ハ公務所又ハ公務員ノ印章署名ヲ不法ニ使用シテ官吏公吏其他公務ニ從事スル職員ノ作ルヘキ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル此等ノ印章署名ヲ使用シテ公務員ノ作ルヘキ文書若クハ圖畫ヲ變造シタル場合ニ關シ第二項ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル場合ニ關スル規定ナリトス第三項ハ前二項以外ノ手段ヲ

以テ公務所又ハ公務員ノ作ルヘキ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ若クハ其作リタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル場合ニシテ本項ニ在テハ印章署名等ヲ使用スルコトナキヲ以テ犯行ノ結果重大ナラス其情狀モ亦從テ輕キヲ以テ前二項ニ比シ其刑ヲ輕クシタルモノノ如シ

第一百五十六條ハ舊刑法第二百五條第一項及ヒ第二百十四條第二項ト同一ノ場合ヲ規定スルモノナリト雖モ其趣旨ニ於テハ全ク異ナル所アリ舊刑法ハ官吏カ其職務上虛偽ノ文書ヲ作ル場合ヲ以テ管掌ニ係ル文書ヲ偽造スル場合ト爲スト雖モ其文書タルヤ形式ニ於テハ官吏ノ職務上作リタル官文書ナルヲ以テ縱令實質ニ於テ瑕瑾アリト雖モ之ヲ以テ文書ノ偽造ト爲スハ稍不當ノ譏アルヲ免カレス故ニ本條ニ於テ新ニ公務員カ其職務ニ關シテ虛偽ノ文書ヲ作リタル場合及ヒ不正ニ文書ヲ變造シタル場合ノ規定ヲ設ケテ此等ノ批難ヲ避ケタルモノノ如シ

第一百五十七條第一項ハ公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ權利義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル場合ニシテ舊刑法ニ於テハ此等

ノ規定ヲ缺キタル爲メ其解釋區々ニ分レ爲メ無形ノ文書偽造罪ノ存在ヲ認ムルノ學說ヲ生スルニ至レリ故ニ本條ニ於テハ明文ヲ設ケ此等ノ疑義ヲ避ケタルモノノ如シ第二項ハ公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ免狀鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル場合ノ規定ニシテ是モ亦舊刑法ニ明文ノ缺如スル所ニシテ前項ト同シク新ニ明文ヲ設ケ補修シタルモノトス而シテ前二項ノ未遂ノ場合ハ印章偽造罪ニ問フヘカラサルヲ以テ第三項ヲ設ケ之ヲ處罰スルコトヲ規定シタルモノノ如シ

第百五十八條ハ第百五十四條第百五十五條及ヒ第百五十六條第百五十七條ニ記載シタル文書若クハ圖畫ノ行使者ヲ處罰スル規定ニシテ此種ノ行使罪ニ付テハ其未遂ヲモ處罰スルコトト爲レリ蓋シ本法ハ行使ノ目的ニ出テタル文書ノ偽造罪ヲ處罰スルヲ以テ之ヲ行使シタル者ノ處分ヲ必要トスルノミナラス其未遂罪ハ印章偽造罪ニ問擬スヘカラサルヲ以テ特ニ明文ヲ以テ其未遂ヲ處罰スル趣意ヲ明ニシタルモノナルヘシ

第百五十九條ハ舊刑法第二百十條ニ修正ヲ加ヘタルモノニシテ舊刑法ハ買

買貸借贈遺交換其他權利義務ニ關スル證書ト其餘ノ私書トヲ區別スト雖モ此等ハ文書ノ種類ヲ列擧スルニ止マリ何等ノ實益ナキヲ以テ本條ハ總テ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書ト修正シ手段ノ異ナルニ依リ之ヲ二項ニ分チ其處分ヲ異ニシタルモノノ如シ

第百六十條ハ舊刑法第二百五條ヲ修正シタルモノニシテ醫師カ診斷書檢案書又ハ死亡證書ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタル場合ノミヲ規定シ偽造ノ目的方ヲ削除セリ蓋シ此等ノ細別ハ法書ニ掲クルノ必要ヲ認メサリシニ由ルモノナルヘシ

第百六十一條ハ第百五十九條第百六十條ニ記載シタル文書ノ行使ヲ處罰スル規定ニシテ單ニ此等ノ文書ヲ行使スルモ其實害ノ及フ所ハ偽造シ變造シタル者又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者ノ所爲ト擇フ所ナキヲ以テ同一ノ刑ニ處スルコトト爲シタルモノナルヘク從テ未遂ノ行爲ニ付テモ處罰ノ必要アルヲ以テ第二項ニ規定ヲ設ケタリ

第四 疑問及說明

第一 第一百五十五條末項ニ變造ニ關スル規定アリ是ハ第二項ニ掲ケタル以外ノ方法ヲ以テ變造シタル場合ヲ云フ乎
然リ

第二 果シテ然ラハ第二項ニ掲ケタル以外ニ如何ナル方法ニ依ル變造アリヤ署名捺印ナキ文書ヲ變造シタル場合ヲ云フモノナルヘシ

第三 其實例ノ一二ヲ示サレタシ
官ノ文書ノ中ニ合綴スルモノアリ其中署名捺印ナキモノ參差スルコトアルハ往々見ル所ナリ如此ハ適例ナルヘシ

第四 本法ニ於テハ文書ヲ偽造スルニ當テ偽造印章ヲ押捺シタルトキハ文書偽造ノ一罪ト爲スモノノ如シ其理由如何

舊刑法ニ於テハ文書ノ偽造ト印章ノ偽造トハ之ヲ區分シ二個ノ法條ヲ適用シ文書ノ偽造ヲ問フト同時ニ印章ノ偽造或ハ盜用ヲ處罰スル規定ヲ常ニ照査セサルヘカラス如此ハ實際ノ適用上不便少ナカラサルノミナラス署名捺印アル文書ヲ偽造スルニ當テ印影ノ偽造又ハ盜用アルトキハ一罪

ナリヤ數罪ナリヤ又偽造印ヲ數個押捺シタルトキハ數罪ナリヤ一罪ナリヤ等ノ疑問續出スルノ不便アリ故ニ是等ノ手續ヲ管便ニスルニハ文書ノ偽造ニハ何レモ署名又ハ捺印ノ何レカ一方ノ存スヘキモノアルニ依リ一罪トシテ之ヲ處罰スルヲ至當ト認メラレタル結果ナルヘシ

第五 第六十條ニ行使ノ目的ヲ以テナル語ヲ加ヘサリシ理由如何
法文ニ公務所ニ提出スヘキ診斷書檢案書又ハ死亡證書トアレハ其事實ヲ知ル以上ハ別段其目的ヲ記載スルノ必要ナキニ因ルモノナルヘシ

第十八章 有價證券偽造ノ罪

第六十二條 行使ノ目的ヲ以テ公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券其他ノ有價證券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

行使ノ目的ヲ以テ有價證券ニ虛偽ノ記入ヲ爲シタル者亦同

第六十三條 偽造、變造ノ有價證券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第一 沿革

第一案 第二百二十七條 左ニ記載シタル文書、帳簿ヲ偽造シ又ハ變造シタル者ハ三等有期徒刑ニ處ス

- 一 判決書及ヒ裁判上ノ調書、始末書
 - 二 身分證書、其他人ノ權利ヲ證明スル公ノ文書、帳簿
 - 三 公債證書及其利札
 - 四 株式會社ノ株券
 - 五 爲替手形、約束手形、小切手、船荷證書、倉荷證書、其他信用證券
- 第二百三十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ其偽造、變造ニ係ル

文書、帳簿、切符ヲ使用シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ加フ
偽造、變造ニ與セスシテ之ヲ使用シタル者ハ偽造、變造シタル者ノ刑ニ同シ

第二百三十二條 此節ニ記載シタル輕罪ノ未遂犯ハ之ヲ罰ス

第二案 第八十七條 行使ノ目的ヲ以テ公債證書、會社ノ株券、其他ノ有價證券又ハ其裏書ヲ偽造若クハ變造シ又ハ詐偽ノ裏書ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第八十八條 偽造、變造又ハ詐欺ノ裏書ヲ爲シタル有價證券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ輸入シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

本條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第八十九條 本節ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪及ヒ監視ヲ附加スルコトヲ得

第三案 第八十八條 行使ノ目的ヲ以テ公債證書、會社ノ株券、其他ノ有價

證券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ二年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ有價證券ニ虛偽ノ記入ヲ爲シタル者亦同シ

第百八十九條 偽造變造ノ有價證券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル有

價證券ヲ行使シタル者ハ二年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

行使ノ目的ヲ以テ偽造變造ノ有價證券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタ

ル有價證券ヲ輸入シタル者亦同シ

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百九十條 第二案第百八十九條ニ同シ

第四案 第百八十七條 第三案第百八十八條ニ同シ

第百八十八條 第三案第百八十九條ニ同シ

第百八十九條 第二案第百八十九條ニ同シ

第二 參照法律

佛蘭西刑法

第百三十九條 二項 官ノ會計局ヨリ發行セシ記號アル國債ノ證券又ハ

法律ヲ以テ允許セシ銀行ノ手形ヲ贋造變造シタル者又ハ其贋造變造ノ
證券或ハ手形ヲ用ヒタル者又ハ其證券或ハ手形ヲ佛蘭西領地内ニ携
來リシ者

此等ノ犯人ハ無期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第百四十七條 書體及ヒ姓名ノ手署ヲ贋造變造スル事

契約書規則書義務ノ證書負債拂濟ノ證書ヲ贋造シ或ハ此等ノ書類ヲ記

了セシ後ニ竊ニ書入ヲ爲ス事

證書ノ章句又ハ本人ノ陳述スル所又ハ其證書ヲ以テ證ス可キ條件ヲ增

加シ又ハ變造スル事

此等ノ罪ヲ犯シテ公正ノ證書又ハ商業及ヒ銀行ノ書類ヲ贋造セシ官吏

外ノ者ハ有期ノ徒刑ニ處セラル可シ

第百五十條 第百四十七條ニ記シタル方法中ノ一ヲ以テ私書ヲ贋造シタ

ル者ハ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處セラル可シ

第百五十一條 其贋造シタル書類ヲ用ヒタル者ハ亦同上ノ刑ニ處セラル

可シ

獨乙刑法

第四百十九條 獨乙國又ハ獨乙北部連邦又ハ連邦諸國ノ政府又ハ外國政府及ヒ邑又ハ會計又ハ證券類發行ヲ許サレタル人等ヨリ發行シタル負債證券交換鋪紙券株金ノ證券及ヒ何人ヲ論セス證券ヲ持スル人ニ拂フヘキ假證券又之レニ換ルヘキ請取證券及利金證券配分證券(會社等ニテ配分スルコトアリ之レヲ)及ヒ再興證券等ハ皆紙幣ト同シク看做スヘシ

第二百六十七條 詐偽ヲ爲サントスルノ目的ニテ獨乙國或ハ外國ヲ論ヤス公證ノ文書(公證人代書人門監等ニテ認或ハ自己ノ權利ヲ證スル私證ノ文書ヲ變造シ又ハ贋造シ又人ヲ誘惑スル爲メ其ノ變造又ハ贋造シタル文書ヲ使用シタルモノハ文書ヲ變造シタル罪トナシ禁獄ニ處ス可シ)

第二百六十八條 己レニ利ヲ得ンカ爲メ又ハ他人ニ利ヲ得セシメン爲メ

或ハ他人ニ害ヲ加ヘン爲メ文書ヲ變造シタルトキハ其處刑左ノ如シ

第一 其變造セル文書私證ナルトキハ五年ヨリ長カラサル徒刑ノ外千「ターレル以下ノ罰金ニ處スルコトヲ得ヘシ

第二百六十九條 本人ノ承諾ナク或ハ其意ニ反シテ印章アル白紙(白紙トハ姓名ヲ記シテ餘白ヲ殘シ用事ノ都度ニ書キ入レヲナシ證書ト同様書キ入レル爲メニ設ケタルモノナク)ニ書キ入レヲナシ證書ト同様ニ爲シタル者ハ文書ヲ變造シタルト同ク論ス可シ

第二百七十條 變造贋造タルコトヲ知テ人ヲ誘惑スルノ目的ニテ其文書ヲ使用シタル者ハ文書ヲ變造シタルト同ク論ス可シ

白耳義刑法

第九十六條 凡ソ公私商賈ノ諸文書ニ偽名ヲ署シ或ハ書體ヲ變造シ若クハ偽造シ或ハ諸契約若クハ罷職ノ事ヲ書シ或ハ後ヨリ之ヲ填シ無實ノ事情ヲ本條ニ加ヘ或ハ之ヲ變造スル等ノ常人犯ハ皆監役

英吉利刑法典

一 詐欺ノ心ヲ以テ遺囑書ヲ偽造變造スル者及其偽造變造タルヲ知テ之